令和5年度

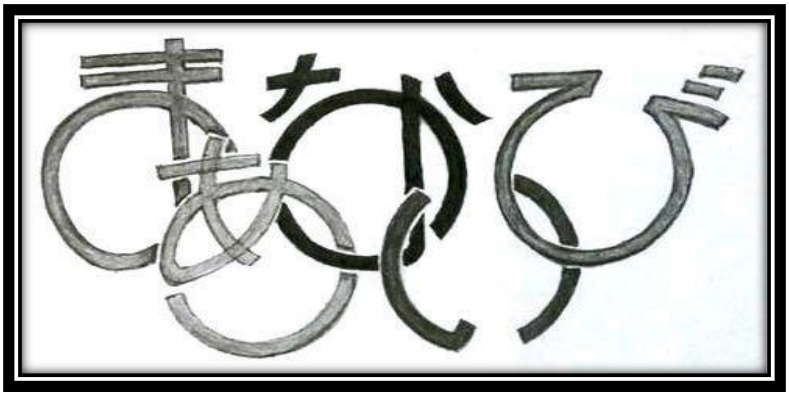
教 育 計 画

枚方市立第四中学校

〒573-0084 枚方市香里ヶ丘5丁目3番2号

TEL 050-7102-9195

FAX 072-854-0865



目　次

1. 学校経営

はじめに	1頁
学校経営方針	2頁
・校訓・学校教育目標・めざす学校像・めざす生徒像	
・本年度の重点目標・会議の位置づけ	
(1)校務分掌	6頁
(2)教職員構成(学年・教科・部活動)	7頁
(3)学年・学級編成	9頁
(4)学校医・学校薬剤師	9頁

2. 教育課程

(1)各教科等の時間配当　(2)週時程表	10頁
(3)教科横断計画表・各教科等の目標	11頁
(4)「情報教育」の年間計画	21頁
(5)「総合的な学習の時間」の全体計画	24頁
(6)「道徳教育」の全体計画と年間計画	25頁
(7)「特別活動の時間」の全体計画と年間計画	29頁
(8)人権教育の全体計画と年間計画	31頁
(9)食育推進全体計画と年間計画	34頁
(10)中学校区のキャリア教育全体計画	35頁
(11)学校保健・安全計画	36頁
(12)学年の目標	38頁
(13)分掌の目標と年間計画	40頁
(14)学力向上・四中メソッド	51頁
(15)体力向上推進計画	59頁
(16)枚方市小中一貫事業(四中学園モデル図)	60頁
(17)チャレンジテストの結果と分析	62頁
(18)学校教育自己診断の分析	63頁
(19)学校評価報告書	66頁

3. 施設配置・防災計画等

(1)教室配置図及び避難経路	69頁
(2)校地・校舎配置図	70頁
(3)校区地図	71頁
(4)いじめ未然防止計画	72頁
(5)防災計画	73頁
(6)水泳指導時の緊急対応等	75頁
(7)生徒の安全確保及び安全管理	77頁
(8)沿革の概要	78頁

はじめに

『努力・素直・創造』

「夢を語れる生徒を育成する！」

変化の激しい（情報化、グローバル化、AI）、先行き不透明（VUCA、Soceity5.0）な時代を生きる子どもたちにとって、真に必要な力は何か。その力を身に着けるために必要な学びとは何か。また、それを実現するために、学校に求められているものはいったい何かを考えた。

新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」「資質能力の三つの柱」「カリキュラムマネージメント」「主体的・対話的で深い学びの授業改善」を適切に実施し、令和の日本型学校教育「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するために、「何を」「いつまでに」「どのように」取組まなければならないのか。

まず、「自走する教職員集団」をめざして学校組織の改革を行った。人権教育と支援教育を基盤としたキャリア教育を学校全体で推進すべく、学級・学年・異学年集団における人間関係づくりを土台に、総合・道徳・特活を幹として、9教科の枝葉が連動し、総合的・系統的に「学び」の実現を図っていく。

「夢を語れる生徒を育成する！」をスローガンに、自己調整力（情報活用能力、言語能力、課題発見課題解決力）を高めるべく、全ての教育活動において、生徒は「あきらめない粘り強さ」や「失敗を恐れず挑戦する勇気」など見えない力（非認知能力）を自覚して鍛えるともに、教師はその見えな力（非認知能力）を意識して全ての指導にあたる。

「夢」は頑張る原動力である。「ワクワク感」は目標達成に立ちはだかる様々な困難を乗り越えるための元気の源である。学校は、社会に出るための準備段階にある子どもたちにとって、『自己決定』や『自己実現』の経験ができる貴重な場所であり、我々大人（教師・保護者・地域）はその機会を保障しなければならない。「子ども家庭庁」の創設や「子ども基本法」の制定の意味はそこにあるものと考える。

子どもたちは夢に向かって、学校という場で、失敗を繰り返しながら「自己決定」や「自己実現」を体感し、互いに絆を深め、成長する。子どもたちの自立に向けて、我々教職員一同は、保護者地域とともに、子どもたちの「居場所づくり」に全力で取組む所存である。

枚方市立第四中学校

校長　鴨田　慎司

令和5年度　学校経営方針

1. 校訓・スローガン

校訓　『努力・素直・創造』

「夢を語れる生徒を育成する！」

2. 学校教育目標

「学びあい、つながりあい、幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成」

〇互いに学びあい、共に成長していく力(**学力＆非認知能力**)

〇互いに認めあい、共に生きていく力(**人間関係力**)

〇互いに思いを伝えあい、共に未来を想像していく力(**探究力**)

3. めざす学校像

「学力＆非認知能力」の育成　⇒

・課題解決に主体的に取り組む学校(言語能力などを自覚させ、意識的に育成、ガマンも能力)

「人間関係力」の育成　⇒

・人(人権)を大切にできる学校(互いに注意ができ、失敗を許せる風土の向上、オリアイをつける)

「探究力」の育成　⇒

・誇れる地域のオンリーワンの学校(地域課題などホンモノの学び、自ら問いを立てる学び)

4. めざす生徒像

「自分で考え、判断し、行動できる生徒」

5. めざす教師像

・人生を楽しむことのできる教師(**人として魅力ある教師**)

・仕事を楽しむことのできる教師(**プロとして自覚ある教師**)

・プライベートを充実できる教師(**労務管理「タイムマネージメント」のできる教師**)

・**生徒の成長を喜びにできる教師**(生徒の失敗を引き出す安心感を与えることのできる教師)

・他人の**失敗を許すことのできる教師**(人間関係づくりが上手な教師)

・**生徒を信じることのできる教師**(謙虚で余裕のある教師)

・誰にでも**自分から挨拶のできる教師**(元気を与えられる教師)

・人との**約束を守ることのできる教師**(人として信頼される教師)

・**時間を守ることのできる教師**(自分に厳しい教師)

・TPO を弁えた**身だしなみのある教師**(組織人としての教師)

6. 本年度の重点目標

☆タブレットを有効活用した「学力、非認知能力」の育成

☆人間関係力の向上

☆探究力の向上

① 学習指導の充実

◎ 文科省の研究指定校として、一人一台のタブレットをツールとして有効活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす
◎ 企画委員会、学力向上委員会、教科部会、各分掌部会等を時間割の中に設定し、教職員が互いに研鑽し、学び合える組織体制を構築する。
◎ 学習規律についての指導を徹底し、定着を図る。
◎ 教科部会を充実させ、学力向上委員会との連携を密にする。
教科部会では、授業力向上のため単元計画の検討、授業づくりや進度の検討を行う
また、研究・公開授業の指導案の作成、テスト問題（活用問題）なども個人レベルではなく、教科として検討する。
◎「Hirakata 授業スタンダード」・「四中メソッド」に基づいた授業づくり、授業改善に向けた取組、評価方法等の研究を、学力向上委員会を中心として組織的に推進する。
◎ 特に言語活動を重視し、読み取る力・書く力・話す力・考える力の向上をめざす。
◎ 家庭学習の定着に向け、課題の研究・タブレットの活用に取り組み、とりわけ生徒自身が授業に積極的に参加する姿勢を育てるために予習の徹底を図る。そのために、単元計画を教室に掲示する。
◎ 基礎的・基本的な学力に課題を持つ生徒への支援を図る取組を進める。
◎ 授業アンケート・研究授業等に取り組み、授業力の向上を図る。
◎ 英語の少人数授業を実施し、きめ細かい指導を行う。
◎ 基礎的・基本的な知識及び技能の定着とともに、思考力・判断力・表現力等の育成、及び学びに向かう力、人間性等の育成に努める。
◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を分析・活用し、授業の検証・改善を図る。
◎ NET を積極的に活用し、英語教育のさらなる活性化を図る。
◎ 学校司書・司書教諭を中心とした読書活動の工夫や学校図書館の有効利用を図り、読書指導の充実に努める。
◎ ユニバーサルデザインによる環境整備を推進する

② 生徒指導の充実

◎ 生徒指導主事を中心とした生徒指導体制により、以下の方針に基づいて学校が一体となって適切な指導を行う。
●生徒指導は全教員で協力して行う。
・問題行動に直面した教師が看過せず第一段階の指導を行う
・当該学年が、担任・生徒指導担当を中心として指導にあたる
・生徒指導上の情報は出来る限り全員で共有する
●即日・即対応を原則とする。
●保護者との連携を大切にする
●全体集会・学年集会・学級指導を重視し、生徒集団の質を高め、自治・自浄能力を育てる。
・様々な生徒指導上の問題について生徒集団に問題提起し、主体的に考えさせる
・学級代表者会議を活用し、生徒主体の取り組みを創り出していく
●問題行動の予防・早期発見に努める
・班ノートや終礼等の日常活動を大切にし、教師間の情報交流を密にする
・教育相談、アンケート調査等の充実を図る
・スクールカウンセラーとの連携を密にする
●関係外部諸機関との連携を大切にする
◎ 関係機関等と連携し、不登校の問題に組織的に取り組む
◎ 各教科や道徳、総合的な学習の時間等の年間指導計画に情報モラル教育を位置づけ、学校教育全体で情報モラル教育を推進できるように努める
◎ 安全管理体制の充実を図り、学校の安全管理・生徒の安全確保に努める。
防災計画を必要に応じて見直し、日頃から教職員の連絡・配備体制について周知するとともに、災害に備えた危機管理体制の確立を図る
◎ 日々の清掃活動を大切にし、環境教育を推進し、「S-EMS」に取り組む

③ **人権キャリア教育の充実**

【人権】

◎ 人権教育の校内体制を整備し、担当教員を中心として組織的な取組を推進する。
◎ 同和教育をはじめとした反差別の立場に立った人権教育を推進する
◎ 同和教育、共生教育（在日外国人、障がいのある人、多様な性、人種、民族）、平和学習、国際理解教育等に、生徒が自分自身の問題として考え行動できることをめざして取り組む。
◎ 上記の様々な課題を自分事として考えることで、自分の身の回りの「いじめ」等の人権問題に目を向け、解決に向けて行動できる生徒、及び生徒集団の育成をめざす
◎ 生徒一人ひとりが活躍できる場を積極的に作り、いろんな場面で自分の力を発揮させるように努め、自己肯定感を高める
＊ 研修等を通じて、教職員の人権意識の向上に努める

【進路】

◎ 進路指導主事を中心とした校内進路指導体制を確立する。
◎ 生徒一人ひとりの考え方、生き方を大切にし、人権に十分配慮した適切な指導を行い、すべての生徒の進路保障をめざす。

【キャリア】

◎ キャリア教育の国内体制を整備し、担当教員を中心として組織的な取り組みを推進する。
◎ キャリア教育を推進する中で、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランイング能力を育む。
◎ 地域の人材等の活用による職場体験学習や職業講話など、進路にかかわる啓発的な体験活動を積極的に取り入れ、指導の充実を図る。
◎ 生徒一人一人の勤労観・職業観を育み、主体的に進路を選択できるようキャリア教育の充実に努める。また、学校教育活動全体を通じて系統的・継続的な指導を推進する。

④ **支援教育の充実**

◎「ともに学びともに育つ教育」を推進する。
◎ ノーマライゼーション・インクルーシヴ教育の理念を踏まえ、支援教育の推進に努める。通常の学級において、積極的にユニバーサルデザインによる授業づくりに取り組むなど、障がいのある生徒への理解を深め、全校的な支援体制を確立する。
◎ 個別の指導計画、教育支援計画をもとに指導方法の研究を深め、生徒本人や保護者の意向を尊重し、十分な配慮のもとに取り組む

⑤ **道徳教育の充実**

◎ 教科としての道徳の重点目標・全体計画・年間指導計画等の作成や指導方法の工夫改善に取り組む。
◎ 道徳教育推進教師を中心に、各教科・特別活動・総合的な学習との関連を踏まえて取り組む。
◎ よりよい評価の在り方について継続的に研究する。

⑥ **開かれた学校運営の推進**

◎ 通信、ホームページ（ブログ）等を活用し、学校からの情報（学校の取組・生徒の様子など）を保護者や地域に積極的に発信する。
◎ 家庭・地域との連携を図り、相互理解を深める。
◎ 学校教育自己診断・協議会形式での学校評議員等の外部評価を活用し、学校運営の改善を図る。
◎ 保護者・地域の協力のもと、あいさつ運動・緑化活動等を積極的に推進する。

⑧ **小中一貫事業の継続**

◎ 第四中学校区（四中、五常小、開成小、山之上小）として、小中連携を推進する。
◎ 義務教育9年間を見据えた指導により、「学習規律の定着」、「学びの連続性の確立」、「きまりを守る等の規範意識の醸成」、「生きる力の育成」を図る。
◎ 中学校区として取り組んできた、事務部門における小中事務連携をさらに推進する。

7. 会議の位置づけ

□ 職員会議・・・定例月1回

1. 職員会議の位置づけ
・「枚方市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則」に基づき運営する。
・校長の職務の円滑な執行を図るため、校長が招集し、主宰する。
・校務に関する事項について教職員間における意思疎通、共通理解の促進、意見交換等を行う。

2. 職員会議の留意事項
・教職員は、職員会議で意見を表明し、議案を提出することができる。
・職員会議に、欠席、遅刻する場合は、管理職の承認を得るとともに議長に連絡する。
・議案の提案者は企画委員会で管理職の承認を得て、職員会議の前日までに議案を提示する。会議中の提案は原則として採り上げない。
・職員会議の円滑な運営を図るため、議案の提案者は事前に提案方法や時間等について議長と十分協議す

る。また、議長は校長に運営方法について事前に了解を得る。
・職員会議の欠席者は、会議録で内容を把握し、確認しておく。また、書記は議事録を作成する。

□ 企画・運営委員会（提言機関）・・・週1回

・本委員会の構成メンバーは、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、進路研究担当、人権キャリア教育担当、支援主担、生徒会代表からなる
・本委員会は、教職員等のアイデアを学校運営に反映し、ボトムアップの学校改革を行うために組織する
・本委員会は、週1回開催し、学校の諸課題を解決するための意見交流を行うことにより、学校改革を積極的に推進する。

□ 学力向上委員会（提言・研究機関）・・・月1回（学習部会を兼ねる）

・本研究会の構成メンバーは、校長、教頭、学習部、各教科一人とする。
ただし、学習部は教科を兼ねるため、今年度は保健体育・技家各代表が参加する。
・本研究会は月1回開催し、学力向上に向けた様々な取り組みについて研究・提言するとともに、『四中メソッド』の授業や評価規準や評価の方法等、評価システムの検証について研究し、提言する。

□ キャリア教育企画チーム・・・週1回

・本研究会の構成メンバーは、校長、教頭、キャリア教育主担者、学年主任、進路担当とする。
・キャリア教育について、企画運営し校内のキャリア教育を推進する。

□ TPT 委員会（研究機関）・・・学期1回

・本委員会のメンバーは校長、教頭、ICT 活用部、支援教育主担、各教科代表、（ICT サポート員）とする
・主に一人一台のタブレットを活用した授業実践の交流を行う

□ 宿泊行事・校外学習委員会（集約・決定機関）・・・随時

・本委員会のメンバーは、校長・教頭・各学年主任及び各学年校外学習係代表とする
・修学旅行、校外学習の目的、行き先、内容について、検討・決定を行う

□ その他、時間割に組み込み、週1回定例的に実施する会議

・教科会・教務部会・生徒指導部会・ICT 部会・人権部会・キャリア部会・生徒会
・道徳部会・支援教育部会

□ 学校評議員会（諮問機関）・・・随時

・開かれた学校づくりに資するために、学校評議員会を設置する
・各方面の有識者に意見を求め、学校運営について諮問する

(1)校務分掌

教　務　主　任	小山
生徒指導主事	井手
進路指導主事	林
保健主事	山口
1学年主任	今井
2学年主任	山本
3学年主任	北畑
人権教育主担	諸沢
道徳教育推進教師	川上
小中一貫教育推進リーダー	髙橋
司書教諭	山崎

校　長　鴨田

教　頭　中村

学校評議員会

○企画・運営委員会(小山)
小山・井手・高橋
今井・山本・北畑
岩本・平山・碧山・田中

職　員　会　議

分掌		部長	仕事内容	主担	1年	2年	3年
総務部	総務	田中	総務	田中	田中・丸住・校務員・学年会計		
教務部	教務	小山	教務	小山	前川・河野	北川・藤本	小山・三浦
研究部	学習	高橋	授業研究・学力向上	高橋	交河・大内	鎗屋・碧山・綿世・宇井	石田
			ICT活用		松澤	井川	講師
	人権キャリア		人権教育	岩本	中村	藤田	諸沢
			総合・特活・道徳		今井・奥田	山本・穴田	北畑・川上
			進路指導				林・松野
指導部	生徒会	井手	生徒会運営	平山	栗田・北山・神田	神野・橋本	山形・山崎
	生徒指導		生徒指導	井手	佐々木	山口	大川原・阪上
			保健・安全指導		飯野	佐藤	神谷

支援教育コーディネーター：碧山　支援教育委員会　校長・教頭・生徒指導主事・支援Co・養護教諭・SC・学年主任・各担任

○各教科代表			
国語	河野	音楽	宇井
社会	石田	美術	三浦
数学	大川原	保体	山形
理科	山崎	技家	松澤
		英語	平山

PTA
会計：教頭　書記：小山
1年：今井　環境整備:神谷　会員研修:岩本
2年：山本　生活指導:井手　保健衛生:佐藤
3年：北畑　広報:平山　緑化:教頭　フェスタ:教頭・高橋

○初任期教職員指導コーディネーター:大内
※初任期(1～3年目)教職員研修

○エコスクール推進委員　神谷

○虐待対応委員会　:井手

○いじめ防止・不登校委員会
校長・教頭・生徒指導主事・養護教諭・支援担(1名)
SC・各学年生徒指導(1～2名)

○校務・情報管理　校務:小山・三浦
C4th:北川
情報教育・ｾｷｭﾘﾃｨ、ICT環境整備担当:宇井
1年:松澤　2年:井川 3年:講師

○ハラスメント防止委員会(校長・佐藤)
校長・教頭・小山・佐藤
随時メンバー招集

○衛生委員会(教頭)
校長・教頭・井手・佐藤・岩本

○食育推進(食物アレルギー対応)委員会
校長・教頭・生徒指導主事・養護教諭

○校外学習等選定委員会
校長・教頭・学年主任・キャリア教育担当

○学校安全担当者(教頭)
校長・教頭・小山・井手

○TPT委員会　宇井・各教科代表・ICTサポート員

○少人数指導担当者　英語:平山

＊生徒指導部会にICT主担・支援Co・SC・不登校支援員も参加。＊学習部会(学力向上委員会)に教科代表・進路指導主事が参加。

○学校保健委員会:校長・教頭・養護教諭・校医・PTA役員代表

○地域教育協議会書記:井手・高橋、情報交流:学年主任

(2)教職員構成

① 学年配置等

校長	鴨田　慎司	教頭	中村　拓実	生徒指導主事	井手　佑紀

第1学年担当		第2学年担当		第3学年担当	
（学年主任） 今井　祐樹		（学年主任） 山本　一希		（学年主任） 北畑　美保	
1組	栗田　耀	1組	宇井　咲良子	1組	山崎　美奈
2組	神田　宗紀	2組	井川　結友	2組	諸沢　征志
3組	今井　祐樹	3組	北川　里帆	3組	北畑　美保
4組	交河　望	4組	穴田　早麗	4組	三浦　愛美
5組	奥田　真凡	5組	山本　一希	5組	山形　紀保
6組	佐々木　亮祐	6組	神野　郁	6組	石田　淳一郎
		7組	綿世　徳光	7組	川上　漢
副担任	北山　雅規	副担任	藤本　敏朗	副担任	松野　哲也
副担任	河野　葵	副担任	岩本　直己	副担任	小山　美穂
副担任	松澤　眞治	副担任	山口　睦美	副担任	林　健一郎
副担任	前川　和之	副担任	藤田　千里	副担任	平山　古都
副担任	大内　崇嗣	副担任	鎗屋　育子	副担任	大川原　亜衣
養護教諭	佐藤　弘美				

支援学級担任	碧山　祐子	支援学級担任	神谷　翠子	支援学級担任	飯野　眞理子
支援学級担任	橋本　淳一	支援学級担任	阪上　尚久	支援学級担任	中村　康代
学力主担	髙橋　大輔	主事	田中　友香	主事	丸住　英美
支援学級非常勤講師	津田　正弘	不登校支援員	川添　満子	不登校支援員	伊東　陽子
音楽科非常勤講師	石澤　有梨奈	NET	Tavis Allen	SC	遠藤　昌子
司書	吉田　美恵子	校務員	北落　創	施設管理人	近藤　時夫
施設管理人	上野　一良	施設管理人	谷川　美代子	施設管理人	安田　稔
看護師	柳田　八重子	看護師	福井　理恵	看護師	近藤　由美

② 教科担当等

教科	名 前	教科	名 前	教科	名 前	教科	名 前
国語	北畑 美保	数学	高橋 大輔	保体	岩本 直己	支援	碧山 祐子
	栗田 耀	理科	奥田 真凡		佐々木 亮祐		神谷 翠子
	綿世 徳光		大内 崇嗣	技術	○松澤 眞治		阪上 尚久
	松野 哲也		○山崎 美奈	家庭	小山 美穂		橋本 淳一
	○河野 葵		穴田 早麗	英語	交河 望		中村 康世
社会	北山 雅規		井川 結友		今井 祐樹		飯野 眞理子
	藤本 敏朗	音楽	石澤 有梨奈		北川 里帆		津田 正弘
	神田 宗紀		○宇井 咲良子		鎗屋 育子		
	○石田 淳一郎	美術	前川 和之		川上 漢		
数学	神野 郁		○三浦 愛美		○平山 古都		
	山本 一希	保体	山口 睦美	NET	Tavis Allen		
	○大川原 亜衣		諸沢 柾志				
	林 健一郎		○山形 紀保				

③ 部活動顧問

部 名	顧 問 名			
陸 上	山口	北川	橋本	
野 球	諸沢	神野	北畑	
サッカー	林	山本	井手	
ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	大内	神谷	三浦	
バレー(女)	栗田	山形	佐々木	
バスケ(男)	岩本	今井	平山	
バスケ(女)	松野	穴田	碧山	
テニス(男)	松澤	北山	前川	
テニス(女)	神田	藤本	藤田	

部 名	顧 問 名			
剣 道	小山	石田	北畑	
卓 球	井川	髙橋	大川原	
水 泳	川上	山崎		
茶 華 道	佐藤	中村や	綿世	
演劇	佐藤	中村や	綿世	
マンガイラスト	河野	鎗屋	交河	阪上
マルチメディア	河野	鎗屋	交河	阪上
吹奏楽	宇井	奥田	飯野	

<外部指導員>

茶華道	田崎 英美	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	古園 宏洋	女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	長屋 太一
		吹奏楽	坂之上 篤	吹奏楽	田口 秀男

(3)学年・学級編制(5月1日現在)

学級	第一学年			第二学年			第三学年		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1	19	21	40	17	18	35	19	18	37
2	20	20	40	17	19	36	20	18	38
3	20	20	40	18	18	36	20	18	38
4	20	20	40	17	18	35	19	18	37
5	19	21	40	18	18	36	20	18	38
6	19	20	39	17	18	35	20	18	38
7				17	18	35	19	18	37
支援	4	5	9	5	2	7	4	2	6
計	117	122	239	121	127	248	137	126	263
						総合計	375	375	750

(4)学校医・学校薬剤師

科目	氏名
薬剤師	太田　文二
内科医	友田　伊一朗
内科医	藤本　良知
歯科医	光井　了
歯科医	紅露　吉浩
歯科医	北川　祐介
眼科医	岡田　康平
耳鼻科医	伊東　明彦

2. 教育課程

(1)各教科等の時間配当

学年		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語
1	週	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4
	年	140	105	140	105	45	45	105	70	140
2	週	4	3	3	4	1	1	3	2	4
	年	140	105	105	140	35	35	105	70	140
3	週	3	4	4	4	1	1	3	1	4
	年	105	140	140	140	35	35	105	35	140

学年		道徳	特別活動	総合的な学習	教科等合計
1	週	1	1	1.4	29
	年	35	35	50	1015
2	週	1	1	2	29
	年	35	35	70	1015
3	週	1	1	2	29
	年	35	35	70	1015

(2)週時程表

日課表(通常版)			
予鈴	8:35		
出欠など	8:40	～	8:50
1限	8:50	～	9:40
2限	9:50	～	10:40
3限	10:50	～	11:40
4限	11:50	～	12:40
昼食	12:40	～	13:20
5限	13:25	～	14:15
6限	14:25	～	15:15
清掃	15:15	～	15:30
終礼	15:30	～	15:40
クラブ		～	16:45
クラブ延長		～	17:45

※原則、17:00完全下校(クラブ延長の生徒を除く)

＊定期テスト１週間前からは、部活動を中止します。
＊部活動の延長がある場合は、18:00完全下校となります。

（3）教科横断計画表・各教科等の目標と課題・方策

1年生　年間計画（教科横断計画表）

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	男体育	女体育	保健		技術	家庭	英語	特活	道徳	総合
4月	・朝のリレー② ・図書館オリエンテーション① ・竜④	・世界の姿⑦	正の数・負の数⑨	自然の中にあふれる生命⑨ いろいろな生物とその共通点⑨ ・植物の分類とその特徴 ・動物の分類とその特徴	歌唱 校歌 器楽 リコーダー 鑑賞 「春」 音楽のポイントに注目して聴こう ⑧	広がる模様の世界（色学習）⑦	体つくり運動⑦（スポーツテスト・ラジオ体操）		心身の発達と心の健康⑮（主体と環境・調和のとれた生活）	体育理論③	技術分野のガイダンス②	食事の役割と中学生の栄養の特徴③ 食品に含まれる栄養素① 何をどれぐらい食べればよいか① バランスのよい献立づくり②	Starter1~3 文字、月、曜日教科、1日の行動③ Lesson 1【be動詞、一般動詞（1,2 人称）】自己紹介④ 【自己紹介】 【他人紹介】	学級開き・学級づくり 自己紹介 共生社会学習 校外学習にむけて	困難を乗り越える力 公徳心，公共の精神 公正，公平，社会正義　④	学年取組⑩
5月	・ペンギンの防寒着① ・クジラの飲み水④ ・文法「文・文節・単語」⑤ ・書写④	日本の姿⑥ 世界各地の人々の生活と環境⑥	正の数・負の数⑫				機械運動⑩（マット）				材料と加工の技術の原理・法則と仕組み⑨		G.P1 【What…?】「どんな…が好きですか？」② 文法のまとめ① 【日本食と世界の食べ物】	校外学習にむけて 生徒総会にむけて	向上心，個性の伸長 文化の尊重，国際理解 よりよい学校生活，集団生活の充実④	
6月	・空中ブランコ乗りのキキ⑥ ・意味と意図⑥ ・音読テスト② ・レポート②	歴史への扉③ 世界の古代文明と宗教の起こり⑥	正の数・負の数④ 文字の式⑩		歌唱 2部合唱 器楽 リコーダー 創作 「リズム曲を作ろう」⑧	文字っておもしろい（カップ麺のデザイン）⑧	サッカー⑩						Lesson 2【can】の英文⑨ G.P2 【 How many …?】② 文法のまとめ① 【自己紹介】 【他人紹介】 【数字】	避難訓練	礼儀の心 自然を愛する 自然に感動する心 節度，節制 お互いを認め合う 支え合う家族 よりよく生きる喜び⑦	体育祭 文化祭③
7月	・字のない葉書④ ・書写② ・部首と成り立ち① ・本を読むことのおもしろさ②	日本列島の誕生と大陸との交流③ 古代国家の歩みと東アジア世界⑤	文字の式⑫	光・音・力による現象㉘ ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象			水泳⑦ クロール・平泳ぎ					どうして衣服を着るのだろう① 私たちとT.P.O① 衣服計画と必要な衣服の選択③ 作って楽しい布製品④	Lesson 3【be動詞（3 人称）】異文化、自分の町・国紹介【Who is…?】⑧ 【ハガキ】 【日本文化紹介】 【情報】	平和学習 ビブリオバトル 1学期の反省		
8月 9月	・月を思う心② ・竹取物語⑥ ・玄関扉⑤ ・グループディスカッション③ ・三角ロジック②	古代国家の歩みと東アジア世界③ 世界の諸地域-1アジア州⑦	方程式⑥ 変化と対応②		歌唱 「赤とんぼ」 器楽 リコーダー 鑑賞 「魔王」⑨	暮らしの中の木の造形（寄せ木アート）⑨ 鑑賞との出会い②	水泳③ 球技⑦ （バレーボール）						Take Action! 【商品の説明】② 文法のまとめ① 文房具のチラシを読む① Project 1 理想のロボットを発表する③ 【チラシの読み取り】 【理想のロボット】	2学期のはじめに	国際理解　①	
10月	・スピーチ② ・文法「単語の種別・品詞・名詞」⑤ ・故事成語「矛盾」⑤ ・書写②	世界の諸地域-2ヨーロッパ州⑤ 世界の諸地域-3アフリカ州④	変化と対応⑫	身のまわりの性質⑨ ・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化			球技③ （バレーボール） 剣道⑦				材料と加工の技術による問題解決③	衣服の手入れ③ よりよい衣生活を目指して② 生活を豊かにする工夫①	Lesson 4【一般動詞（3 単現）】 イギリスについて⑨ Take Action! 【アナウンス】② G.P3【Which】① 文法のまとめ、人称代名詞① 【イギリス】	生徒会役員選挙にむけて	勤労 つながる生命 災害時、わたしたちにできること　④	体育祭 文化祭⑩
11月	・行事案内リーフレット④ ・文法「副詞・連体詞・接続詞・感動詞」⑤ ・みんなでいるから「大丈夫」の怖さ④	世界の諸地域-4北アメリカ州⑤ 世界の諸地域-5南アメリカ州④	変化と対応④ 平面図形⑩				剣道③ 持久走⑦						Lesson 5【現在進行形】アメリカの学校生活。メールを書く。⑨ Take Action! 【映画の紹介】② G.P4【Whose】 所有格代名詞① 文法のまとめ① 【アメリカの学校】 【学校紹介】	ビブリオバトル 職業講話にむけて	郷土芸能を伝える 勤労 ②	職業講話⑦
12月	・漢字をみにつけよう② ・それだけでいい③ ・書写⑧	世界の諸地域-6オセアニア州④ 世界の諸地域まとめ⑥	平面図形① 空間図形④	活きている地球③ ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地	歌唱 混声3部合唱 器楽 リコーダー 鑑賞 日本の民謡 ⑧	なぜか気になる情景（アートグラス）⑧	持久走③ 陸上競技 （ハードル）⑤					日本の食文化と和食の調理③	Lesson 6【一般動詞過去形】日本伝統文化紹介、日記⑨ Take Action! ボイスメッセージ① 道案内① 文法のまとめ① 観光マップを読む① Project 2 タウンガイドを作る。③ グリーティングカードを送る② 【日本文化】【花火】【思い出日記】 【道案内】【地図】	性教育 人権学習 2学期の反省	理想に向かって 公平とは何か 弱さを乗り越え生きる 言葉のもつ不思議な力 迷いを乗り越えて 友情，信頼 よりよい社会のために ⑦	
1月	・百人一首① ・少年の日の思い出⑦ ・意見文④ ・書写②	武士の政権の成立⑥ ユーラシアの動きと武士の政治の展開④	空間図形②		歌唱 混声3部合唱 器楽 箏 創作・理論 音の長さの聴き取り②	印象に残るシンボルマーク（私のマーク）⑥	陸上競技（ハードル）⑤					住まいの役割① 生活行為と住空間②	Lesson 7【be動詞の過去形、過去進行形】車いすバスケを知る。⑨ Take Action! インタビュー②	人権学習 学年行事にむけて	失敗から学んだ希望　①	まとめ⑧ （小中交流会）
2月	・トロッコ⑥ ・方言と共通語① ・即興劇③ ・書写②	ユーラシアの動きと武士の政治の展開③ ヨーロッパ人との出会いと全国統一⑦	空間図形③ データの活用⑧				球技⑤ （バスケットボール）					日本の住まいと住まい方② 安全で安心な住まい②	G.P5【look + A】① 文法のまとめ① Lesson 8【未来の表現】イベント案内、Green Festival、環境問題⑨ Take Action! 天気予報② 【車椅子バスケ】 【偉人紹介】 【インタビュー】 【富士山と環境】 【天気予報】	学年行事 進路学習 進路学習	つながりが生み出す力 社会のきまり 友情，信頼 ③	職体準備 ⑤
3月	・グループ新聞⑥ ・歌の言葉① ・文法のまとめ③	江戸幕府の成立と対外政策⑤ 地域調査の手法⑥	データの活用③			発想課題④	球技 （バスケットボール）⑤				社会の発展と材料と加工の技術③	健康で快適な住まい② よりよい住生活を目指して①	G.P6【Can you…?】依頼する、承諾する① 文法のまとめ① Project 3 大切なものを紹介する。③ 物語を読む。③ 【大切なもの】 【スピーチ】	3学期の反省 2年生にむけて	誠実な生き方 友情，信頼 ②	

2年生　年間計画(教科横断計画表)

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育		保健		技術	家庭	英語	特活	道徳	総合
4月	・名づけられた葉③ ・セミロングホームルーム⑤ ・文法「敬語」② ・書写②	・世界の諸地域(南アメリカ州)③ ・世界の諸地域(オセアニア州)③ ・地域調査の手法④	式の計算⑦	化学変化と原子・分子④ ・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量	歌唱 混声3部合唱 器楽 リコーダー 鑑賞 「交響曲第5番ハ短調」⑥	その一枚が人を動かす(ポスター作成)⑦	体つくり運動⑩		健康な生活と病気の予防(生活習慣病・薬物乱用・傷害の防止⑮	体育理論③	情報の技術の原理・法則と仕組み③	食事の役割と栄養素の特徴③ 食品に含まれる栄養素① 何をどれぐらい食べればよいか①	Starter This Month's Books Lesson1 Peter Rabbit 【接続詞 when, if, that】⑥ 【ピーターラビット】 【シャーロックホームズ】	学級開き 学級づくり 自己紹介 人間関係つくり	自分の弱さの克服 公徳心、公共の精神 自分を信じて ④	人間関係つくり 共生社会学習
5月	・じゃんけんは、なぜグー・チョキ・パーの三種類なのか③ ・人間は他の星に住むことができるか④ ・枕草子⑥ ・書写②	・日本の地域的特色と地域区分⑩	式の計算⑤ 連立方程式④				バレーボール⑩				情報のデジタル化① ネットワークの仕組み① 文字入力ソフト④ 安全に利用するための情報モラルとセキュリティ②	バランスのよい献立づくり①	Lesson1 Take Action!1 【聞き手が必要な情報を聞き取る。】 【質問する。情報を付け加える。】 GET Plus1 May I ~ ? 文法のまとめ1 接続詞⑭ 【図書館の案内】	宿泊学習にむけて	本当の友達 文化の尊重 国際理解 ④	宿泊学習にむけて 宿泊学習
6月	・短歌の世界② ・短歌十首③ ・創作「短歌・俳句」③ ・暗唱② ・書写③	・ユーラシアの動きと武士の政治の展開⑦ ・ヨーロッパ人との出会い④	連立方程式⑫		歌唱 イタリア歌曲 器楽 リコーダー 創作 リズムアンサンブル⑦		器械運動(跳び箱)⑩					調理のための食品と食品の選択購入⑤ 日常食の食文化の地域と食文化⑤	Lesson2 My Dream 【不定詞 to +動詞の原形】 Project1 英語を話す Take action!2 話し手が伝えたいことを聞き取る。 意見を言う。 賛成する。 GET Plus2 It is … (for A) to ~. 文法まとめ2 to 不定詞など⑫ 【自分の夢】 【職場体験】	避難訓練	支え合う生命 人の思いやりへの感謝 国際社会の一員 自然環境を守る 規則の役割 自然の偉大さ 地域の祭りの大切さ 真実を追い求める ⑦	進路学習①
7月	・壁に残された伝言③ ・夏の課題② ・書写① ・グループディスカッション④	・ヨーロッパ人との出会い⑤ ・日本の諸地域(九州地方)④	一次関数⑩	生物の体のつくりとはたらき⑨ ・生物のからだをつくるもの ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ		暮らしに息づくパブリックアート(アート鑑賞)①	水泳 クロール 平泳ぎ				プログラミング製作②		Lesson3 Every Drop Counts 【There is [are] ~.】 【動名詞 ~ing.】 GET Plus3 [must] 文法まとめ3 There is [are] ~. 動名詞など⑫ 【環境問題】 【ワルカプロジェクト】 【サイコロトーク】	非行防止教室 職業体験にむけて 1学期の反省		
8月・9月	・文法②「用言」 ・手紙・メール③ ・共生社会に関するデータ・自立とは「依存先を増やすこと」④ ・投稿文③	・日本の諸地域(中国・四国地方)④ ・日本の諸地域(近畿地方)⑤	一次関数⑫		歌唱 混声3部合唱 器楽 リコーダー 鑑賞 「オペラ・歌舞伎」⑥	つくって使って味わう工芸(ナイフ作り)⑨	ダンス⑩				ディジタル作品の設計と製作④	日常食の調理③ 生活を豊かにするために⑤	Lesson4 Uluru 【動詞(give, call, make など)+A+B】 Take Action!3 聞き手が必要な情報を聞き取る。 つなぎ言葉を使う。 詳しい説明を求める。 GET Plus4 [have to]⑫ 【ウルル】 【空港のアナウンス】	2学期のはじめに 人間関係つくり	いじめへの公正な態度 ①	人間関係つくり 体育祭 文化祭③
10月	・漢詩の世界⑧ ・徒然草⑥ ・書写②	・日本の諸地域(中部地方)⑤ ・日本の諸地域(関東地方)⑤	一次関数② 図形の性質と証明⑧	地球の大気と天気の変化③ ・地球をとり巻く大気のようす ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季	歌唱 混声3部合唱 器楽 ギター ④	人が生きる社会と未来(リサイクル作品)⑦	陸上(走幅跳)③				わたしたちの生活と生物育成② 作物の栽培②		文法のまとめ4 SVOO / SVOC など Reading1 Lesson5 Things to Do in Japan 【longer than ~ / the longest in ~】 【more popular than ~ / the most popular of ~】 【as cute as ~ / walk faster than】⑭ 【日本と世界を比較】【日本の観光】	生徒会役員選挙にむけて	社会のためにできること 節度・節制の大切さ 災害時、わたしたちにできること ④	職業体験にむけて 人権学習 職場体験学習③
11月	・文法②「用言」 ・書写① ・動物園でできること④ ・論説文③ ・プレゼンテーション③ ・100年後の水を守る③	・日本の諸地域(東北地方)④ ・日本の諸地(北海道地方)④	図形の性質と証明⑨				バスケットボール⑩				動物の育成① 水産生物の栽培① 生物育成に関する技術とわたしたち②	私たちの消費生活⑥	Take Action!4 話し手が伝えたいことを聞き取る。 誘う。 誘いに応じる、誘いを断る。 GET Plus5 【how to ~】 文法のまとめ5 比較など Project2 英作文⑭ 【修学旅行の提案】	性教育	社会への貢献心を形に ② 初心に返る わかり合うこと 個性を尊重する社会 輝く生命 私たちでつくる校風 真の友情 家族のきずな ⑦	プレゼン発表に向けて 職場体験プレゼン発表
12月	・大阿蘇③ ・文法「助詞・助動詞」⑤ ・私の「枕草子」「徒然草」② ・書写②	・地域の在り方④ ・江戸幕府の成立と対外政策⑤	図形の性質と証明⑥	電流とその利用③ ・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界	歌唱 混声3部合唱 器楽 リコーダー ②						ディジタル作品の設計と製作③		Lesson6 Tea from China 【have lived ~】⑭ 【中国のお茶】	ビブリオバトル 2学期の反省		
1月	・平家物語⑤ ・暗唱② ・書写②	・産業の発展と幕府政治の動き⑥ ・欧米における近代化の進展④	場合の数と確率⑧		歌唱 混声3部合唱 器楽 リコーダー 鑑賞 世界の諸民	水と筆を操る(扇子のデザイン)⑦	持久走⑩				プログラムによる計測・制御③	責任ある消費者になるために⑤	Take Action!5 話の全体的な内容を聞き取る。 申し出る。 困っていることを伝える。 GET Plus6 【Could you ~?】 Lesson7 Rakugo Goes		友情と好意 ①	
											情報に関する技術の評価・活用②		【have just finished ~】⑭ 【英語落語】			
2月	・走れメロス⑦ ・文法「まとめ」③ ・情報誌② ・書写① ・プレゼンテーション③	・欧米の進出と開国⑤ ・明治維新④	場合の数と確率④ 箱ひげ図とデータの活用⑨				ソフトボール⑩						Take Action!6 話し手が伝えたいことを聞き取る。 意見を言う。 反対する。 文法のまとめ6 現在完了形(継続・完了・経験など) Project3 英語で意見を述べ合う⑭ 【ディスカッション】	学年行事にむけて	強く気高く生きる インターネット上の責任ある言動 日本人としての誇り ③	進路学習②
3月	・小さな手袋③ ・創作文② ・書写④	・明治維新⑤ ・日清・日露戦争と近代産業⑤	1年間の復習⑨			動きを生かして印象的に(動画づくり)④					わたしたちの生活とエネルギー変換③		Reading2⑭ 【宇宙】	学年行事 3学期の反省 3年生にむけて	懸命に生きる ②	

3年生　年間計画(教科横断計画表)

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	男体育	女体育	保健		技術	家庭	英語	特活	道徳	総合
4月	・岩が② ・握手⑥	第一次世界大戦と日本⑧ 世界恐慌と日本⑤	式の展開と因数分解⑫	生命の連続性② ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	歌唱 「花」 器楽 リコーダー 「星の世界を」 鑑賞 モルダウ 創作・理論 音楽記号 ①	今を生きる私へ (自画像)⑦	体つくり運動⑦ ○ラジオ体操 ○スポーツテスト		健康な生活と防犯・安全の確保と環境⑥	体育理論⑥	わたしたちの生活とエネルギー変換③	幼児の生活と遊び⑥	Starter "stand by me" "True Colors" Lesson1 【現在完了進行形】⑩ 【ベン・E・キング】 【シンディー・ローパー】 【文化祭での出し物】	学級開き・学級づくり 自己紹介 共生社会学習 修学旅行にむけて	より高い目標をめざして 公徳心 公共の精神 日本の伝統文化 ④	修学旅行取組⑤
5月	・俳句の世界① ・俳句十句④ ・俳句発表③ ・四字熟語①	第二次世界大戦と日本⑦ 戦後日本の発展と国際社会⑦	式の展開と因数分解⑧ 平方根④				サッカー⑥	陸上(高跳び)⑥					Use Read Use Speak Take Action!1 【避難訓練での必要な情報を捉える。】 文法のまとめ1⑤【避難訓練】	修学旅行にむけて	本当の友情とは 文化の尊重 国際理解　③	
6月	・間の文化⑤ ・「批判的に読む」とは② ・説得力のある文章を書く③ ・希望③	戦後日本の発展と国際社会⑥ 新たな時代の日本と世界⑦	平方根⑮	化学変化とイオン⑳ ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩		鑑賞課題① (花)	陸上(ハードル)⑩	バスケットボール⑩				調理をしよう② 環境に配慮した生活②	Lesson2 【受け身形】 Use Read Use Write Take Action!2 【旅行の行先の相談】 文法のまとめ2 Project1 【日本限定アイスクリームの提案】⑨ 【インド】 【おすすめの日本語】	避難訓練 修学旅行振り返り	自分を抑える力 おもてなしの心 人類愛、つながる命 自然とともに生きる 自律的な生き方 夢の実現 自分に大切な勤労の尊さ ⑦	ハイスクールレポート⑮ 体育祭 文化祭 ⑤
7月	・文法復習④ ・フロン規制の物語④ ・日本のガイドブック 調べ学習②	現代社会の特色と私たち⑤ 私たちの生活と文化③ 現代社会の見方や考え方⑤	二次方程式⑫			心のイメージを形に(砂絵)③	水泳⑩ (4泳法)	水泳⑩ (4泳法)			電気エネルギーの利用①		Lesson3 【後置修飾(動詞の-ing形、過去分詞)】 Use Read Use Write Take Action!3 【野球といえば　】　GET Plus1 文法のまとめ3⑨ 【佐々木貞子】 【平和】【原爆】	平和学習 1学期の反省		
8月 9月	・作品交流① ・和歌の世界 発表ふ<む⑦ ・万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 ⑧	人権と日本国憲法⑦ 人権と共生社会⑦	2次方程式⑦ 関　数 y=ax^2⑩	運動とエネルギー⑭ ・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用		魅力を伝えるパッケージ(環り物用パッケージ)⑦	ソフトボール⑩	器械運動(マット)⑩			動力の利用①		Lesson4 【関係代名詞(主格)】 Use Read Use Write1 Take Action!4 【ラジオニュース】⑨ 【日本の漫画】 【日本のアニメ】 【履歴書】	2学期のはじめに	ともに生きる社会の実現 互いの思いの伝え方 ②	体育祭 文化祭 ⑤
10月	・情報社会を生きる　メディアリテラシー② ・広告の読み比べ② ・書写③	これからの人権保障④ 現代の民主政治⑥ 国の政治の仕組み④	関　数 y=ax^2⑩ 図形と相似④		器楽 リコーダー 鑑賞 曲のよさをプレゼンテーションしよう ①		ハンドボール⑩	バレーボール⑩			エネルギー変換の実際③	幼児の生活と遊び③ 幼児とのふれあい②	Reading for Fun1 Lesson5 【関係代名詞(目的格)】 Use Read USE Write Use Speak 文法のまとめ4⑩ 【黒人と白人】 【キング牧師】 【ローザ・パークス】	生徒会役員選挙にむけて	かけがえのない郷土 感謝の心に応える 災害時、わたしたちにできること ④	修学旅行⑮
11月	・書写③ ・論説⑥	国の政治の仕組み⑥ 地方自治と私たち⑥	図形と相似⑬	宇宙を観る② ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方		鑑賞課題② 暮らしやすさのデザイン(マグカップのデザイン)③	器械運動(マット)⑩	陸上(ハードル)⑩			製作品の構想と設計・製作⑩		Take Action!5 【落とし物の問い合わせ】 Project2 【国際交流イベントに出展しよう】⑨ 【国際交流】	進路学習	前向きな生き方 相手の気持ちを考える 生きていることの奇跡 自然への畏敬 自分で決めたこと 人を好きになる 規律ある社会 ⑦	
12月	・おくのほそ道⑤ ・初恋②	消費生活と市場経済⑥ 生産と労働⑥	図形と相似⑩	自然と人間③ ・自然界のつり合い ・人間と環境 ・自然が人間の生活にお			バレーボール⑩	ダンス⑥				よりよい消費生活のために②	Lesson6 【仮定法過去(if)】 Use Read Use Write Take Action!6 【スピーチ】 GET Plus2 文法のまとめ5⑧ 【新たな創造】 【ライト兄弟】 【ダ・ヴィンチ】 【英語の詩】	ビブリオバトル 人権学習 2学期の反省		
1月	・故郷⑥ ・古典対策プリント③ 書写④	市場経済の仕組みと金融⑥ 財政と国民の福祉⑤	円の性質⑩	よぼす影響 ・科学技術と人間 ・科学技術の利用と環境保全	歌唱 卒業の歌 君が代 器楽 リコーダー 創作・理論 リズム伴奏 ⑨		球技⑩	球技⑩				わたしたちの成長と家族①	Lesson7 【間接疑問文、help+A+動詞の原形】 Use Read Use Speak GET Plus3 文法のまとめ6⑧ 【外国語学習】 【将来の夢】	進路学習 学年行事にむけて 学年行事	法やきまりの意義 家族への敬愛 いじめを許さない心 ③	
2月	・坊ちゃん④ ・中学校生活をふり返って作品作り③	これからの経済と社会④ 国際社会の仕組み(国旗・国歌について)⑥ さまざまな国際問題②	三平方の定理 ⑬			漫画の魅力(絵本)① 明日への集立ち (鑑賞課題) ①	サッカー⑤	ダンス⑤			エネルギー変換に関する技術の評価と活用①	わたしたちと家族・家庭と地域②	Project3 【ディスカッションをしよう】 Reading for Fun2 Reading for Fun3 ② 【ディスカッション】 【関ファスナー】 【新幹線】	性教育 3学期の反省 3年間のふり返り	自他の生命の尊さ よりよく生きる 公共の場での心構え ③	まとめ ⑨ (自己確認)
3月	・作品作り② ・書写⑤	さまざまな国際問題③ これからの地球社会と日本③ より良い社会を目指して⑥	標本調査とデータの活用⑫				球技⑩	球技⑩					3年間の復習②	進路学習	豊かな人権感覚 我が校を愛する心 ②	

＜国語科＞

目標	自分の思いや考えを適切な方法で相手に伝わるように表現する力を育成する
つけたい力	方 策
① 知識・技能 （言語についての知識理解） ② 思考・判断・表現 （話す・聞く・書く・読む能力） ③ 主体的に学習に取り組む態度 （関心・意欲・態度）	① ・漢字テストや語句のテストを定期的に行い、語彙力を高め、定着させる。 ・ことばのきまりを理解させ、正しく使えるよう指導する。 ・表現の技法を理解させ、使えるよう指導する。 ・文字を正しく美しく書くことができるよう指導する。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解させる。 ・古典の基礎を理解できるよう、指導する。 ② ・ ICTを上手く活用し、自分の意見を明確に発表できるよう指導する。 ・書く機会を意識的に多く設け、自分の気持ちや考えを的確に表現できるように指導する。 ・表現方法を共有するため積極的にペアワークや四人班でのグループワークを活用する。 ・対話を通し、表現の特色、技法を理解させ、鑑賞できるよう指導する。 ③ ・基本的な発問だけでなく、揺さぶり発問を心掛ける。 ・関心を高め、積極的に取り組むように指導する。 ※基礎学力に課題のある生徒への支援を意識し、机間指導や協働学習の機会を増やす。また、理解しているつもりの子を見抜き、丁寧な授業を心掛ける。

＜社会科＞

目標	・課題を追究したり解決したりする活動を通して、社会への関心を高める。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できるようにする。 ・調査や諸資料から、様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけさせる。 ・社会に見られる課題の解決に向けて、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力を養う。 ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

つけたい力	方　策
・社会的事象について問いを立てる力 ・社会的事象に関する情報を収集する力 ・社会的な見方・考え方を働かせて読み取る力 ・読み取った情報をまとめる力 ・自分の意見や考え方を伝える力 ➡積極的に考察・議論・交流・発表ができる社会科の授業（四中社会科メソッド[Ver.2]の定着）　をめざす	【授業力向上に向けて】 ・教科内の授業参観や交流 ・タブレットの効果的な活用方法の研究 ・教科部会における授業検討の活発化 ・系統的な調べ学習の実施 ・予習プリントの質の向上（改良を進める） ・つけたい力を踏まえた授業の実施 【授業スタイル】四中社会科メソッド[Ver.2] ・予習プリント（反転授業（学習）） ・協働学習（ペア・グループ活動, ディベート活動） ・ICT機器の効果的な活用 ・家庭学習の充実 【今年度の重点的な取り組み】 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の研究 ・3年間を見通した社会科の学習（パフォーマンス課題の系統性） ・民間、地域の人々とのコラボレーション（予定）

＜数学科＞

目標	・数学的な見方・考え方を養うことをめざし、論理的に考える力を育成する。 ・数学に興味・関心をもたせ、数学的活動の楽しさを自覚できることをめざす。 ・数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについての知識、理解を深める。 ＜各学年の重点目標＞ 第1学年：数の概念を拡張し、数学的な表現方法や処理の方法を習得する。 図形に対する見方・考え方を深め、論理的思考力の基礎を培う。 第2学年：文字を用いた式の計算や変形をできる能力を養う。 平面図形で数学的な推論を理解させ、論理的に考察する能力を伸ばす。 第3学年：数の世界をさらに拡張し、数の概念についての一層の理解を深める。 相似や三平方の定理など図形の考察や計量に用いる能力を伸ばす。

つけたい力	方 策
① 数学への関心・意欲・態度	① 授業導入時での課題設定や発問を工夫し，生徒の意欲・関心を高める。授業時にペア学習・班学習・学びあいを積極的に取り入れ、自分の考えを説明する機会を多く設ける。
② 数学的な見方や考え方	② タブレットを効果的に活用したり，ペア学習・班学習・学びあいなどで多様な考え方に触れることで，より多角的に物事を考えられるようにする。
③ 数学的な技能	③ 計算問題では反復練習を通して，できる喜びや達成感を得られるようにする。またタブレットで反復練習をする機会を模索していく。
④ 数量や図形などについての知識・理解	④ 身に付けた知識を説明したり、理解した内容を活用できる機会を設けて、技能や見方・考え方へつなげられるようにする。 〇目標の提示・まとめ・振り返りを行う。 〇必要に応じて，立体模型などの教具やデジタル教科書、タブレット、プロジェクター，書画カメラの ICT 機器を活用する。 〇教科部会で授業内容についての意見交流を行い，教材研究を深める。 〇特に、基礎学力に課題のある生徒への支援を意識し，机間指導や協働学習の機会を増やし、達成感や効力感を得られるようにする。

＜理 科＞

目標	・自然科学的現象に興味・関心を持たせ、科学の方法を身につけさせる。 ・授業において、探求の過程を大切にして自分の考えを発表できる力をつける。 ・実験や観察において 1. 目的をしっかり把握させる。 2. 基本的な実験・観察の技術を身につけさせる。 3. 結果に至る過程について、筋道をたてて考察する能力を養う。 4. 班で役割を持たせ、協力して行うことの重要性を学ばせる。 ・学習した知識や資料、情報を用いて様々な現象について科学的な視点を持って説明できる。

課題	方策
・理科部会のスムーズな進行。 ・理科室の有効利用を図る。また視聴覚教材や教室での実験を取りいれる工夫をさらに行う。 ・授業にて多くの実験・観察を積極的に取り組むとともに、実験結果から考察を自分なりに知識を活用しながら検討する。（説明・発表） ・実験や観察を協力して行い、お互いに助け合いながら取り組む姿勢を養う。 ・タブレットをツールの１つとして有効に利用する。	・評価と指導の一体化をすすめる。 （配布プリントには観点を明記する） ・理科室使用簿を引き続き作成する。 ・実験プリントなどを工夫したり、実験後の授業でデータのグラフ化やプリントでのまとめなどの工夫をさらにすすめる。 ・教材の視覚化、視聴覚教材の充実に努める。 ・学年間での実験室の重なりを避ける工夫をする。 ・表現する場を増やす。

年間カリキュラム（学年別・月別）

	１年	２年	３年
４月	自然の中にあふれる生命（9h） いろいろな生物とその共通点（19h） ・植物の分類とその特徴 ・動物の分類とその特徴	化学変化と原子・分子（34h） ・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量	生命の連続性（23h） ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化
５月			
６月			化学変化とｲｵﾝ（29h） ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩
	光・音・力による現象（28h） ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	生物の体のつくりとはたらき（39h） ・生物のからだをつくるもの ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはらたき ・動物の行動のしくみ	
７月			
８月			
９月	身のまわりの物質（25h） ・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化	地球の大気と天気の変化（30h） ・地球をとり巻く大気のようす ・待機中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季	運動とｴﾈﾙｷﾞｰ（36h） ・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用
10月			
11月			宇宙を観る（22h） ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方
12月		電流とその利用（37h） ・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界	
１月	活きている地球　（24h） ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地		自然と人間（30h） ・自然界のつり合い ・人間と環境 ・自然が人間の生活におよぼす影響 ・科学技術と人間 ・科学技術の利用と環境保全
２月			
３月			
計	105h	140h	140h

＜音楽科＞

目標	①曲想と音楽に関する知識との関わり及び音楽の多様性について理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を培う。 ②音楽表現を創意工夫する力や、音楽のよさや美しさを味わって聴く力を養う。 ③音楽活動の楽しさを体験することを通して、豊かな情操を培う。

つけたい力	方 策
・音楽について根拠を持って批評し、その考えを伝える力 ・生活の中の音楽と結び付けて考える力 ・曲にふさわしい表現を工夫して表現する力 ・主体的に課題に取り組む力	・ペア、グループ等でその時に感じたことを交流する機会を毎時間作る ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるように指導を工夫する ・視聴覚教材、ICT 機器の効果的な活用をする

＜美術科＞

目 標	・プロセスを重視し、自分らしい造形的なものの見方・考え方を働かせて感性を高める。 ・創造活動に喜びを味わい楽しみ、思いや感じたことを作品に表現する。 ・対象を造形的視点で見て、感じたことを言葉に表現する。 ・知的創造力を高め、美しさや素晴らしさを感じ取る鑑賞の能力を高める。 ・社会に対応する能力・ICT活用能力を高める。

つけたい力	方 策
・主体的に、創造的に表現する能力を伸ばし、美術を愛好する心を培う。 ・作品に対して造形的に言語化する力を養う。 ・積極的な情報収集に努め、計画・想像力を高める。 ・作品の良さや美しさを味わう鑑賞の能力を高める。 ・社会とのつながりを大切にし、自分らしいものの見方・考え方を追及する。 ・ICT活用能力を育成する。	・授業改善に取組み、より質の高い教科会議の充実を目指す。 ・意欲的に取組める課題を精選し、主体的に取組める環境を整える。 ・時代背景に即した社会に直結する新しい課題設定の意識 ・美術全般に興味・関心が深まるよう、鑑賞教育に努める。 ・自分らしい見方考え方を培う言語活動の充実を図る。 ・ICTの積極的な活用に努める。 ・指導と評価の一体化。アンケートチェック。

＜保健体育科＞

目標	健康の保持増進と体力の向上を図り、生涯体育を目指して、運動に親しむ資質や能力を養う。

つけたい力	方 策
（知識・技能） ・運動に必要な技能の習得や体力の向上。 ・運動に関する知識の理解や健康安全について日常生活に役立つ知識を身につける。 （思考・判断・表現） ・学習の振り返りを基に、課題解決の方法を考え、学習内容を理解する力。 （主体的に学習に取り組む態度） ・運動する楽しさや喜びを味わい、意欲的に学習する態度。 ●四中メソッドの視点からの ICT 活用。	健康や安全について興味関心をもたせ、知識理解を図らせる。 1年：集団行動を身につけさせると共に、運動することの楽しさを味あわせる。 2年：運動の特性やルールを理解させ、技能の習得と体力の向上を図る。 3年：ルールを尊重し、互いに協力し、自主的で活発な活動ができる集団を育成する。 ・ICT 教具の活用 視覚的、記録的活用、ふり返りなどの共有で積極的にタブレットを使用し、様々な力をつける。

＜技術・家庭科＞

目標	○生活と技能についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着けるようにする。 ○生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

つけたい力		方 策
技術	○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 ○プログラミングを体験させ論理的思考力を身につける。 ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を養う。 ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	○実習等の結果を整理し考察する学習活動や、課題を解決するために、言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図る。 ○基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動を充実する。 ○資質・能力の育成を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、生徒の興味・関心を踏まえた学習課題の設定、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努める。 ○生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動を充実するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮する。 ○施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。 ○ICT 機器の活用を学習の補助的としての有効活用を図る。
家庭科	○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ○自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	

＜英語科＞

目標	・積極的な言語活動を行い、バランスの良い4技能5領域の力の向上を目指す ・苦手意識を持たず、英語と触れ合おうとする生徒を育てる ・英語は楽しいと思えるような授業づくり ・様々な文化に触れさせ、多様な価値観を養う

つけたい力	方 策
【知識・技能】 ・英語を用いて、自分のことを表現する力 ・英語を読んだり聞いたりして、内容を理解する力 ・即興で英語のやり取りができる力	・ペアやグループ活動を通して安心して授業に参加できる環境の構築 ・NET と協力し、言語活動を積極的に行う。 ・ペアや班活動を多く取り入れ、英語に慣れさせる。
【思考・判断・表現】 ・場面に応じた適切な表現方法を選択する力 ・既習文法を生かして表現できる力 ・必要な情報や考えなどを整理する力	・外部機関と連携を図り、外国人との交流機会を設定する ・各単元の見通しを立てて、生徒自身に目標設定と単元後の振り返りを充実させる ・活動の際に事前に答えを共有する時間を作り、自信を持たる。
【主体的に学習に取り組む態度】 ・間違いを恐れずに、積極的にコミュニケーションをとろうとする力 ・目標を達成するために自主的に学ぶ力 ・仲間と協力して課題を解決する力 ・英語を楽しもうとする力 ・視野を広げ、何事にも興味関心を持ち、知ろうという姿勢を身に付ける	・ミスを恐れず互いに学び合える環境をつくる。 ・生徒が主体的にやりたいと思うような課題の設定 ・デジタル教科書やタブレットの効果的な活用 ・発問の仕方や様々な活動を取り入れ、飽きさせない工夫をする。 ・帯活動の充実を図る。 ・積極的な家庭学習を行うため提出物の削減 ・指導と評価の一貫性

○CAN DO リスト

HIRAKATA BASIC CAN-DO STATEMENT for JUNIOR HIGH SCHOOL

	第1学年	第2学年	第3学年
聞くこと	①初歩的な題材や表現での会話、自己紹介、放送、友人のスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。 ②初歩的な題材や表現でのあいさつ、会話、質問などを聞いて、あいづちをうつなど適切に対応することができる。	①放送、天気予報、友人のスピーチなど、特定のテーマについての英語を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 ②自然な口調で話される短い英語を聞いて、あいづちをうつなど適切に対応しながら概要や要点を聞き取ることができる。	①説明や講演での話者の主張を聞いて、概要や要点を聞き取るとともに、必要な情報を整理することができる。 ②さまざまな場面で自然な口調で話されるまとまった英語を聞いて、話し手に聞き返したり、概要や要点を整理したりして、内容や話し手の考えや意向を正確に聞き取ることができる。
	Listening Activity1,2,3,4,Presentation1,2,3 など	各 Unit の Activity1,Presentation1,2,3 など	各 Unit の Activity1,Presentation1,2,3 など
話すこと [Production]	①初歩的な題材や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについて、30words 程度の原稿を 60wpm 以上のスピードで発表することができる。	①与えられたテーマについて、形式にならって 40words 程度の原稿を 70wpm 以上のスピードで発表することができる。	①自分の選んだテーマなどについて、50words 程度のまとまりのある内容の原稿を 80wpm 以上のスピードで発表することができる。
	Presentation1,2,3 など	Presentation1,2,3 など	Presentation1,2,3 など
話すこと [Interaction]	①自分の気持ちや状態を相手に正確に伝えることができる。 ②聞いたり読んだりしたことについて、メモなどを参考にしながら、相手に伝えることができる。	①さまざまな話題について、聞き手を意識して、情報や意見を正しく伝えることができる。 ②身近な話題について、質問をするなどして会話を続けることができる。	①さまざまな話題について、聞き手の様子に合わせて表現を工夫しながら、情報や意見を正しく伝えることができる。 ②聞いたり読んだりしたことについて、つなぎ言葉を使うなど、話を継続する工夫をしながら感想や意見を述べ合ったり、質問をしたりすることができる。
	Unit1,3,4,5,6,7,8,11 など	各 Unit の Activity2, Daily Scene2,4,5,7 など	各 Unit の Activity2, Daily Scene1,3,4,5 など
読むこと	①120words 程度の英文を 40wpm 以上のスピードで読み、その主な内容を読み取ることができる。 ②初歩的な題材や表現で書かれた文章や物語を読み、おもしろいと感じる点や大切な部分はどこなのかを捉えることができる。 ③1年生の教科書本文を、英語らしい発音に気をつけながら、ゆっくりでも音読することができる。	①160words 程度の英文を 50wpm 以上のスピードで読み、その主な内容を読み取ることができる。 ②レポートやスピーチ、物語や説明文などを読み、その主な内容や登場人物の心情、書き手の意向を読み取ることができる。 ③2年生の教科書本文を、発音や意味のまとまりに気をつけながら音読することができる。	①260words 程度の英文を 60wpm 以上のスピードで読み、その主な内容を読み取ることができる。 ②物語や伝記、記事、説明文などを読み、自分の感想や賛否、意見を述べることができるように、その内容や大切な部分を整理しながら正確に読み取ることができる。 ③3年生の教科書本文を、発音やイントネーション、リズムに気をつけて、気持ちを込めて音読することができる。
	各 Unit, Presentation1,2,3, Daily Scene4, Let's Read など	各 Unit, Presentation1,2,3, Daily Scene4, Let's Read1,2,3 など	各 Unit, Presentation1,2,3, Daily Scene4, Let's Read1,2,3 など
書くこと	①初歩的な題材や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについて、つながりのある短い文を、英文のルールに従って3文以上で書くことができる。 ②手紙やグリーティングカード、絵はがきなどのように、形式にならって短い英文を書くことができる。 ③聞いたり読んだりしたことについて、単語程度のメモを取ることができる。	①語と語や文と文のつながりなどに注意しながら、さまざまな主題について、意見やその理由を含めてまとまりのある文章を4文以上で書くことができる。 ②日記、メール、紹介文や絵などのように、形式にならってまとまりのある英文を書くことができる。 ③聞いたり読んだりしたことについて、メモを取り、簡単に英文にまとめることができる。	①さまざまな主題について、情報や自分の考えなどが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。 ②メール、紹介文、手紙やレポートなどについて、基本的な形式に自分の気持ちや考えを加え、書くことができる。 ③聞いたり読んだりしたことについて、概要にまとめたり、感想や賛否とともに、その理由を書くことができる。
	Unit3, Presentation1,2,3, Daily Scene3,7 など	各 Unit の Activity2, Daily Scene1,3,6, Presentation1,2,3 など	各 Unit の Activity2, Daily Scene2,6 など
CEFR との関連	A1	A1～A2	A2
英検 との関連	5級	4級	3級

(4)「情報教育」の年間計画　　（1年生）

○ 基礎的知識・技能	(Ⅰ-1)情報を複数集めて適しているものを吟味することができる。 (Ⅰ-2)相手や目的に応じて、グラフや図表を用いて効果的に発信することができる。 (Ⅰ-3)キーボード文字入力(1分間80文字程度)
○ 思考力・判断力・表現力	(Ⅱ-1)問題を発見し、その解決のために、目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組合せながら情報を収集することができる。 (Ⅱ-2)統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えることができる。 (Ⅱ-3)問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。 (Ⅱ-4)改善点を分析し考えることができる。
○ プログラミング的思考	(Ⅲ-1)論理的な手続きやデータを様々に工夫できることを体験的に理解する。 (Ⅲ-2)情報技術の価値を社会や将来に関連付けて考えることができる。
○ 情報モラル	(Ⅳ-1)情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用することができる。 (Ⅳ-2)生活の中での必要となる情報セキュリティを理解することができる。 (Ⅳ-3)情報や情報技術を多様な観点から考えることによって、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		【文法】 mentimeterを用いた意見交流 (Ⅰ・Ⅱ)	【竜】 keynoteで作った作品 オクリンクで意見交流 (Ⅰ・Ⅱ)	【空中ブランコ乗りのキキ】 オクリンクでの 意見交流(Ⅰ・Ⅱ)	【故事成語】 keynoteを用いて個人で作った作品を班で共有 オクリンクで意見交流(Ⅰ	【竹取物語】 オクリンクでの 意見交流(Ⅰ・	【少年の日の思いで】 オクリンクでの 意見交流(Ⅰ・Ⅱ)	【手紙の書き方】 作品提出(Ⅰ・Ⅱ	【トロッコ】 オクリンクでの 意見交流(Ⅰ・Ⅱ)		
社会	【世界の姿・日本の姿】 世界の国クイズ、日本の都道府県クイズをオクリンクで作成(Ⅰ-1・Ⅰ-2) 【通年】ミライシードの活用(オクリンクのカード作成、ムーブノートで意見集約)した意見や考えの交流(Ⅰ-1・Ⅰ-2・Ⅱ)		【世界各地の人々の生活と環境】 配信された雨温図などから気候の特色をまとめて共有(Ⅰ-1・Ⅰ-2)		【古代までの日本】 キーパーソンのプレゼンをオクリンクやkeynoteで作成(Ⅰ-1・Ⅰ-2)		【古代までの日本・中世の日本】 各時代の文化の特色を資料を用いてオクリンクでまとめる(Ⅰ-1・Ⅰ-2)		【世界の諸地域】 各州の探求課題の解決に向けてオクリンクを活用してグループでまとめる(Ⅰ-1・Ⅰ-2・Ⅱ)		
数学	【通年】 オクリンク等を用いた意見交流 デジタル教科書を用いた動画（アニメーション）の活用										【確率統計分野】 スプレッドシートを活用した 統計処理
理科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流 実験等の動画、画像撮影（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）			【調べ学習】 テーマや内容をWeb等で情報収集 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)			【実験器具】 オクリンクでの 発表(Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)				
音楽	【通年】 ミライシードを用いた意見交流 Webを使った調べ学習（Ⅱ-1,2）									【越天楽】 プレゼンテーションの実施	
美術	【通年】 Webを使った調べ学習、アイデア交流 (Ⅰ-1、Ⅱ)			【寄木アート】 作品写真提出 (Ⅰ-2)				【発想課題・鯨】 案提出、交流 (Ⅰ・Ⅱ)	【鑑賞課題・現代アート】 案提出、交流 (Ⅰ・Ⅱ)	【発想課題・空の道】 案提出、交流 (Ⅰ-Ⅱ)	
保健体育	【通年】 ミライシードを用いた意見交流　ミライシードを用いたレポート作成　Webを使った調べ学習 numbersを用いたふり返り　numbersを用いたデータ処理 ビデオ機能を使った動画撮影、研究										
技術	【材料と加工の技術】 様々な製品の最適化 ミライシードで交流(Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)		【材料と加工の技術】 材料の特性　Webでの調べ学習 ミライシードで交流(Ⅰ・Ⅱ)		【材料と加工の技術】 加工法　製図　製作過程を送信提出 適宜　ミライシードで交流(Ⅰ・Ⅱ)				【材料と加工の技術】 製作品の評価・課題・改良 ミライシードで交流(Ⅰ・Ⅱ)		
家庭科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）		【生活を豊かにする製作物】 被服実習～学校で使えるもの編～ ふりかえり提出・交流(Ⅰ・Ⅱ)		【栄養バランスの整った食事】 案、ふりかえり提出・交流(Ⅰ・Ⅱ)			【防災を意識した住まい方】 案、ふりかえり提出・交流(Ⅰ・Ⅱ)			
英語	【通年】 Webを使った調べ学習 （Ⅰ－1）	【英語】 ○オクリンクで「他己紹介」共有 「NETに質問する文を作成」 英作文（Ⅱ－3）		【英語】 ○Keynoteで「理想のロボット」 プレゼンテーション（Ⅰ・Ⅱ）							
総合的な学習の時間			【進路学習】 職業調べ・交流 (Ⅰ・Ⅱ)		【四中オリンピック】 動画作成 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)	【校外学習】 キーノート作成交流 (Ⅰ・Ⅱ)	【進路学習】 職業調べ・交流 (Ⅰ・Ⅱ)		【防災教育】 ミニレポート 作成交流(Ⅰ・Ⅱ)	【進路学習】 職業講和新聞づくり (Ⅰ・Ⅱ)	
情報モラル	【生徒会活動】通年 ICT委員会(生徒)による情報モラル啓発活動(Ⅳ)					【道徳】 SNS講習会 ［外部講師］(Ⅳ)			【道徳】 使っても大丈夫? (Ⅳ)		【数学】 データの活用 (Ⅳ)

（2 年生）

○ 基礎的知識・技能	(Ⅰ-1)情報を複数集めて適しているものを吟味することができる。 (Ⅰ-2)相手や目的に応じて、グラフや図表を用いて効果的に発信することができる。 (Ⅰ-3)キーボード文字入力(1分間80文字程度)
○ 思考力・判断力・表現力	(Ⅱ-1)問題を発見し、その解決のために、目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組合せながら情報を収集することができる。 (Ⅱ-2)統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えることができる。 (Ⅱ-3)問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。 (Ⅱ-4)改善点を分析し考えることができる。
○ プログラミング的思考	(Ⅲ-1)論理的な手続きやデータを様々に工夫できることを体験的に理解する。 (Ⅲ-2)情報技術の価値を社会や将来に関連付けて考えることができる。
○ 情報モラル	(Ⅳ-1)情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用することができる。 (Ⅳ-2)生活の中での必要となる情報セキュリティを理解することができる。 (Ⅳ-3)情報や情報技術を多様な観点から考えることによって、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	「セミロングホームルーム」 人物相関図をオクリンクで発表（Ⅰ・Ⅱ）		「投稿文」 投稿文作成のための調べ学習（Ⅰ・Ⅱ）	「漢詩」 作者についての調べ学習（Ⅰ・Ⅱ）	「小さな手袋」 人物の心情の発表（Ⅰ・Ⅱ）	「プレゼンテーション」 日本の文化のよさを伝える（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）		「動物園でできること」 展示の内容をオクリンクで発表（Ⅰ・Ⅱ）	「論説文」 論説文作成のための調べ学習（Ⅰ・Ⅱ）		「情報誌」 情報収集、作品の発表（Ⅰ・Ⅱ）
社会	南蛮文化の紹介を作成して発表する。（Ⅰ-1.2.3・Ⅱ-1.3・Ⅳ-1）	沖縄の基地問題の資料を配布して読み取らせる。（Ⅱ-1.3.4）	琵琶湖の環境保全の取り組みを調べてまとめる。（Ⅰ-1.2.3・Ⅱ-1.4）	北陸の地場産業を調べてレポートを作成する。（Ⅰ-1.2.3・Ⅱ-2・Ⅲ-1）		関東の一極集中に関して、KPT法を活用してjamboardにまとめる。（Ⅰ-2・Ⅱ-2.4・Ⅲ-1）		北海道のエコツアーを企画し、どの案が良かったかを述べる。（Ⅱ-3・Ⅲ-2）	文明開化について調べ、欧米化の影響について述べる。（Ⅱ-1.3・Ⅲ-1・2）	日本の諸地域を深く調べ、まとめたものを発表する。（Ⅱ-1.2.3.4・Ⅲ-1・2・Ⅳ-1.2）	
数学	【通年】 オクリンク等を用いた意見交流 デジタル教科書を用いた動画（アニメーション）の活用										【確率統計分野】 データ分析 （箱ひげ図）
理科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流 実験等の動画、画像撮影（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）			【調べ学習】 テーマや内容をWeb等で情報収集 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）							
音楽	【通年】 ミライシードを用いた意見交流 Webを使った調べ学習（Ⅱ-1,2）				【総合芸術】 意見発表（Ⅰ-1）						
美術	【通年】 WEbを使った調べ学習、アイデア交流 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）									【動画作成】 案提出、交流 （Ⅰ-Ⅰ、Ⅱ-2、Ⅳ-Ⅰ）	
保健体育	【通年】 ミライシードを用いた意見交流　ミライシードを用いたレポート作成　Webを使った調べ学習 numbersを用いたふり返り　numbersを用いたデータ処理 ビデオ機能を使った動画撮影、研究										
技術	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流		【情報の技術】 情報通信ネットワークの仕組みと安全に利用するための情報モラル（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）		【生物育成の技術】 生物育成計画と実践 育成過程の報告（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）			【情報の技術】 PC教室におけるプログラミング （Ⅰ・Ⅱ）		【情報の技術】 情報の技術の最適化 ミライシード（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）	
家庭科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）		【生活を豊かにする製作物】 被服実習～生活を豊かにするもの～ ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）		【栄養バランスの整った食事】 案、ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）		【日常食の食事】 ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）			【エシカル消費にむけて】 ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）	
英語	【英語 通年】 ○ミライシードで意見の交流（Ⅰ・Ⅱ		【英語】 ○Keynoteで「将来の夢」 プレゼンテーション（Ⅰ・Ⅱ）								
総合的な学習の時間					【四中オリンピック】 動画作成 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）	【校外学習】 写真 ミッション 達成（Ⅰ・Ⅳ）	【防災教育】 ○オクリンクで防災マップの共有（Ⅰ・Ⅱ）		【職業インタビュー】 職業などについて調べ学習(Ⅰ) オクリンクでふりかえりの共有(Ⅰ・Ⅱ)		
情報モラル	【生徒会活動】通年 ICT委員会(生徒)による情報モラル啓発		【技術】 ・安全に利用するための情報モラル ・情報セキュリティー			【道徳】 SNS講習会 ［外部講師］（Ⅳ）				【道徳】 ・ネット将棋 ・使っても大丈夫？（Ⅳ）	

（3 年生）

○ 基礎的知識・技能	(I-1)情報を複数集めて適しているものを吟味することができる。 (I-2)相手や目的に応じて、グラフや図表を用いて効果的に発信することができる。 (I-3)キーボード文字入力（1分間80文字程度）
○ 思考力・判断力・表現力	(Ⅱ-1)問題を発見し、その解決のために 、目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組合せながら情報を収集することができる。 (Ⅱ-2)統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えることができる。 (Ⅱ-3)問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる。 (Ⅱ-4)改善点を分析し考えることができる。
○ プログラミング的思考	(Ⅲ-1)論理的な手続きやデータを様々に工夫できることを体験的に理解する。 (Ⅲ-2)情報技術の価値を社会や将来に関連付けて考えることができる。
○ 情報モラル	(Ⅳ-1)情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用することができる。 (Ⅳ-2)生活の中での必要となる情報セキュリティを理解することができる。 (Ⅳ-3)情報や情報技術を多様な観点から考えることによって、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	「岩が」 オクリンクで 意見交流 （Ⅰ・Ⅱ）	「俳句の世界」 句の鑑賞文をオクリン クで発表（Ⅰ・Ⅱ）		「握手」 人物相関図を作成オク リンクで交流 （Ⅰ・Ⅱ）		「和歌の世界」 歌の鑑賞文をオク リンクで交流 （Ⅰ・Ⅱ）	「初恋」 初恋のイメージをオ クリンクで交流 （Ⅰ・Ⅱ）	「情報社会を生きる」 事例を調べてオクリン クで交流　（Ⅰ・Ⅱ）		卒業作品 テーマ決め （Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）	
社会	【通年】 オクリンクで意見交流 （Ⅰ・Ⅱ）		【歴史】○二度の世界大戦と日本 ○現代の日本と私たち mentimeter,jamboardで 資料をもとにまとめや議論(Ⅰ・Ⅱ)		【公民】○現代社会と私たち ○個人の尊重と日本国憲法 keynoteで発表、ムーブノートで議論 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）		【公民】○現代の民主政時と社会 ○私たちの暮らしと経済 ムーブノートなどで模擬裁判など （Ⅰ・Ⅱ）			【公民】○地球社会と私たち ○world shft keynoteなどで発表（ソフトは各自選択） （Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）	
数学	【通年】 オクリンク等を用いた意見交流 デジタル教科書を用いた動画（アニメーション）の活用										
理科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を用いた意見交流 実験等の動画、画像撮影（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）			【調べ学習】 テーマや内容をWeb 等で情報収集 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）						【卒業制作】 ・テーマ決めや情報収集（web） ・Keynote等で発表 （Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）	
音楽	【通年】 ミライシードを用いた意見交流 Webを使った調べ学習（Ⅱ-1,2）			【展覧会の絵】 プレゼンテーションの実施 （Ⅰ-1、Ⅱ-2）							
美術	【通年】 Webを使った調べ学習、アイデア交流 (I-1、Ⅱ)		【鑑賞課題・花】 案提出、交流 (I・Ⅱ)		【発想課題・ミロ】 案提出、交流 (I・Ⅱ)	【発想課題・考える人】 案提出、交流 (I-Ⅱ)			【発想課題・みかん】 案提出、交流 (I-Ⅱ)	【鑑賞課題・思い出】 案提出、交流 (I-Ⅱ)	
保健体育	【通年】 ミライシードを用いた意見交流　ミライシードを用いたレポート作成　Webを使った調べ学習 numbersを用いたふり返り　numbersを用いたデータ処理 ビデオ機能を使った動画撮影、研究										
技術	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を 用いた意見交流		【エネルギー変換の技術】 電気回路の設計と簡単な製作物 工作過程提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）			【エネルギー変換の技術】 電気回路の設計と精密な製作物 工作過程提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）				【エネルギー変換の技術】 エネルギー変換技術の最適化 ミライシード交流（Ⅰ・Ⅱ）	
家庭科	【通年】 Webを使った調べ学習、オクリンク等を 用いた意見交流（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ）		【生活を豊かにする製作物】 被服実習～乳幼児向けのおもちゃ～ ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）				【乳幼児向けのおやつ作り】 案、ふりかえり提出・交流（Ⅰ・Ⅱ）				
英語	【通年】 ○ミライシードで意見の交流（Ⅰ・Ⅱ）		【プレゼンテーション】 Keynoteで日本限定アイスク リームの発表（Ⅰ・Ⅱ）								
総合的な学習の時間	「高校調べ」 Keynoteで発表 （Ⅰ・Ⅱ）	修学旅行事前学習 新聞作り（調べ学習） （Ⅰ・Ⅱ）			四中オリンピックSF動画作り imovie　（Ⅱ・Ⅲ）						
情報モラル	【生徒会活動】通年 ICT委員会(生徒)による情報モラル啓発活動(Ⅳ)				【社会】 情報化	【道徳】 SNS講習会 ［外部講師］(Ⅳ)	【道徳】 言葉の向こうに(Ⅳ)				【道徳】 情報リテラシー(Ⅳ)

(5)「総合的な学習の時間」の全体計画

①全体計画

関係法規等
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
県・市町村教育施策

学校教育目標
学びあい、つながりあい、
幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成

保護者の願い
基本的な生活態度を身につけ、また将来に向けて前向きに考え、目標立てて行動できるようになってほしい。

め　ざ　す　生　徒　像
自分で考え、判断し、行動することができる生徒

生徒の実態
学習面において前向きな生徒が多い。
ルール厳守や生活態度など良好な生徒が多い。

めざすハタチ像
自分らしく
まわりとつながり
何事にもチャレンジする

総合的な学習の時間の重点目標
① 進路について興味・関心を持ち、自分なりに調べ、行動できる。
② 周りの仲間と情報を共有し、得た情報を用いて、まとめたものを相手に伝えることができる。
③ 自分自身と向き合い、将来に向けて計画的に活動できる。

地域との関わり
行事等、学校教育に協力的である。

育てようとする資質や能力及び態度
① 将来に向けて、課題の解決に必要な情報を自ら率先して収集し、役立てられるようになる。(知識及び技能の習得)
② 日常生活を送る中で、得た情報をもとに理由や責任を持ち、物事を決断できるようになる。またそれを伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
③ 自分自身について学んできたことを活用しながら、他人の意見を受け入れながら、積極的にかつ計画的に行動できるようになる。(学びに向かう力・人間性等)

		第　1　学　年	第　2　学　年	第　3　学　年
		自分を知る	周りの仲間との関わりを考える	自分の進路を創造する
学年の目標		・進路や働くことについて興味・関心を持ち、自ら調べる。 ・見通しを立てて準備し、周りの仲間に共有する。	・自分ができることややりたいことを見つけ、周りの環境との関わりを考える。 ・将来をイメージし、日々の行事等で率先して考え、行動する。 ・学んだ内容を身近な仲間だけではなく、後輩などにも伝える。	・自分自身と向き合い、将来に向けて調べ、計画を立てる。 ・学んできたことをもとに自分自身を見つめ直し、１つ１つの選択に責任を持ち、理由を持って決定する。
学習活動	１学期	・校外学習	・校外学習（自然体験）	・修学旅行(自然体験)、進路学習(ハイスクールレポート)
	２学期	・文化祭、体育祭 ・職業インタビュー	・文化祭、体育祭 ・職場体験	・文化祭、体育祭
	３学期	・小中交流会	・進路学習	・進路学習(願書記入、面接練習)
各教科等との関連	国　語	・お礼状の書き方・敬語・プレゼンテーション(資料や機器を効果的に活用する)		
	社　会	・枚方について調べる(課題発見)・農産業や歴史、今後の課題など ・身近な地域について調べてまとめ、発表する・経済について学ぶ(貨幣、金融など)		
	数　学	・資料の分析と活用(メンバー決め、走順決めなど)		
	理　科	・火のつけ方、薪の燃焼(自然の中)・自然への興味、関心・食品作り・魚の骨格・生物への興味、関心・空を眺めて・動物病院での手術見学・科学技術・農業体験(農業機具)・夜空の観察、星座・しいたけの植え方・工業・筋肉の動き・速く走れるようになる方法・情報収集力・表現力		
	音　楽	・合唱練習		
	美　術	・自画像		
	保健体育	・ダンス		
	技　術	・物づくり・農業について		
	家　庭	・食品加工・消費教育・漁業体験・郷土料理・調理や衣料品販売(職場体験)・農業体験・保育の学習		
	外国語	・(英作文→スピーチ) 自己紹介、学校紹介、思い出の行事、将来の夢、修学旅行、中学校生活について ・英語日記		
	道　徳	・互いの考えを尊重し、伝えあい、人間としての生き方について共に深く考えあえるようになる		
	特別活動	・生徒が自ら考え、課題を発見し、相互に学び合う活動を通じて、人間形成に必要な資質の向上と社会の変化に主体的に対応できる力を養う		

評価の観点	内容
主体的･創造的な態度 課題設定や問題解決の能力	1年生: 創造と表現学習･将来について考える 2年生: 創造と表現学習･職業について考える 3年生: 創造と表現学習･進路について考える

本校の特色ある取り組み	各教科との関連を生かした指導方法	小学校との連携
･体育祭、文化祭 自学年だけでなく、他学年と合同で団を組むことにより、横の繋がりだけでなく、縦の繋がりを通して人間関係の構築や関わり方が学べる。 ･小中交流会 自分の意見を発表することにより、身近な仲間だけでなく後輩に伝える力も同時に養うことができる。	･それぞれの特徴を生かし、様々な教科の取り組みを通して連携を取りながら、将来に生かせる活動を行う。 →ICT 機器の活用(プレゼンテーション力等) ･相互授業参観を行うことにより、各教科だけでなく、学年を越えて意見交換するきっかけになる。	･小中共通のめざすハタチ像を持つだけでなく、月1回の会議で情報を共有し、それらを生かした小中での円滑な繋がりを持たせる。 ･小中見学会や小中交流会など、小中学生が交流できたり、中学校を体験できたりする機会を持つことにより、小中連携を通した学びあいが実現できる。

本校のキャリア教育
1年校外学習、2年宿泊体験、3年修学旅行など3年間のキャリア教育を通して生きる力を養う。 また、1年時からの取り組みをもとに、より実践的な活動を行い、将来について計画的に考えられるよう促す。

（6）「道徳教育」の全体計画と年間計画

① 全体計画

枚方市立第四中学校

教育基本法 学校教育法
学習指導要領
枚方市教育委員会の教育大綱

学校の教育目標

学びあい、つながりあい、幸せな人生にむけて挑戦する生徒の育成

学校や地域の実態と課題

地域住民や保護者の教育的関心は高い。PTA活動についても協力的である

生徒の実態や発達課題

・基本的生活習慣が全般的に身についている
・学習に対する意欲が高い
・規範意識が高い

教職員や保護者の願い

・自主自立の精神を持つ人間
・コミュニケーション能力の向上
・自分の将来について主体的に考え、行動できる

学校における道徳教育の重点目標

・かけがえのない生命を尊重し、自分も他者も大切にする思いやりの心を育てる。
・自主的に考え判断し行動する態度を育てるとともに、互いに励ましあい、高めあいながら人間関係を深める態度を養う。
・人とふれあう中でともに学び、将来の生き方について考えを深め、社会に貢献する態度を養う。
・自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心を育てる。

各教科

国語	・人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。
社会	・自他の人格を尊重し、社会的義務や責任を重んじ、公正に判断しようとする態度や能力を育成する。
数学	・数理的にものごとを考えたり処理したりすることを通して工夫して生活や学習しようとする態度を養う。
理科	・見通しをもって観察、実験を行うことや問題解決の能力を育て、また真理を大切にしようとする態度を育成する。
音楽	・音楽による豊かな情操を培う中で美しいものや崇高なものを尊重する心を育む。
美術	・造形的な創造による豊かな情操を培う中で、美しいものや崇高なものを尊重する心を育む。
保健体育	・粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団に参加し協力する態度を養う。
技術家庭	・日常生活に必要な知識や技能を身につけることにより、生活をより良くしようとする態度を育てる。
外国語	・国際的な視野に立ち、言語や文化について理解を深め、人類の幸福に貢献できる態度を育てる。

道徳教育の推進体制

道徳部会（キャリア主担・道徳推進教師・各学年道徳担当）が中心となり、校内研修を充実させ、全体計画の評価・改善を図る。また、『特別な教科　道徳』の授業改善、評価について研究をすすめ、全職員の共通理解を図る。

特別活動

A 学級活動

多様な他者とより良い人間関係を形成し、協働して日常生活の向上を図ろうとする態度を養う

B 生徒会活動

学校生活の充実と向上を図り、委員会や学年・学級など生徒の諸活動の連絡調整を行うことで自主・自立の精神や社会性を育成する

C 学校行事

学校生活に充実感と達成感を感じさせ、集団や社会への所属感を持たせる。また、学年の枠を超え、体験的な活動を行うことを通して、意義や必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できる能力を養う。

各学年の道徳教育の重点目標

第1学年	第2学年	第3学年
・それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解する ・自らの可能性を信じ、最後までやり遂げようとする意欲を培う	・それぞれの個性や立場を尊重し、互いを認め、寛容の心をもち、謙虚に他に学ぶ。 ・より高い目標を目指し、やり抜く強い意志を持つ。	・思いやりの心で相手の立場に立ち、互いの良さを認め励ましあい、高め合う。 ・自分が設定した目標を目指し、自分を見つめ自己の向上を図る

総合的な学習の時間

第1学年	環境学習・創造と表現学習・将来について考える。
第2学年	環境学習・創造と表現学習・職業について考える。
第3学年	環境学習・創造と表現学習・進路について考える。

「特別の教科　道徳」の指導方針

互いの考えを尊重し，伝え合い，人間としての生き方について，共に深く考え合う。

生徒指導

・基本的生活習慣の確立に根ざした生徒の育成
・社会性の向上と自己指導力の育成
・内面理解に根ざした指導の推進

部活動

特色ある教育活動や豊かな体験活動

・体育祭、文化祭

異学年集団の中で「主体性」「協調性」「創造性」を身につけさせることを目的とした、文化祭・体育祭の一体型行事

・ICT機器の活用

タブレットを使用した効果的な教育活動、および子どもたちへの評価の根拠となる資料の保存

・タテ持ち授業

学年の枠を超えて全体で生徒を育てる意識の向上。系統性を考えた授業の展開

・ビブリオバトル

他者の発表を肯定し、豊かな人間性をはぐくむ

・校外学習

2年宿泊学習での漁業体験、修学旅行での農業体験など、キャリア教育を中心として、生きる力を育む

学級・学校の環境の充実・整備

・教室のユニバーサルデザイン

机と椅子のテニスボールカバー、掲示物の精選などにより、学習に集中しやすい環境にできるように努める。

・ICT機器の充実

各教室にスクリーンとプロジェクターの常設、全生徒と全職員がタブレットを持つことにより、発展的に考えたり、自分の意見を表現したりする力を養う。

地域・小学校・高校との連携

・小中連携

小中一貫事業として、「めざすハタチ像」を第四中学校区で共有し、生徒に身につけさせたい力を明確にして教科を軸に連携する。また、小中交流会にて、中1が小6に中学校生活について報告する。

・地域連携

オープンスクールだけでなく、清掃活動や職場体験等で地域と触れ合う機会を設ける。

道徳年間計画

年間計画

道徳1年指導計画

月	回	資料	内容項目	主題	ねらい
4-①	1	サッカーの漫画を描きたい	A-(4)	困難を乗り越える力	目標に向かって，希望と勇気をもって着実にやり抜こうとする実践意欲を育てる。
4-②	2	使っても大丈夫？	C-(10)	自他の権利と法の遵守	法やきまりの意義を理解し、自他の権利を重んじる自覚と判断力を養う。
4-③	3	あふれる愛	D-(19)	生まれてきた大切な生命	生命の偶然性や有限性を理解し、この世に生まれてきたすべての生命を尊重しようとする態度を育てる。
4-④	4	違いを乗り越えて	C-(18)	多文化の理解を深める	日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、ほかの国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする実践意欲を高める。
5-①	5	さかなのなみだ	C-(11)	公正，公平，社会正義	同調圧力などに屈することなく，自己と向き合い互いに協力して正義や公正を実現するために努力しようとする態度を育てる。
5-②	6	トマトとメロン	A-(3)	向上心，個性の伸長	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。
5-③	7	むかで競走	C-(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	学級や学校の一員として自らの役割と責任を自覚し，協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。
5-④	8	「愛情貯金」をはじめませんか	B-(7)	礼儀の心	あいさつの意義などを主体的に考え理解し，時・場所・場面に応じて適切な言動をしようとする実践意欲と態度を育てる。
6-①	9	木の声を聞く	D-(20)	自然を愛する	自然の崇高さを知り，自然に謙虚に向き合いながら自然の愛護に努めようする態度を育てる。
6-②	10	オーロラ―光のカーテン―	D-(21)	自然に感動する心	人間の力を超えた自然の素晴らしさに素直に感動し，自然の中で生かされていることを自覚して，自然に対する畏敬の念を深める。
6-③	11	「肝心」のバスガイド	C-(16)	ふるさとへの思い	先達のおかげで今の暮らしを営めることへの尊敬の念や感謝の気持ちを深め、主体的に郷土に関わろうとする態度を育てる。
6-④	12	花火に込めた平和への願い	C-(18)	世界平和のために	国際的視野に立って、他国を尊重することと世界平和の大切さを理解するとともに、よりよい社会形成や人類の発展に貢献しようとする態度を育む。
7-①	13	疾走，自転車ライダー	A-(2)	節度，節制	身近に起こりうる交通事故をもとに，安全や危機管理の大切さを理解し，安全で調和のある生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。
7-②	14	自分だけ「余り」になってしまう……	B-(9)	お互いを認め合う	いろいろなものの見方や考え方があることに気付き，寛容の心をもって謙虚に他者から学ぶ態度を育てる。
9-①	15	家族と支え合うなかで	C-(14)	支え合う家族	父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員として協力し合って生活しようとする実践意欲を高める。
9-②	16	いつわりのバイオリン	D-(22)	よりよく生きる喜び	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きる喜びを見出そうとする心情を育む。
9-③	17	奈良筆に生きる	C-(17)	伝統を守る	日本人としての自覚をもって我が国の優れた文化を継承し、その創造に貢献しようとする態度を育てる。
10-①	18	役に立つことができるかな	C-(13)	勤労	勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献する態度を育成する。
10-②	19	ゆうへ―生きていてくれてありがとう―	D-(19)	つながる生命	多くの人々の支えによって生きていると気付くことで，誰もがかけがえのない存在であると理解し，互いの存在を大切にしようとする実践意欲を育む。
10-③	20	震災を乗り越えて―復活した郷土芸能―	C-(16)	郷土芸能を伝える	郷土によって育まれてきた伝統と文化のよさを理解し，郷土への誇りや愛着をもち，郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度を育む。
11-①	23	私は清掃のプロになる	C-(13)	勤労	働くことの喜びを通じて生きがいや社会とのつながりを実感し，社会に貢献しようとする実践意欲を育てる。
11-②	21	バスと赤ちゃん	B-(6)	社会の中の思いやり	思いやりの心をもって人と接するとともに、多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、人間愛の精神を深める。
11-③	22	緑のじゅうたん	A-(5)	理想に向かって	現実を謙虚に受け止め，努力と工夫を重ね，理想に向かって人生を切り拓きたくましく生きようとする実践意欲を育てる。
11-④	24	公平と不公平	C-(11)	公平とは何か	話し合いをとおして公平とは何かを考え，大切さを理解し，差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。
12-①	23	挫折から希望へ	D-(22)	弱さを乗り越え生きる	人間には弱さとともにそれを克服する強さや気高さがあることを理解し，よりよい生き方をしようとする実践意欲を育てる。
12-②	26	人のフリみて	B-(6)	言葉のもつ不思議な力	日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの善意や思いやりに気付き，自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる。
12-③	27	部活の帰り	B-(8)	友情，信頼	異性についての理解を深め，互いに相手の人格を尊重し，接していく態度を育てる。
1-①	28	あったほうがいい？	C-(12)	よりよい社会のために	社会に尽くす公共の精神について深く考え、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。
1-②	29	ばあば	D-(19)	ともに生きる	生命は先祖代々つながっており、関わり合い支え合ってきたことを深く自覚するとともに、お世話になった方を尊重しようとする態度を養う。
1-③	30	富士山から変えていく	C-(12)	つながりが生み出す力	公徳心及び社会連帯の自覚を高め，一人ひとりが協力し，よりよい社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。
2-①	31	ふれあい直売所	C-(10)	社会のきまり	きまりの意義を理解し守ることで、自他の権利を重んじ、よりよい社会をつくろうとする実践意欲を育てる。
2-②	32	近くにいた友	B-(8)	友情，信頼	互いに信頼し高め合う友情の大切さを理解し，いっそう友達を大切にしようとする態度を育てる。
2-③	33	裏庭でのできごと	A-(1)	誠実な生き方	自分の行動に責任をもち，自らを律し，誠実に生きようとする判断力を育てる。
3-①	34	旗	B-(8)	友情，信頼	友情の尊さを理解するとともに，真の友情を築くために，互いに信頼し，励まし合おうとする実践意欲を高める。
3-②	35	私らしさって	A-(1)	自分の意志で	周囲の目に惑わされず、自分の中にある自主性を大切にし、自分で決め、考え、行おうとする実践意欲を高める。

年間計画

道徳2年指導計画

月	回	資料	内容項目	主題	ねらい
4－①	1	自分の弱さと戦え	D-(22)	自分の弱さの克服	自らの弱さを自覚し、それを克服しようとする強さをもち、人間として気高く生きようとする態度を育む。
4－②	2	土曜参観①研究部(道徳教育)作成資料	C-(10) C-(12)	公徳心 公共の精神	きまりを遵守し、確実に義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。 よりよい社会の実現は一人ひとりの行動によって成り立つことを知り、積極的にかかわろうとする道徳的実践意欲を培う。
4－③	3				
4－④	4	五月の風－カナー	A-(1)	**自分を信じて**	自主的に考え、判断し、誠実に実行していこうとする判断力を育成する。
5－①	5	五月の風－ミカー	B-(8)	**本当の友達**	互いに励まし合い、高め合う本当の友達をつくろうとする態度を育てる。
5－②	6	研究部(道徳教育)作成資料	C-(17) C-(18)	文化の尊重 国際理解	国際社会と向き合う我が国の一員としての自覚と責任をもって，国際貢献に努めようとする道徳的態度を養う。 他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高める。
5－③	7				
5－④	8	最後のパートナー	D-(19)	支え合う生命	命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する心を育て、周りの人と支え合って生きることに感謝する心情を養う。
6－①	9	夜のくだもの屋	B-(6)	人の思いやりへの感謝	人間は多くの人々の善意や思いやりによって支えられ、守られていることに気付き、感謝する態度を育てる。
6－②	10	海と空ー樫野の人々	C-(18)	国際社会の一員	世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする態度を育てる。
6－③	11	よみがえれ、えりもの森	D-(20)	自然環境を守る	人間は自然界のつばがりの中でおおくの恩恵を受けており、その有難さに感謝するとともに、自然を守り行動しようとする態度を育む。
6－④	12	美しい鳥取砂丘	C-(10)	規則の役割	互いに住みよい社会を目指す精神の大切さを理解し、調和と規律を保つための法やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。
7-①	13	樹齢七千年の杉	D-(21)	自然の偉大さ	自然の美しさや神秘さ、偉大さを感じ、人間の力を遥かに超えたものに対する畏敬の念を深め、豊かな心を育てる。
7-②	14	かずきの夏祭り	C-(16)	地域の祭りの大切さ	郷土の伝統と文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもって、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲や態度を育てる。
7-③	15	戦争を取材する	A-(5)	真実を追い求める	真理や真実を求め、理想の実現を目指して、よりよく生きようとする態度を育てる。
9-①	16	ヨシト	C-(11)	いじめへの公正な態度	偏見を正し正義を貫こうと決意する主人公の姿に共感することをとおして、正義を重んじ、偏見や差別をなくしていこうとする態度を育てる。
10-①	17	行動する建築家 坂　茂	C-(12)	社会のためにできること	社会桟がの意識を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。
10-②	18	避難所にて	A-(2)	節度・節制の大切さ	節度ある生活や節制に心掛けるために、周りの人の生活を見つめることで自分のｓ瑛活を見直し、思慮深く内省しようとする態度を養う。
10-③	19	研究部(道徳教育)作成資料	D-(22) C-(12)	災害時、わたしたちにできること	自分の行動が自分も他人も権利を大切にできているのかを考え、義務を果たして規律ある安定した社会を目指そうとする道徳的実践意欲を育む。 人間のもつ気高さに強い信頼感を寄せ、人間として生きる喜びについて自覚を深める。
10-④	20				
11-①	23	小さな工場の大きな仕事	C-(13)	社会への貢献	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労をとおして社会に貢献しようとする態度を養う。
11-②	21	挨拶は言葉のスキンシップ	B-(7)	心を形に	心と形が一つになった礼儀や作法の意義に気付き、相手を尊重する心をこめて、形に表していこうとする態度を養う
11-③	22	初心	A-(4)	初心に返る	目標や希望をもって生活することの大切さや意義を理解し、その達成を目指し、困難などがあっても強い意志でやり遂げようとする態度を育てる。
11-④	24	コトコの涙	B-(9)	わかり合うこと	人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。
12-①	23	リスペクトアザーズ	C-(11)	個性を尊重する社会	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める心情を育む。
12-②	26	体験ナースを通して	D-(19)	輝く生命	かけがえのない命を与えられていることに気付いて感謝し、自他の生命を尊重しようとする実践意欲を培う。
12-③	27	ハイタッチがくれたもの	C-(15)	私たちでつくる校風	集団で協力し合う大切さに気付き、狭い仲間意識を超えよりよい校風をつくろうとする意欲を育てる。
1 －①	28	ライバル	B-(8)	真の友情	生涯にわたる畏敬と信頼に支えられた真の友情について深く理解し、互いに認め高め合う友情を育もうとする態度を育てる。
1 －②	29	きいちゃん	C-(14)	家族のきずな	自分も家族にとってかけがえのない存在であることに気付き、家族の一員としての役割を果たそうとする心情を育てる。
1 －③	30	恋する涙	B-(8)	友情と好意	悩みや葛藤を乗り越えることで真の友情は培われるものであることを理解し、相手に信頼される自分になろうとする実践意欲を高める
2 －①	31	足袋の季節	D-(22)	強く気高く生きる	人間にある弱さと醜さを自覚しながらも、強く気高く人間として生きる喜びを見出そうとする態度を深める。
2 －②	32	ネット将棋	A-(1)	インターネット上の責任ある言動	国際社会に生きる日本人としての自覚を
2 －③	33	さよなら、ホストファミリー	C-(17)	日本人としての誇り	国際社会と向き合う我が国の一員としての自覚と責任をもって，国際貢献に努めようとする道徳的態度を養う。
3 －①	34	**命を見つめて**	D-(19)	**懸命に生きる**	**限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする心情を養う。**
3 －②	35	「自分」ってなんだろう	A-(3)	自己を見つめる	人それぞれ必ずその人固有のよさがあり、その発見と自己受容・自己理解に努め、自分らしさを発揮できる生き方を求める。

年間計画

道徳3年指導計画

月	回	資料	内容項目	主題	ねらい
4－①	1	銀メダルから得たもの	A-(4)	より高い目標をめざして	より高い目標を設定し，その実現のために努力や希望・勇気の必要性を理解するとともに，困難や失敗を乗り越えてやり遂げようとする実践意欲を高める。
4－②	2	サトシの一票	C-(12)	よりよい社会の実現	主権者として社会に主体的に参画し、社会の発展に寄与使用とする態度を育てる。
4－③	3	昔と今を結ぶ糸	C-(17)	日本の伝統文化	日本人としての自覚を深め，受け継がれてきた歴史や伝統文化の素晴らしさを理解し，発展させていく態度を培う。
5-①	4	違うんだよ，健司	B-(8)	本当の友情とは	友情の尊さを理解するとともに，友達をよき理解者として心から信頼し，互いに励まし高め合い，協力し合おうとする態度を育てる。
5-②	5	出迎え三歩，見送り七歩	B-(7)	おもてなしの心	礼儀は形と心が溶け合ったものであることを理解し，相手に対して敬愛する気持ちを自然と態度で示そうとする実践意欲を育てる。
5-③	6	自分・相手・周りの人	C-(12)	公共の場での心構え	公共の場での心構えを理解し，さらに一人ひとりが協力して，誰もが安心して生活できる社会をつくっていこうとする意欲を育てる。
6-①	7	本とペンで世界を変えよう	C-(18)	世界平和を考える	国際的な視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情を育てる。
6－②	8	研究部(道徳教育)作成資料	C-(17) C-(18)	文化の尊重 国際理解	国際社会と向き合う我が国の一員としての自覚と責任をもって，国際貢献に努めようとする道徳的態度を養う。 他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高める。
6-③	9				
6-④	10	命のトランジットビザ	C-(18)	人類愛，つながる命	国際的視野に立ち，人類愛について理解を深め，世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情や態度を育てる。
6-⑤	11	「川端」のある暮らし	D-(20)	自然とともに生きる	人間は自然の中で生かされていることを自覚し，自然環境を大切にするとともに，自分のできる範囲で自然愛護に努める態度を育てる。
7-①	12	町内会デビュー	A-(1)	自律的な生き方	自主的に考え、自らを律し、自分の決めたことを実行していこうとする判断力を養う。
7-②	13	ｉPS細胞で難病を治したい	A-(5)	夢の実現	よりよく生きるために，真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうとする実践意欲を育てる。
7-③	14	あるレジ打ちの女性	C-(13)	自分に大切な勤労の尊さ	主人公の変容を知ることによって，自分の考え次第で仕事が楽しくなることを理解し，働くことの素晴らしさについて学ぼうとする実践意欲を深める。
9-①	15	世界を動かした美	D-(22)	よりよく生きる	さまざまな環境の中で人間としてよりよく生きようとすることの大切さを学び，自分の生き方についての考えを深める。
9-②	16	「稲むらの火」余話	C-(16)	かけがえのない郷土	郷土のために尽くした先人の生き方を理解し，自らも地域社会の一員としての帰属意識をもち郷土に貢献しようとする意欲を育てる。
9-③	17	独りを慎む	A-(2)	自制する心	望ましい生活習慣を身につけ，充実した人生を送るために，節度を守り節制に心掛け，調和のある生活を自ら実践しようとする態度を養う。
10-①	18	電車の中で	B-(6)	本当の思いやり	家族などの支えや多くの人々の善意により，日々の生活や自分があることに感謝し，進んで周囲の思いに応えようとする態度を育てる。
10-②	19	命の大切さ	C-(11)	豊かな人権感覚	自分の立場のみ主張するのではなく，他者に目を向け，差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。
10-③	20	失った笑顔を取り戻す	C-(13)	仕事の意義	主人公の女性の変容を知ることによって，自分の考え次第で仕事が楽しくなることを理解し，働くことの素晴らしさについて学ぼうとする実践意欲を深める。
10-④	23	父は能楽師	C-(17)	日本の文化を引き継ぐ	先人の残した有形無形の文化遺産の中に優れたものを見出し，それを生み出してきた精神に学び，継承し発展させようとする心情を養う。
11-①	21	新しい夏のはじまり	A-(3)	前向きな生き方	自己を見つめ、これまでの自分を冷静かつ客観的に振り返るとともに、経験を生かした自分らしい新しい生き方をしようとする態度を育てる
11-②	22	言葉の向こうに	B-(9)	相手の気持ちを考える	それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる
11-③	24	エリカー奇跡のいのちー	D-(19)	生きていることの奇跡	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養う。
12-①	23	風景開眼	D-(21)	自然への畏敬	自然の神秘に感動し，人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めようとする心情を育てる。
12-②	26	私も高校生	A-(1)	自分で決めたこと	主体的に自分の生き方を考え，やろうと決めたことを誠実に実行し，その結果に責任をもつ態度を育てる。
12-③	27	ゴリラのまねをした彼女を好きになった	B-(8)	人を好きになる	異性への理解を深め，相手の内面的なよさに目を向け互いを向上させようとする心情を育成する。
12-④	28	ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン	C-(10)	規律ある社会	法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守ることにより、規律ある社会の実現に努めようとする態度を育成する。
1-①	29	塩むすび	B-(6)	感謝の心に応える	家族などの支えや多く人々の善意により，日々の生活や自分があることに感謝し，進んで周囲に応えようとする態度を育てる。
2-①	30	希望	D-(19)	かけがえのない生命	命の重さを，その連続性・有限性なども含めて理解するとともに，かけがえのない自他の生命を尊重しようとする意欲を高める。
2-②	31	臓器ドナー	D-(19)	自他の生命の尊さ	臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重する態度を育てる。
2-③	32	二通の手紙	C-(10)	法やきまりの意義	法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，規律ある社会の実現に努める態度を育てる。
2-④	33	一冊のノート	C-(14)	家族への敬愛	一冊のノートに書かれた祖母の苦悩や不安，家族への思いに気付く姿を通して，祖父母への敬愛を深め，家族の一員として慈しむ心情を養う。
3-①	34	卒業文集最後の二行	C-(11)	いじめを許さない心	いじめの非情さへの理解を深め，差別や偏見を見抜き，人間として許されないことを許さない態度を育てる。
3-②	35	お別れ会	C-(15)	我が校を愛する心	自分の学校に対する愛着を深め，協力して校風を継承し，発展させようとする態度を育てる。

（7）「特別活動の時間」の全体計画と年間計画

令和5年度　特別活動　全体計画

枚方市立第四中学校

教育基本法
学校教育法
学習指導要領
枚方市教育委員会の教育大綱

学校の教育目標
学びあい、つながりあい、幸せな人生にむけて挑戦し続ける生徒の育成

学校や地域の実態と課題
地域住民や保護者の教育的関心は高い。PTA 活動についても協力的である。

各教科との関連
・主体的な学習態度の育成
・科学的なものの見方・考え方の育成
・学習規律の確立と磨きあい、高めあう集団の育成

目指す生徒像『自分で考え判断し、行動できる生徒』
・人権キャリアを大切にできる生徒
・課題解決に主体的に取り組む生徒
・誇れる地域のオンリーワンな生徒

生徒の実態や発達課題
・基本的生活習慣が全般的に身についている。
・学習に対する意欲が高い
・規範意識が高い

道徳教育との関連
互いに考えを尊重し、伝え合い、人間としての生き方について、共に深く考え合う

めざすハタチ像
「自分らしく、まわりとつながり、何事にもチャレンジする」

教職員や保護者の願い
・自主自立の精神を持つ人間
・コミュニケーション能力の向上
・自分の将来について主体的に考え、行動できる

人権教育との関連
自尊感情を高め、他者受容の態度を育て、豊かな人間関係づくりを目指す

特別活動の重点目標
・「生き生きした学級づくり」を柱にして、生徒一人ひとりの自己実現を図る
・生徒が自ら考え、課題を発見し、相互に学びあう活動を通して、人間形成に必要な資質の向上と、社会の変化に主体的に対応できる力を養う

総合的な学習の時間との関連
・体育祭、文化祭
・キャリア教育
1年：小中交流会
2年：総合発表会
3年：進路学習

	学級活動の目標 多様な他者とより良い人間関係を形成し、協働して日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。	生徒会活動の目標 学校生活の充実と向上を図り、委員会や学年・学級など生徒の諸活動の連絡調整を行うことで自主・自立の精神や社会性を育成する。	学校行事の目標 学校生活に充実感と達成感を感じさせ、集団や社会への所属感を持たせる。また学年の枠を超え、体験的な活動を行うことを通して、意義や必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できる能力を養う。
指導の方針	学級を単位として ・自発的、自治的な活動の中心とし、生徒主体となるように進める ・合意形成を図っていくための手順や方法を身につけさせる ・時には題材を設定し、問題意識を高めさせ、課題解決に向けて実践させる	・よりよい学校生活づくりを通じて、自発的、自治的な能力を高める。 ・ボランティア活動等の社会参加を通じて、社会貢献の精神を育む。 ・全校生徒が生徒会役員であることを自覚し、よりよい校風作づくりに尽力できる態度を養う。	多様な他者との協働（つながり）を意識して ・それぞれの学校行事の意義やつながりを明確にする。 ・自己決定や課題解決の場面を通じて主体性を育む。 ・自己の役割や生き方を考えられる機会を充実させる。
活動の内容	(1)学級や学校の生活づくりへの参画 ア イ ウ　重点目標 ウ ・学級目標設定 ・学級役員選出 ・学級組織づくり ・自己紹介 ・校外学習、宿泊学習 (2)適応と成長および健康安全 ア イ ウ エ オ　重点目標 ア、イ ・支援学級ぴらき ・平和学習 ・人権学習 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ア イ ウ エ オ　重点目標 ア、ウ ・ビブリオバトル ・職業講話 ・体育祭、文化祭 ・職業体験 ・進路学習	(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 生徒会が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。 (2)(3)文化的行事・体育的行事の融合「体育祭・文化祭」 異年齢集団による創作活動を通じて主体性を育み、自己の役割の理解や責任感や連帯感の涵養につなげる。 (4)学校行事への協力 学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。 (5)ボランティア活動などの社会参画 地域や社会の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。	(1)儀式的行事 新しい生活の展開への動機付けや学校生活を振り返る機会とする ・入学式・卒業式(国旗掲揚、国歌斉唱) ・始業式・終業式 (4)旅行・集団宿泊的行事 キャリア教育の一環として自然に触れる体験を重視し、個人の役割の自覚と集団生活の規律を学ぶ。 1年：自然体験(京都府宇治) 2年：宿泊体験(滋賀県琵琶湖) 3年：宿泊体験 (5)勤労生産・奉仕的行事 学ぶや働くことに関する意義や役割の理解を深め、将来の職業選択や自らの生き方を考える。 ・職業講話 ・職場体験活動(2日間)
本校の特色	・全教科における話し合い活動の充実 ・教科横断的な取り組みの実施 ・キャリア教育を軸とした体験活動を実施し、まとめ、プレゼンテーションをおこない、意見交流の場を持たせている	・朝のあいさつ運動 ・体育祭・文化祭の活動を通じて、縦と横のつながりを意識した取り組みを実践し、リーダーの育成を図る。 ・募金活動等の社会貢献活動。 ・防災ディスカッション等への参加、他校との交流。	・異年齢集団の行事を活用して「自立」「協働」「創造」の力を身につけさせている ・キャリア教育を軸とした体験活動を実施し、学ぶことや働くことに関する意義や役割の理解につなげている。 ・小学校や保育所・幼稚園、地域の事業所との連携で ・職業講話や職場体験活動などでの自己決定する場面が多い。 ・ふりかえり活動が重視し、自己の成長や課題を実感できる・
評価と改善	・さまざまな活動の過程で生徒の成長を促す手立てを講じる ・集団決定や自己決定した内容の実践と課題を自己評価や相互評価、教師の観察などで評価し、よりよい実践につなげる ・生徒アンケート、学校自己診断等の評価結果を分析し、次なる取り組みにいかす	・生徒アンケートの実施。生徒の実態や様子を把握し、課題の克服、学校行事の改善につなげる。 ・定例委員会等の活動を通じて、学校の問題点を共有し、よりよい学校生活を送るための工夫や取り組みにいかす。	・生徒アンケートを実施し、学期や行事の前後での生徒の状態を見取り、キャリア・カウンセリング（教育相談を含む）に活用する。 ・学期ごとに各行事の内容を振り返る校内研修を実施し、その効果を数値化するとともによりよい実践につなげる。

学習環境の整備・充実
・教室のユニバーサルデザイン
机と椅子のテニスボールカバー、掲示物の精選などにより、学習に集中しやすい環境づくりに努める
・ICT 機器の充実
各教室にスクリーンとプロジェクターの常設、全生徒と全職員がタブレットをもつことにより、発展的に考えたり、自分の意見を表現したりする力を養う。

本校のキャリア教育
・学習と自己実現のつながりを考えたり、自主的に学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返る力の育成
・社会の一員として考えて行動する生徒の育成
・目標を持って、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えるちからを養う

保護者との連携
・PTAの各種事業による教育活動への支援
・教育課題等の共有

生徒指導
・基本的生活習慣の確立に根ざした生徒の育成
・社会性の向上と自己指導力の育成
・内面理解に根ざした指導の推進

地域・小学校との連携
・小中連携　：　小中一貫事業として、「めざすハタチ像」を第　四中学校区で共有し、生徒に身につけさせた　い力を明確にして教科を軸に連携する。また、　小中交流会にて、中1が小6に中学校生活について報告する。
・地域連携（開かれた教育課程）　：　オープンスクールだけでなく清掃活動や職場体験、部活動等で地域と触れ合う機会を設ける。
・地域の方々による教育活動への支援
・「めざすハタチ像」の共有

特別活動年間計画

		1年		2年		3年	
4	1	学級開き・学級づくり	(1)―イ	学級開き・学級づくり	(1)―イ	学級開き・学級づくり	(1)―イ
	2	自己紹介	(2)―オ	自己紹介	(2)―オ	自己紹介	(2)―オ
	3	共生社会学習	(2)―イ	共生社会学習	(2)―イ	共生社会学習	(2)―イ
	4	校外学習にむけて	(2)―ア	校外学習にむけて	(2)―エ	修学旅行にむけて	(2)―エ
5	5	校外学習にむけて	(2)―イ	校外学習にむけて	(2)―ア	修学旅行にむけて	(2)―ア
	6	生徒総会にむけて	(1)―ウ	校外学習にむけて	(2)―イ	修学旅行にむけて	(2)―イ
	7	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア
6	8	防災訓練	(2)―エ	防災訓練	(2)―エ	防災訓練	(2)―エ
	9	総合発表会にむけて		総合発表会にむけて		総合発表会にむけて	
	10	総合発表会にむけて		総合発表会にむけて		総合発表会にむけて	
	11	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア
7	12	平和学習	(3)―イ	ビブリオバトル	(3)―イ	平和学習	(3)―イ
	13	ビブリオバトル	(3)―イ	非行防止教室	(2)―ウ	ビブリオバトル	(3)―イ
	14	1学期の反省	(1)―ア	1学期の反省	(1)―ア	1学期の反省	(1)―ア
9	15	体育祭、文化祭にむけて	(2)―エ	体育祭、文化祭にむけて	(2)―エ	体育祭、文化祭にむけて	(2)―エ
	16	体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて	
	17	体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて	
	18	体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて		体育祭、文化祭にむけて	
10	19	体育祭、文化祭ふり返り		体育祭、文化祭ふり返り		体育祭、文化祭ふり返り	
	20	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア	HR学習会	(2)―ア
	21	生徒会役員選挙にむけて	(1)―ウ	生徒会役員選挙にむけて	(1)―ウ	生徒会役員選挙にむけて	(1)―ウ
11	22	ビブリオバトル	(3)―イ	職業体験にむけて	(3)－ア	進路学習	(3)―イ
	23	職業講話にむけて		性教育	(2)―ウ	進路学習	
	24	HR学習会	(3)―ア	HR学習会	(3)―ア	HR学習会	(3)―ア
12	25	性教育	(2)―ウ	ビブリオバトル	(3)―イ	ビブリオバトル	(3)―イ
	26	人権学習	(2)―ウ	人権学習	(2)―ウ	人権学習	(2)―ウ
	27	2学期の反省	(1)―ア	2学期の反省	(1)―ア	2学期の反省	(1)―ア
1	28	HR学習会	(3)―ア	HR学習会	(3)―ア	進路学習	(3)―ウ
	29	人権学習	(2)―イ	人権学習	(2)―イ	ビブリオバトル	(3)―イ
	30	ビブリオバトル	(3)―イ	ビブリオバトル	(3)―イ	学年行事	
2	31	学年行事		学年行事にむけて		性教育	(2)―ウ
	32	進路学習	(3)―エ	学年行事		3学期の反省	(1)―ア
	33	進路学習	(3)―ウ	進路学習	(3)―ウ	3年間のふり返り	
3	34	3学期の反省	(1)―ア	3学期の反省	(1)―ア	進路学習	(3)―ウ
	35	2年生にむけて	(3)―ウ	3年生にむけて		これからの自分の生き方	(3)―ウ

(8)「人権教育」の全体計画と年間計画

① 全体計画

R5 年度　枚方市立第四中学校　人権教育　全体計画

関係法令等

・日本国憲法　・教育基本法　・学校教育法　・子どもの権利条約　・人権及び人権啓発に関する基本計画
・障害者差別解消法　・ヘイトスピーチ対策法　・部落差別解消推進法

学校教育目標

学びあい、つながりあい、幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育

本校の実態

＜生徒像＞

本校の生徒像として、経済的に余裕のある家庭が多く、保護者とともに、人と比べて自分の位置を確かめようとする生徒が非常に多い。人間関係が希薄で、ありのままの自分を大切にすることができない生徒も多い。反面、温厚な生徒が多く、子ども同士は仲間との繋がりを求めている。

＜保護者・地域の願い＞

いじめや差別のない学校を願い、子どもが楽しく学校へ行くことを望んでいる。反面、勉強に固執する家庭が多く、偏差値の高い学校へ進学することを強く望んでいる。

育てたい生徒像

・違いを認める豊かな心をもつ生徒
・自分を大切にすることができる生徒
・差別やいじめを許さない生徒

目指す教員像

・確かな人権感覚をもつ
・個別の人権課題を自分の問題として捉え、解決していくための実践ができる
・生徒や保護者に寄り添うことができる

教職員研修

・人権問題について理解する
・生徒と結びつけ、指導に活かす
・日常的に人権感覚を研ぎ澄ます

人権教育

学級（集団・仲間づくり）

40人が集まる学級には、40通りの生活があり、40通りの違いがある。社会の縮図ともいえる学級で、40人が40通りの違いを認め合い、支え合い、ともに力を合わして乗り越えていくことが出来る力をつけるために取り組んでいること自体が、人権教育と結びついている。また、個別の人権課題を自分自身に引きつけて学ぶためにも、仲間の存在が重要である。仲間の生い立ちと重ねて、自分の生い立ちをふり返り、生き方を考えられるようになる。お互いの悩んでいることを出し合い、共有することによって、お互いを鍛え合うような関係を育てる。違いを認め合うことができるようになるためには、子どもたちを生活ごと繋げることが重要である。そのために班活動に力を入れ、子どもたちを繋げる取り組みが必要がある。

総合的な学習の時間

各教科（道徳）

道徳が教科化されたことから、道徳教育と人権教育の関連性を考えて取り組んでいく必要がある。文部科学省も、道徳科で人権について教えることを承認している。検定を通ったある教科書では、子どもの権利条約、世界人権宣言、を教材化している。「私には夢がある」（黒人差別をなくそうとする運動）や、「差別のない社会を目指す」という教材では、世界人権宣言と結びつけつつ、外国人差別を教材化している。そのため、道徳部、人権部とタイアップして取り組みを進めていくことが、より豊かな心を育むことに繋がると考えることが出来ると考えられる。各教科においても、命、歴史、科学、言語、文化、芸術など、人権教育と関連して学びを深めていくことが必要だと言える。

個別の人権課題（領域別）

最低でも3年間に一度は学習

ICT部、支援教育部、養護教諭などとのタイアップ

部落問題学習

・職業差別
・就職差別
・結婚差別など

多文化共生教育

・在日コリアン
・中国残留孤児
・難民の問題
・ニューカマーなど

ジェンダー学習

・女性差別
・セクシュアルマイノリティ
・就職差別
・職業差別など

障がい者理解教育

・共生教育
・ユニバーサルデザイン
・バリアフリーなど

平和学習

・命の大切さ
・戦争の悲惨さ
・世界の紛争
など

情報教育

・メディアリテラシー
・根拠なき情報
・誹謗中傷
・SNS上での人権侵害 など

②年間計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
1年	共生社会学習（障がい者理解）	ちがいのちがい	ジェンダー学習（性差～LGBTQ）		平和学習（枚方）		人権講演会に向けて	人権講演会	多文化共生教育（国際理解）		部落問題学習（就職差別）		
2年		情報教育			平和学習（広島　長崎　沖縄）				多文化共生教育（在日問題）		部落問題学習（歴史）		
3年			クラスミーティング		人権作文				多文化共生教育（権利）		部落問題学習（特権～結婚差別）		
教員		校内研修	←セクシャルマイノリティ		校内研修	←人権学習をする意味		校内研修	←多文化共生		校内研修	←部落問題学習	

3年間の全体計画をベースとして、人権学習を系統立てて行っていく。6つの領域を3年間で1度は必ず学習する。生徒の実態に沿って領域の変更、追加はしてよいものとする。

障がい者理解	多文化共生	部落問題	ジェンダー	平和	情報
・支援学級の仲間 ・インクルーシブ ・ユニバーサル ・バリアフリー ・自立	・国際理解 ・日本に住む外国人 ・在日外国人問題 ・権利	・職業差別 ・就職差別（履歴書） ・結婚差別 ・解放運動 ・ネット差別	・女性差別 ・セクマイ ・自分らしさ ・制度問題	・枚方 ・長崎、広島 ・沖縄（地上戦） ・世界	・うわさ ・デマ ・リテラシー ・SNS

（9）食育推進全体計画と年間計画

令和5年度　食に関する指導の全体計画

生徒・地域の実態	教育目標	学習指導要領 食育基本法 食育推進基本計画 教育委員会の方針
弁当を好む生徒が多い。給食には、子どもたちの好き嫌いによる栄養バランスの偏りなく、様々な食材が献立に含まれているが、苦手なものは残す生徒が一定数いる。	学びあい　つながりあい 幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成	

食に関する指導の目標

① 食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解をする
② 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身につける
③ 正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける
④ 食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心を育む
⑤ 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける
⑥ 各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ

各学年の食に関する指導の目標

１年	２年	３年
● 毎日規則正しく食事を摂ることができる。 ● 自分の生活や将来の課題をみつけ、望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進しようとする。	● 食環境と自分の食生活との関わりについて理解することができる。 ● 身体の発達に伴う必要な栄養や食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養について理解する。	● 生活の中で食事が果たす役割や健康との関わりを理解する。 ● １日分の献立をふまえ、簡単な日常食の調理ができる。 ● 食品の安全で衛生的な取り扱いができる。

特別活動	昼食の時間（全学年）	● 決められた時間内に食べる。食事のマナーに気をつける。好き嫌いなく食べる。 ● 食事の場の雰囲気づくり、食前・食後の過ごし方を考える。 ● すべての人に感謝の気持ちをもつ。 ● 協力して食事の準備をするという気持ちをもつ。		
	学級活動	安全で衛生的な昼食・楽しい昼食・健康な心身をつくるための指導、正しい生活習慣の確立		
	学校行事	身体測定、内科検診、歯科検診、宿泊的行事		
	生徒会行事	保健委員会活動、生徒集会		
		１年	２年	３年
教科との関連	技術・家庭（家庭分野）	私たちの食生活 ● 健康と食生活	私たちの食生活 ● 食品の選択と保存 ● 調理をしよう ● 地域の食材と食文化	
	保健体育			健康な生活と病気の予防
	理科	植物のくらしとなかま	動物のくらしとなかま	自然と人間のかかわり
	社会	〔地理的分野〕 世界各地の人々の生活と環境・世界の諸地域 〔歴史的分野〕 古代までの日本・中世の日本	〔地理的分野〕 日本の地域的特色と地域区分・日本の諸地域 〔歴史的分野〕 近世の日本・開国と近代日本の歩み・	〔歴史的分野〕 二度の世界大戦と日本・現代の日本と世界 〔公民的分野〕 現代社会と私たち・私たちの暮らしと経済
	英語	GET Plus1 （どんな食べものが好きか聞き合う）	Lesson2 （職場体験【農場】） Lesson6 （中国茶について）	Project1 （日本限定アイスクリームの提案） Take Action! （サンドイッチに何を入れるか考える）
家庭・地域連携		給食だより、保健だより、PTA 実行委員会		
個別指導		保護者からの申し出、定期健康診断の結果、エピペン所持、日常の食生活の様子等から個別相談指導が必要な生徒を対象に実施する。		

(10)中学校区のキャリア教育全体計画

四中学園　キャリア教育全体指導計画									
めざす ハタチ像	自分らしく　まわりとつながり　何事にもチャレンジする								
学　年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
発達段階の目標	なかよしになろう （関心をもとう）		友達と協力しあおう （関わりを深めよう）		自己を生かそう （自分を大切に）		自己を見つめる	達成感を味わう	進路を切り開く
つけたい力	つながる わかる		つながる チャレンジ		つながる わかる きめる		つながる わかる きめる	つながる わかる えがく	つながる きめる えがく チャレンジ
活動名	・給食がはじまるよ ・みんなみんな大すきだよ	・ともだちをつくろう ・ともだちを知ろう	まちたんけん	福祉教育	わが国の産業	修学旅行の取り組み	職業講話 体育祭 文化祭	職場体験 体育祭 文化祭	保育体験 進路選択 体育祭 文化祭
目　的	・給食当番としてそれぞれが役割を果たすことの大切さを知る ・家の人の仕事を知る	・自分以外の他者を知り、なかよくなれる。	働く人の仕事を理解し、仕事の楽しさや苦労を知る	夢を持つことの大切さに気付き、目標に向かって希望と勇気持ってくじけないで努力しようとする心情を育てる	私たちの生活を支える仕事やその工夫を知る。	平和の大切さ、命の尊さを知りる	将来について考える	仕事について考える	自己の進路について考える
活動内容	・給食当番としてそれぞれが役割を果たす。 ・家の人の仕事調べ自分にできることをやってみる	・ともだちのいいとこみつけ	地域のスーパーや施設の様子を見学する スーパーで働く人の仕事を見学する	障がい者の方から職業や将来の話を聞くふれあい交流会を計画・実行する 高齢者の方にお礼の手紙を書く	・バケツ稲づくり ・自動車工場見学 ・新聞社見学	・社会科で戦争について学習する ・ヒロシマについて調べ学習をする ・原爆被害者の会の人の話を聞く	将来の姿を考える 仕事の話を聞く 表現活動	職業体験 表現活動	進路選択
期待する子どもの変容 目的達成に向けたポイント	・自分の役割を知り仕事をやりとげようとする。 ・家族の一員として自分にできることをしようとする。	・他者を認め、なかよくしようとする。 ・遊びの中から、他者を知る。	校区のスーパーや施設の人々に関心を持つことができた	障がい者の様々な生活や生き方があることに気付いた	稲を育てる体験や工場、新聞社等の見学を通じ、私たちの生活を支える産業を知り、そこで働く人の工夫や姿勢に興味を持つ。	修学旅行に向けての学習を通じ、命と平和の尊さを知り、家族や仲間を思いやる心をそだて、将来の自分について考えられる力を持つ。	将来の姿や仕事について考え、社会を見つめることができる 表現の探求により社会の仕組みを感じる	実際の仕事に触れ、社会の仕組みを理解する 表現の探求により社会の仕組みを感じる	保育に触れ、自己理解から進路選択ができる 表現の探求により社会の仕組みを感じる

(11)学校保健・安全計画

1. 目標

生徒ひとりひとりの心身の健康な発育を目指して、保健教育、保健・安全管理を行う。

2. 重点目標

（1） 自分の身体に関心を持ち、自主的な健康管理のできる態度を養う。
（2） 基本的生活習慣の形成や、生活リズムの確立を目指す。
（3） 生徒の実態に即した保健指導を行う。
（4） 家庭、地域社会との連携を密にして、協力体制の強化を図る。

3. 学校保健・安全計画

月	月の重点目標	学校保健関係行事	保健・安全管理	保健教育
4	自分の健康状態を知ろう	・定期健康診断（身体測定・視力検査・聴力検査・検尿一次・内科検診・12 誘導心電図検診） ・保健委員会活動	・保健調査の実施 ・定期健康診断の計画立案と実施及びその事後措置・感染症予防対策 ・健康相談 ・交通安全	・健康診断の事前事後指導 ・保健室の使い方・保健だより発行 ・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
5	けがの予防	・定期健康診断（内科検診・心臓医師心電図検査・耳鼻科検診・検尿二次検査・検尿三次検査）・修学旅行・保健委員会活動	・定期健康診断の計画立案と実施及びその事後措置 ・宿泊学習の事前健康調査及び準備 ・修学旅行・健康相談	・健康診断の事前事後指導 ・けがの予防 ・宿泊学習時の健康安全 ・保健だより発行
6	歯の健康を考えよう	・定期健康診断（眼科検診・歯科検診） ・水質検査・防災訓練 ・学校保健委員会・保健委員会活動 ・1, 2年校外学習	・定期健康診断の計画立案と実施及び その事後措置 ・健康相談 ・感染症対策 ・災害時における安全管理	・健康診断の事前事後指導 ・梅雨時の食中毒予防・保健だより ・歯と口腔の健康・プールの安全指導 ・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
7	夏を元気に過ごそう	・プール水質検査・保健委員会活動 ・1 年交通安全教室 ・2 年薬物乱用防止指導 ・3 年非行防止教室	・定期健康診断結果のまとめ及び要精検者の事後指導 ・空気検査 ・プールと飲料水の水質管理 ・熱中症予防 ・夏休みの健康と安全	・夏休みの生活 ・保健だより発行 ・熱中症（休息と水分補給） ・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
9	生活リズムを整えよう	・文化祭・体育祭 ・保健委員会活動	・基本的生活習慣 ・健康相談	・生活リズムを整える。 ・保健だより発行
10	運動にしたしもう	・保健委員会活動	・健康相談・健康安全管理	・保健だより発行 ・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
11	自分のからだを知ろう	・保健委員会活動 ・モアレ検査・性教育指導	・感染症予防・対策 ・手洗い場の衛生管理 ・健康相談	・保健だより発行・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
12	感染症を予防しよう	・教室換気点検 ・保健委員会活動	・感染症予防・対策 ・換気指導・冬休みの健康安全 ・健康相談	・うがい、手洗いの励行 ・冬休みの健康指導 ・保健だより発行
1	食生活を考えよう	・教室換気点検 ・保健委員会活動	・健康相談	・保健だより発行・うがい、手洗い、アルコール消毒の励行
2	心の健康を考えよう	・照度検査・保健委員会活動	・健康相談	・心の健康 ・保健だより発行
3	1 年間の健康生活を振り返ろう	・保健委員会活動	・次年度定期健康診断の計画 ・今年度保健室来室状況及び学校災害のまとめ ・春休みの健康安全	・春休みの健康指導 ・保健だより発行 ・3年成長の記録配布

令和5年度　　学校安全計画　　※学級活動の欄　◎…1単位時間程度の指導　●…短い時間の指導　　枚方市立第四中学校

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月の重点目標			安全な登下校をしよう	施設・設備の安全・適切な利用を心がけよう	健康と安全に留意しよう	健康と安全に留意しよう	生活リズムを保ち、健康で安全な生活を送ろう	健康と安全に留意しよう	交通法規を理解し、順守しよう	危険に対して適切な対応をとれるようにしよう	健康と安全に留意しよう	交通法規を理解し、順守しよう	生活リズムを保ち、健康で安全な生活を送ろう	健康と安全に留意しよう
道徳			役割と責任	共に学び共に成長すること	生命尊重	平和を求めて（生命の尊重）	社会への奉仕	公徳心と正義	集団生活の向上	生きる喜び	郷土愛	生命の尊重	自主自立	他者への感謝
安全教育	安全学習	理科	理科室の使用上の注意	薬品・ガラス器具の使い方 ガスバーナーの使い方		薬品検査	備品点検		電気器具の使い方		理科室と準備室の整備		大地の変化　火山・地震・津波	備品点検 薬品点検
		社会	地形から見た日本の特色・気候から見た日本の特色（2年地理）	自然災害と防災・減災への取り組み（2年地理） 関東大震災（3年歴史）				自然環境に適応する人々の工夫（2年地理）	阪神・淡路大震災（2年地理）		東日本大震災（2年地理）	自然の制約に適応する人々の工夫（2年地理）		
		美術		美術室の使用上の注意	備品の点検整備 カッターの使い方	電動のこぎりの使い方 カッターの使い方	備品点検 ニードルなどの点検	はさみ、カッターの使い方	彫刻刀の正しい使い方 ニードルの使い方	備品の点検		印刀の使い方	絵の具・用具の保管	器具・用具点検
		体育分野	集団行動の徹底 用具・施設の使い方	体力テスト 備品の点検整備	器具の安全点検	水泳の事故防止について 健康管理	備品検査	武道（剣道）用具の使い方と手入れ	備品検査	備品検査	備品検査		器具・用具点検	
		保健分野	心身の発達と心の健康（1年） 健康と環境（2年） 健康な生活と病気の予防（3年）		AED講習会				応急手当の仕方（2年）	→	→	→	→	→
		技術	技術室の使用上の	作業場所の確保と危険の回避 電子機器の利用と安全	実習時の安全な服装 電磁波の影響について	工作機械や工具の点検　工具の安全な使い方	切削加工時の安全 材料の切断・接合	備品の点検整備	電気器具の取扱い 電気の安全な利用	電気器具の過熱と漏電	実習時の安全な服装	電気製品の製作時の安全配慮 電気工具の安全な使い方	はんだ付けによる火傷の注意	器具点検整備 備品検査（台帳管理）
		家庭	実習・製作中の安全と防災（1・2年）	健康と食生活（1,2年）	→ 包丁の安全な使い方（2年）		器具・用具点検	洗濯機の使用の注意（1年）	裁縫道具の使用上の注意（1年） 食品の安全と情報（2年）	火を扱うときの注意（2年） 幼児とふれ合う準備（3年）	器具・用具点検	家庭内の安全（1年） 暮らしの中のマーク表示（2年）	室内の空気を汚染するもの（1年）	災害への備え・地域の安全（1年） 器具・用具点検
	安全指導	学級活動 第1学年	●通学路の確認・交通安全指導 ●部活動での安全	◎校外学習での安全	◎自転車の安全な乗り方 ◎避難訓練	◎自分の生活の振り返り ◎夏休みの生活計画と安全・防犯	●夏の生活の振り返り ●登下校の安全	◎総合発表会の取り組みの安心・安全な活動。下校時間の遵守	●秋の交通安全指導 ●自転車点検	●下校時間の遵守 ◎交通事故の加害と被害 ◎避難訓練	●火器への注意 ◎冬休みの生活計画と安全と防犯	●冬休みの振り返り ◎災害への備えと協力	◎降雪時の安全 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ◎震災から学ぶ命 ●球技大会での安全
		学級活動 第2学年	●通学路の確認・交通安全指導 ●避難経路の確認	◎障がいのある人への理解と支援 ◎校外学習での安全	◎校外学習での安全 ◎避難訓練 ●雨天時の校舎の通行の注意	◎自己の生活の振り返り ◎夏休みの生活計画と安全・防犯 ◎非行防止教室	●夏の生活の振り返り ●風紀・挨拶、登校指導	◎総合発表会の取り組みの安心・安全な活動。下校時間の遵守	●秋の交通安全指導 ◎職場体験学習での安全な活動	●下校時間の遵守 ◎携帯電話やネットの安全な利用 ◎避難訓練	●火器の注意 ●球技大会での安全 ◎冬休みの生活計画と安全と防犯	◎震災から学ぶ ●冬休みの振り返り ●自身の健康管理	●降雪、凍結時の安全 ●自身の健康管理()	●1年間の反省 ●球技大会での安全 ◎震災から学ぶ命
		学級活動 第3学年	●通学路の確認・交通安全指導 ●避難経路の確認	◎修学旅行での安全	◎避難訓練 ●雨天時の校舎での過ごし方	◎自己の生活の振り返り ◎夏休みの生活計画と安全・防犯	●夏の生活の振り返り ●登下校の安全 ●交通機関活用のルール・マナーについて	◎総合発表会の取り組みの安心・安全な活動。下校時間の遵守	●秋の交通安全指導	●疾病と予防、体調管理について ◎避難訓練	●火器の注意 ◎冬休みの生活計画と安全と防犯 ●自身の健康管理	●冬休みの振り返り ●自身の健康管理 ●交通機関活用のルール・マナー	●降雪・凍結時の安全 ●球技大会での安全	◎震災から学ぶ ◎学校・教室環境の整備修繕
		生徒会活動	●昼休みの過ごし方（ボール使用の注意） ◎新入生オリエンテーション（クラブでの安全・下校時間・登下校の安全）	●生活委員会（登下校時の安全） ●クラブ部長会（クラブ中の安全・下校時の安全）	●生活委員会（雨天時の校舎内の過ごし方） ●保健委員会（けがの注意）	●保健委員会（健康管理・熱中症対策） ●クラブ部長会（夏休みのクラブ活動の注意点）		●総合発表実行委員会（活動時間の厳守・活動のきまり）	●クラブ部長会（下校時刻の確認・下校時の安全）	●生徒朝礼（下校時刻の厳守）		・四中見学会 ●本部指導（四中見学会での安全確認） ●クラブ部長会	●保健委員会（健康管理・インフルエンザ対策） ●クラブ部長会（下校時刻の確認）	
		主な学校行事等	・入学式 ・健康診断 ・春の交通安全運動	・新体力テスト ・校外学習（1年） ・宿泊学習（2年） ・修学旅行（3年）　・防災避難訓練（火災）		・終業式	・始業式		・秋の交通安全運動時の啓発活動	・防災避難訓練（不審者）	・終業式	・始業式 ・避難訓練（地震）	・球技大会	・卒業式 ・球技大会 ・修了式
安全管理		対人管理	学校生活における安全	自転車の乗り方	プール授業での安全	熱中症の防止 自転車の乗り方		総合発表会の準備と安全	避難訓練	不審者への注意喚起		登下校時の安全パトロール		1年間の人的管理の評価
		対物管理	通学路の点検（交通安全運動）	体育祭での運動場整備	プールの安全点検		学校設備の安全点検	避難経路の確認	防火設備の点検				学校備品の安全点検	1年間の安全点検の評価
学校安全に関する組織活動			・登下校指導（年間） ・春の交通安全運動時の啓発活動 ・保護者、教職員の街頭指導	・避難訓練 ・校外における生徒の安全行動把握、情報交換 ・防災講演会	・地域の危険箇所点検 ・防災に関する研修 ・心肺蘇生法（AED）研修	・交通安全教室 ・非行防止教室 ・薬物乱用防止教室 ・保健委員会	・地域パトロール	・880万人訓練 ・秋の交通安全運動時の啓発活動 ・保護者、教職員の街頭指導		・避難訓練（不審者） ・冬季の通学路点検	・年末・年始の交通安全に関する啓発活動		・保健委員会	

(12)学年の目標

＜第一学年＞

目標	自分を見つめ、他人を認め合う姿勢を育て、中学生としての自覚を育てる
つけたい力	方 策
・集団生活の規律とマナーを身につけさせる	・中学校生活全般において、挨拶、チャイム席、清掃などの指導に努める ・学年教師集団の連携と共通認識のもとで指導にあたる
・より良い集団を目指し、思いやりの心を育てる	・クラス・班・係を単位にした活動を充実させ、互いに励まし合ったり、注意し合ったりして、人とのつながりの中で成長を促す ・リーダーの育成を図る
・互いの人権を尊重し、友情を深めさせる	・各教科、道徳、特活、総合的な学習の時間において、互いの人権を尊重する取り組みを行う。
・基礎学力を定着させる	・落ち着いた雰囲気の中で授業を受けさせる
学年行事 ・校外学習　6月9日(金) ・職業講話　2学期頃を予定	

＜第二学年＞

目標	自分を見つめ、他人を認め合う姿勢を育て、地域社会の一員としての自覚を持たせる
つけたい力	方 策
・集団生活の規律とマナーを身につけ、自ら考え、行動できるようにする	・中学校生活全般において、挨拶、チャイム席、清掃などを自らできるようにさせる ・学年教師集団の連携と共通認識のもとで指導にあたる
・ともに成長する喜びを感じられるより良い集団を作る	・生徒会活動などを通して生徒達が互いに協力することにより達成感を持たせる ・リーダーの育成を図る
・互いの人権を尊重し、思いやりの心を持ち、友だちを大切にできる	・各教科、道徳、特活、総合的な学習の時間において、互いの人権を尊重する取り組みを行う
・基礎学力を定着させ、活用できる	・落ち着いた雰囲気の中で授業を受けさせる ・互いに教え合って理解をすすめるよう指導する
学年行事 ・宿泊学習　近江八幡方面　5月30日(火)～31日(水)1泊2日 ・職場体験　10月下旬	

＜第三学年＞

目標	自分を見つめ、他人を認め合う姿勢を育て、自分の進路を正しく選択できる力を育てる
つけたい力	方　策
・集団生活の規律とマナーを身につけさせ、自ら責任を持って、行動できるようにさせる	・中学校生活全般において、挨拶、チャイム席、清掃などができる ・学年教師集団の連携と共通認識のもとで指導にあたる
・進路実現に向けてより良い集団を目指し、ともに成長する喜びを感じ、お互いを支えあえる集団を作る	・行事を通して仲間と頑張ることの喜びや、自分の力を活かして人のために活動し、役立つことの喜びを感じさせる ・5年後10年後の自分の「生き方」を考え、その社会を生き抜く力をつける
・互いの人権を尊重し、相手の立場にたって認め合うことができる	・各教科、道徳、特活、総合的な学習の時間において、互いの人権を尊重する取り組みを行う
・基礎学力を定着させ、応用することができる	・落ち着いた雰囲気の中で授業を受けさせる ・互いに教え合って理解をすすめ、ともに課題解決する力をつける
学年行事 ・修学旅行（信州方面　自然体験）　5月21日（日）、22日（月）、23日（火）	

(13)分掌の目標と年間計画

＜教務部＞

目標	円滑な学校運営の実現に向けて支援する。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、系統的・計画的な教育課程を計画し実施する。
課　題	方　策
①　地域や学校の特色や実態に応じて、系統的・計画的な教育課程を支援する。 ②　校務に関する基本的事項を周知徹底し、情報の共有化を図り、円滑な事務の運営を行う。	・各部署と連携し、学校運営の調整をする。 ・教科横断的な年間指導計画作成を支援する。 ・授業時数の確保と実施状況の調査を行う。 ・諸連絡など、デジタルによる時間短縮を推進する。 ・諸帳簿の作成と事務処理に関する情報を共有し、チェック体制を機能させる。 ・校内研修計画の調整を行う。

①年間計画

月	教務	PTA	地域教育協議会 学校評議委員会
4	入学式、始業式、保護者集会	PTA 委員総会	
5	中間テスト、学力調査(3年)	PTA 予算紙面総会	
6	教育相談、1学期末テスト	(PTA実行委員会)	
7	1学期末懇談、終業式	PTA実行委員会	学校評議委員会
8	校内研修会、始業式		
9	チャレンジテスト(3年)、文化祭、体育祭	(PTA実行委員会)	
10	2学期中間テスト	(PTA実行委員会)	
11	3年保護者集会、2学期末テスト、教育相談	PTA実行委員会	
12	2学期末懇談、終業式	(PTA実行委員会)	
1	始業式、チャレンジテスト(1・2年) 卒業テスト(3年)　入学説明会	(PTA実行委員会)	
2	3年進路相談、学年末テスト(1, 2年)	PTA実行委員会	学校評議委員会
3	卒業式　修了式	PTA実行委員会 PTA決算総会	

②役割分担

＜校務関係＞

・職朝連絡板の運営　・前WBの記入　・チャイム管理　・職員会議の司会、議事録記録
　→1学期(3年)・2学期(2年)・3学期(1年)

・教育計画の作成:【　小山、藤本、河野、三浦　】　・授業時間の調整:【　小山、三浦　】

・諸帳簿の整理:【①前川　②北川　③　小山　】

・テスト監督作成:【各学年】

＜学校外との連携＞

・PTA書記:輪番　　・市教研担当:【　三浦、小山　】

＜研究進路部＞
【学習研究グループ】

目標	○「主体的・対話的で深い学びのある授業」「わかる授業」「魅力的な授業」をつくっていくため、不断に授業改善に努め、指導力の向上をめざす。 ○「確かな学力」の向上と、生徒一人ひとりの「個に応じた指導」の充実をはかる。 ○新観点での評価の研究を進める。 ○UD（ユニバーサルデザイン）に基づいた授業づくり推進する。 テーマ「タブレット・ICT の効果的な活用」～協働・表現・まとめ～ （コミュニケーション　プレゼンテーション　ポートフォリオ　キャリアパスポート）

つけたい力	方　策
＜生徒側＞ ・確かな学力 ・コミュニケーション力 ・キャリアデザイン力 ＜教師側＞ ・主体的・対話的で深い学びのある授業力 ・わかる授業力 ・魅力的な授業力 ・個に応じた指導力 ・基礎学力に課題のある生徒への配慮	※以下の方策は、左記の「つけたい力」の育成すべてに共通するものである。 1「授業」について ①　四中メソッドの共通理解を進め、定着させる。 ②　定期テスト（在り方についての検討も含む）、チャレンジテスト、学力テスト、入試問題等の誤答を分析し、授業に活かす。 定期テストの問題検討（各教科、早い段階で内容を把握しておく） 副教材や提出物の見直しを行う。 ④　形成的評価活動を行い、授業に活かす。 ⑤　2、3年生で少人数授業を実施する。 ⑤　教室内の整備を行う。必要な道具を購入する。 ⑥　基礎学力に課題のある生徒への支援を行う。（効果的な協働学習の授業への取り入れ、具体的な発問や課題を提示する等） 2「校内研修・研究授業」について ①　校内研修を実施し、授業交流を行う。 ②　校内研究授業の実施及び運営を行う。 ③　タブレットを用いた研究授業及び報告会を行う。 ④　先進校等視察を行う。 3「その他」 ①　テスト前学習の実施及び検討。 ②　キャリアノートの活用を定着させ、自己管理能力を高める。 ③　教科部会で、会議内容を確実に伝達する。

①年間・全体計画

４月	「四中メソッド」の周知 少人数授業開始　学テ問題分析	10 月	定期テストの検討
５月	定期テストの検討	11 月	
６月	チャレンジテスト問題分析　定期テストの検討	12 月	
７月	校内研修　各教科学テ分析	１月	定期テストの検討
８月	校内研修	２月	定期テストの検討
９月		３月	チャレンジテスト、入試問題分析

【ICT グループ】

目標	【四中ＩＣＴ活用モデル】 ・授業や家庭学習などのあらゆる場面で効果的な ICT 機器の活用を推進する。 ・ICT 機器を使うことが目的ではなく、子どもたちの学びを最優先にした効果的な活用を推進する。 ・将来的にタブレット端末が他の文房具と同様に欠かせない「ツール」のひとつになることを前提に、活用方法の研究に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する ICT 機器の効果的な活用の推進に努める。

つけたい力	方策
【生徒】 ・情報収集能力 ・情報活用能力（自ら考え、まとめる力） ・言語能力（発信、伝達する力） ・主体的に取り組む力 ・他者と協働的に取り組む力 【教員】 ・ICT 機器を効果的に活用した授業力	・ICT を効果的に活用した授業実践について、教科横断的に交流する機会を設ける（TPT 委員会） ・教員のニーズに応じた校内研修の実施 ・タブレットルールの再検討を行う ・他の分掌（生徒指導部や道徳・人権など）との連携を図り、正しいタブレットの活用を促す ・ICT 委員会(生徒会)の活動の充実 ・ICT 機器、放送機器を適切に管理する

①年間計画

年間計画					
１学期		２学期		３学期	
	・各種アカウント年度更新 ・１年生 iPad 貸与 ・１年生各種アカウント発行 ・各教室のＩＣＴ機器の環境整備 ・新転任者 iPad 準備 ・生徒アンケート実施（市教委）		・夏季校内研修（内容未定） ・文化祭、体育祭の放送機器の点検・準備 ・生徒アンケート実施（市教委）		・３年生 iPad 回収 ・１・２年生 iPad 確認 ・教室の ICT 機器チェック
通年	‣放送機器の管理 ‣ICT 機器の環境整備・管理（教室 ICT 機器・生徒の iPad・GoogleClassroom 等） ‣ICT 機器の活用方法の研究・実践 ‣TPT 委員会の開催 ‣校内研修（授業支援ソフト、デジタルシティズンシップ、情報教育、ＳＮＳ等(適宜)） ‣放送委員会･ICT 委員会の運営・補助				

＜人権キャリア教育＞

【人権教育グループ】

目標	・確かな人権感覚の育成
つけたい力	方　策
・確かな人権感覚 ・差別やいじめを許さない心 ・違いを認める豊かな心 ・自分を大切にする力 ・個別の人権課題を自分の問題として捉え、解決していくための実践ができる力 ・生徒や保護者に寄り添うことができる力	教職員研修 ・個別の人権問題について理解する ・生徒と結びつけ、指導に活かす ↓ 生きた人権教育 ・確かな人権感覚に基づいた指導の実践

①年間計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
1年	共生社会学習（障がい者理解）	ちがいのちがい	ジェンダー学習（性差～LGBTQ）		平和学習（枚方）		人権講演会に向けて	人権講演会	多文化共生教育（国際理解）		部落問題学習（就職差別）		
2年		情報教育			平和学習（広島　長崎　沖縄）				多文化共生教育（在日問題）		部落問題学習（歴史）		
3年			クラスミーティング		人権作文				多文化共生教育（権利）		部落問題学習（特権～結婚差別）		
教員		校内研修	←セクシャルマイノリティ		校内研修	←人権学習をする意味		校内研修	←多文化共生		校内研修	←部落問題学習	

３年間の全体計画をベースとして、人権学習を系統立てて行っていく。６つの領域を３年間で１度は必ず学習する。生徒の実態に沿って領域の変更、追加はしてよいものとする。

障がい者理解	多文化共生	部落問題	ジェンダー	平和	情報
・支援学級の仲間 ・インクルーシブ ・ユニバーサル ・バリアフリー ・自立	・国際理解 ・日本に住む外国人 ・在日外国人問題 ・権利	・職業差別 ・就職差別（履歴書） ・結婚差別 ・解放運動 ・ネット差別	・女性差別 ・セクマイ ・自分らしさ ・制度問題	・枚方 ・長崎、広島 ・沖縄（地上戦） ・世界	・うわさ ・デマ ・リテラシー ・SNS

②役割分担

人権主担　　諸沢
枚人権担当　　中村や
多文研担当　　諸沢(事務局)
北河内地区人権教育専門委員　諸沢
＜各領域＞
部落問題学習　　諸沢
多文化共生教育　　諸沢
障がい者理解教育　　諸沢
ジェンダー学習　　諸沢
平和学習　　諸沢
情報教育　　諸沢

【総合・特活、進路指導グループ】

目標	○社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てる ○幸せに生き合う力を育む

つけたい力	方 策
〈キャリア〉 ①人間関係・社会形成能力 ②自己理解・自己管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力	①チームビルディングの要素を取り入れた取り組みを通してコミュニケーション能力やリーダーシップを継続的に向上させる。 ②自分と向き合う時間を確保することで、生徒の主体性や忍耐力などを向上させる。 ③課題解決型の学習を実施することで、課題を解決する力を向上させる。 ④自己のキャリアについて考える学習を行うことで、学ぶこと・働くことの意義を理解し、自己の将来設計を行うことで自己実現に向かって行動できる力を育む。

① 全体計画・年間計画

		1年	2年	3年
1学期	人間関係	人間関係作り（心理的安全性） 学級目標	人間関係作り（心理的安全性） 学級目標	人間関係作り（心理的安全性） 学級目標
	自己理解	・中学校生活での目標 ・学期の振り返り（2学期に向けて）	・2年生の目標 ・学期の振り返り（2学期に向けて）	・3年生の目標 ・学期の振り返り（2学期に向けて）
	課題解決	校外学習（宇治）日帰り	校外学習（近江八幡）1泊2日	修学旅行（長野）2泊3日
	キャリア		・「人はなぜ働くのか」を考える ・職業体験アンケート ・アポイントメントの取り方	将来の自分と進路選択
	進路			オープンスクール参加と高校新聞・レポートづくり
2学期	人間関係	・人間関係作り（心理的安全性） ・ブレインストーミング ・合意形成 ・チームビルディング（リーダーシップとフォロワーシップ）	・人間関係作り（心理的安全性） ・ブレインストーミング ・合意形成 ・チームビルディング（リーダーシップとフォロワーシップ）	・人間関係作り（心理的安全性） ・ブレインストーミング ・合意形成 ・チームビルディング（リーダーシップとフォロワーシップ）
	自己理解	・学期の振り返り（3学期に向けて）	・学期の振り返り（3学期に向けて）	・学期の振り返り（3学期に向けて）
	課題解決	学校行事の目標設定（WOOP の法則） （文化祭・体育祭の取り組み）	学校行事の目標設定（WOOP の法則） （文化祭・体育祭の取り組み）	学校行事の目標設定（WOOP の法則） （文化祭・体育祭へ取り組み）
	キャリア	職業適性アンケート 職業新聞	職業体験に向けて（履歴書書き・面接マナー・事前訪問）	進路選択を控えた仲間との悩みや不安の共有と連帯感の確立
	進路			私学について（願書・出願・面接指導）
3学期	人間関係	生徒主体での学年レク	生徒主体での学年レク	生徒主体での学年レク
	自己理解	・学期の振り返り	・学期の振り返り	・学期の振り返り
	課題解決	小中連携（4中紹介プレゼン）		
	キャリア	職業講和	職業体験 お礼状 職業発表	より良く生きる自分を考える
	進路		公立・私立、専願・併願、高校の種類など	公立について（願書・出願）

【道徳教育グループ】

目標	・自己を見つめ、道徳的価値について考えを深める。 ・互いの考えを尊重し、伝え合い、人間としての生き方について、共に深く考え合う。 ・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、積極的に励ます個人内評価を行う。 ・教材の整備や指導の方法の工夫に努め、より意義のある時間にする。

つけたい力	方 策
生徒側 ・道徳的価値の自覚において自分の考えを深める力 ・他者の考え方や議論に触れて、一面的な見方から他面的・多角的に見る力 教師側 ・授業力の向上・評価する力	・「道徳の授業のルール」を確認し、いろいろな考え方に触れる。 ・指導案を活用し中心発問を軸とした授業づくりを行う。 ・中心発問に対する考えを全員に発言する機会を設け、また 振り返りを行う。 ・ワークシートをデータで保存し、評価の資料とする。 ・必要に応じて評価についての研修を実施する。

①年間計画

4月	・授業・評価の提案 ・ローテーション道徳 教材分担	10月	
5月	指導案の提案	11月	校内研修(研究授業) 指導案の提案
6月		12月	校内研修(評価)準備・運営
7月		1月	来年度計画
8月		2月	評価確認
9月	校内研修・講演会運営準備	3月	新年度研修準備

②役割分担

(川上) 道徳主担 道徳研修担当

(全員) 講演会・校内研修まとめ・評価項目等担当

＜生徒指導部＞

【生徒会】

目標	・生徒の自主性、自発性の向上を目指す。 ・学級を基盤とした望ましい学年集団、学校作りを進める。 ・身近な社会貢献の活動に関心を持たせる。

つけたい力	方 策
・学校行事を進めていく中で、創意工夫を生かした企画・運営ができる。 ・身近な社会貢献に関心を持ち、活動内容を工夫する。 ・あいさつ運動などを積極的に行うことで、日常の活動を充実させる。 ・体育祭・文化祭や委員会活動などを通じ、主体的に行動する。 ・生徒自らルールに関して考え、改善していく。	・定例委員会は本部役員と専門委員長を中心とし、担当教師と打ち合わせを行った上で運営していけるように丁寧に指導を行う。 ・定例委員会で、生徒の意見がより反映されるように、生徒議会の活性化を図り、各クラス・各学年の交流を図る。 ・縦割りに伴う生徒会組織をつくり、課題に対しての思考力・表現力・行動力の向上を図る指導をする。

①年間計画

1学期		2学期		3学期		その他
4月	対面式	9月	文化祭・体育祭	1月	小学生見学会	定例委員会
	オリエンテーション	10月	役員選挙	2月		生徒集会
	クラブ仮入部	11月	生徒会引継ぎ	3月	送辞指導	あいさつ運動
	クラブ集会・本入部					ボール貸し出し
					新年度に向けての	募金活動
6月	生徒総会				準備	部長会指導
						下校違反の指導

②生徒会役割分担

A《行事など》

・分掌部会司会、招集・・・(平山)

・クラブ関係、小学校見学会・・・(神田)(神野)

・会計、募金窓口、役員選挙・・・(山崎)(橋本)

・PTA広報、生徒総会・・・(山形)(北山)　　・PTA実行委員・・・輪番制

・本部指導・・・(平山)(神田)(栗田)(山崎)(山形)

B《委員会》

・学級代表・・・　(1年 北山)、(2年 神野)、(3年 山崎)

・専門委員・・・　学習(栗田) 生活(橋本) 保健(佐藤)

美化(山形) 図書(綿世) 放送(神田) ICT(宇井)

・体育祭実行委員(前期のみ)・・・(平山)(山形)(北山)(神田)(神野)

・文化祭実行委員(前期のみ)・・・(平山)(山崎)(橋本)(栗田)

C《文化祭・体育祭》

・本部(平山)(北山)(山崎・山形)

【生徒指導　生活指導グループ】

目標	**・基本的生活習慣の確立に根ざした生徒の育成（生徒一人ひとりの個性の伸長を図る）** **・社会性の向上と自己指導力の育成（集団的・自主的な生き方を学ばせる）** **・内面理解に根ざした指導の推進（中学生としての自覚と誇りを持たせる）**

つけたい力	方　策
・自己と他者の人権や生命を大切にする態度を育てる。	・いじめ、暴力などの人権侵害のない学校づくりのために、日常の観察、教育相談などを実施し、生徒の実態把握と効果的な指導方法の研究に努める。 ・問題解決に複数の教師であたり、受容の気持ちを持って生徒に寄り添った指導を心がける。
・基本的生活習慣や集団生活の規律とマナーを身につけさせる。	・登校指導、下校指導などを実施し、適切な生活習慣の向上を図る。 ・交通安全指導、あいさつ指導を生徒会と協力して実施し、生徒の安全意識と生活習慣の向上を図る。 ・防災教育、健康教育、防犯教育、薬物乱用防止教育、性教育などのあり方を工夫し、正しい知識と生活意識の改善を図る。
・生徒一人ひとりが相互に支え合い励まし合える人間関係を育成する。	・関係機関等と緊密に連携し、不登校問題や問題行動などを早期に解決できるよう学校体制の充実に努める。また不登校委員会との連携を図り、当該生徒の課題解決に努める。
・保護者、地域、学校の三者間の連携を深める。	・PTA 生活委員会や地域教育協議会などの組織との情報交換を密にし、登下校指導、地域での見守りを行う。

【今年度の課題事項】

・問題行動の未然防止という観点から、「人間関係作り」の取り組みを行う。

⇒各学期にコミュニケーション力を高める HR を設定する。（人権キャリア教育企画チームより）

・生徒の自主性を育てる取り組みを行う。

⇒ルールメイキング等の取り組みを生徒会と連携して取り組む。

・不登校生徒や別室利用生徒についての長期的な見通しと支援の仕方についての共有

⇒新たな不登校を生み出さない取り組みと、不登校生徒の個別の課題への支援。

・タブレット使用上のルールの再検討

⇒ICT 部会、生徒会 ICT 委員会と連携し、不正使用への対応を明確にする。

・出欠ホワイトボード記入の仕方の再確認。

・スリッパ貸出について。

・空き時間の見回りについて検討する。

①年間計画

通 年	・登校指導　・下校指導　・春の交通安全指導　・あいさつ運動（生徒会と連携）
４月	・クラス写真　・「学校生活を送るために」（新学年の心構えとルール）全学年
	・小中交流会　・春の交通安全指導
５月	・「いじめ未然防止基本方針」の見直し　・生活アンケート①　・教育相談①
６月	・SNS 学習　・避難訓練（地震、火災）
７月	・「交通安全教室」1年生　・「非行防止教室」2年生　・「薬物乱用教室」3年生　・期末懇談
８月	・夏季研修会
９月	・秋の交通安全指導　・文化祭、体育祭
10 月	・生活アンケート②　・教育相談②
11 月	・避難訓練（不審者対応）　・性教育（全学年）　・防災教育
12 月	・期末懇談
１月	・避難訓練（地震、火災）
２月	・生活アンケート③
３月	・卒業式

②役　割

主事：井手　1年：佐々木　飯野　　2年：山口　　3年：大川原　神谷　阪上

養護：佐藤　SC：遠藤　不登校支援員：伊東　支援教育 co：碧山

【生徒指導　保健・安全指導グループ】

目標	・エコスクールの意義を理解させ、推進する。 ・環境保全の取組を円滑に進める ・一斉清掃を円滑に実施する

つけたい力	方　策
・丁寧な清掃活動の方法・習慣を身につける ・清掃用具、公共物を大切に扱う心を育てる ・環境保全に対する知識を深める	・美化委員長及び美化委員を中心に清掃活動の啓発を強化し、掃除用具の点検、管理を徹底する。 ・清掃用具など公共物を大切に扱う指導を全体で取り組んでいく。 ・より一層丁寧な清掃活動の習慣を指導する。 ・ユニバーサルデザインに準じた学校環境を整える。

① 年間計画

1学期		2学期		3学期		毎月
4月 6月 7月	入学式準備：机・椅子の入れ替え、補充 清掃分担・清掃用具配布、カーテン配布 学校安全点検 グランド周囲溝掃除 校舎周囲の清掃 大掃除、ワックスがけ	8月 11月 12月	学校安全点検 グランド周囲・溝掃除 校舎周囲の清掃 大掃除、ワックスがけ 来年度使用できる机・椅子調査	1月 3 月	学校安全点検 大掃除、ワックスがけ＋エアコンのフィルター掃除 教室整備 カーテン回収 カーテンクリーニング 来年度使用できる机・椅子の確認	〔定例委員会〕 ・黒板クリーナーの清掃 ・掃除道具等点検 ・トイレの消臭剤の管理 学期ごと ・清掃用具点検 ・避難訓練等の際の準備

※S－EMSを年2回実施、学校安全点検（学期毎　始業式提出）
※テニスボールは不足、交換があり次第対応（環境美化の教員に声を掛けてください）

② 役割分担

・掃除分担表作成（4月）：各学年毎（まとめ：）
・学校安全点検（学期毎　始業式提出）：
・S－EMS（年2回）：　　掃除用具管理（通年）：各学年毎
・美化委員会運営、大掃除要項、カーテン：
・机椅子の管理、掃除分担表作成（3月　3年卒業後）：　・リモコン：各学年毎

＜総務部＞

目標	● 「協同」と「つながり」を意識し、目指す生徒育成を支援する。 ● 文部科学省研究指定校のため、予算の効果的な編成と執行を行う。 ● 管理職と連携して四中における働き方改革を推進する。 ● 小中連携事務室において小・中学校の事務職員の緊密な連携や情報交換を行う。

	田中(部長)	丸住(補佐)	北落(校務員)	松澤・鎗屋・諸沢
役割分担	総務部総括 学年会計総括 生徒会会計 3手当・旅費事務 徴収金 働き方改革推 小中連携	総務部総括補佐 市費事務・会計 備品管理 給与関係事務 就学援助 共済・互助事務 働き方改革推進	校内整備・修繕 不要物等廃棄	学年会計

課　題	方　策
● 公費の効果的執行を行う	✓ 未来学習研究事業の一環として、教育目標達成・教職員と生徒の活発的なICT活用促進に向けた教科・分掌の計画や活動を裏付ける予算編成と運営を進める。
● 学習環境の改善を図る	✓ 学校予算の有効執行により教育条件整備を行う。 ✓ 各教科・分掌の教員に昨年度の購入内容や、今年度の年間授業計画を見通し購入予算を立てる事ができるように支援する。 ✓ 校務員と連携し、校内の施設・設備の改善を図る。 ✓ 危険箇所の点検、修理改善を早急に行う。
● 学校徴収金の透明性と決算書の外部監査に対応する	✓ 学校徴収金の調整、費用等検討、公費、私費の負担区分を明確にして学校徴収金の透明性を図る。 ✓ 学校徴収金振替を5回として振替を早期にして、入金完了する ✓ 就学援助、修学旅行費学校長委任の保護者に対して精算報告を個別に行い、理解を得て未納対策を講じる。 ✓ 学校徴収金の滞りがちな家庭については、文書、電話、懇談時の面談をして方策を考えて徴収する。 ✓ 生徒会予算編成に関わり、各行事やクラブ、備品購入調整を行い予算編成の支援をする。 ✓ 副教材(ワーク等)の業者販売委託による教科検証。
● 校務員・学年会計担当者との連携	✓ 学年予算作成時に行事や教材の執行額、数量の把握を行う ✓ 教材配布、行事の人数を明確にしての実行報告書の人数把握を徹底する。 ✓ 月に1回程度、総務部会を行い、要保護・準用保護家庭等の情報提供や徴収金の未納対策、懇談時の督促業務などの連携を図る。 ✓ 教員からの修繕箇所について、校務員と連携する。
● 働き方改革の推進	✓ 総務部会で働き方改革についての情報提供と議論を行う。 ✓ 管理職と共にストレスチェック実施の推進を行う。

①事務年間計画【令和5年(2023)】

	学校予算事務	学校徴収金	三認定・その他	小中一貫
4月	備品、消耗品の購入希望 購入希望備品の調整 校内差し引簿作成 夏用備品〆切 学校予算について提案 枚方市予算説明会 修理箇所点検	教材の選定 行事の予算計画 各教科のフラットファイルの注文 学校徴収金予算書の作成 各行事見積もり把握	異動、転勤者認定手続き 三手当リーフレット配布 月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	
5月	予算計画書作成 クラブ備品購入決定 学校予算備品購入決定	学年会計予算書配布	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議 年間計画作成
6月	夏用備品納品	第1回学校諸費振替 諸費費再振替 2年宿泊行事決算書配布 修学旅行決算書配布	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議
7月		第2回学校諸費振替 諸費再振替 三者懇談(未納徴収、催促) 就学援助金学校長口座入金	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会 ストレスチェック	連携事務室会議
8月	第1期備品納品		月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	
9月	第2期備品納品	第3回学校諸費振替 諸費再振替	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議
10 月		第4回学校諸費振替 諸費再振替 校外学習決算書配布	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議
11 月		第5回学校諸費振替 諸費再振替	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 通勤手当事後確認 総務部会	連携事務室会議
12 月	第3期備品納品 一括購入備品納品 予算流用案作成 教科、分掌購入物品の確認	三者懇談(未納徴収、催促) 就学援助金学校長口座入金	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会 ストレスチェック	連携事務室会議
1月	消耗品、修繕料使途優先順位把握	未納徴収	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議
2月	来年度の計画(必要順位)クラブ備品、学校備品決算書作成	生徒会費決算書作成	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	連携事務室会議 入学説明会支援
3月	市費決算書作成	会計監査 学年決算書作成・配布 生徒会決算書配布 就学援助金学校長口座入金 学校徴収金保護者口座返金	月末特殊勤務手当・旅行命令簿〆切 総務部会	小学校からの中学校への申し送り事項の確認

枚方市立第四中学校　学習研究チーム

四中メソッド

～令和５年度 ver.　～

四中メソッドの目的

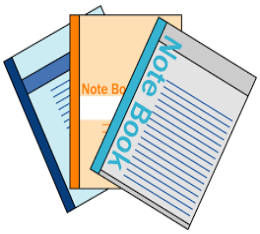
四中での授業の「標準的なスタイル」を提示し、生徒にとって安心感のある学びを提供

令和5年度の重点テーマ

粘り強く取り組む生徒の育成

学校運営方針「学び合い、つながりあい、幸せな人生に向けて挑戦し続ける生徒の育成」の実現に向け、令和5年度は【粘り強く取り組む生徒の育成】に重点をおき、学習研究チームとして研究に取り組んでいきます。

授業の中で生徒が、現状よりも「あきらめない気持ち」、「失敗をおそれずに挑戦しつづけようとする気持ち」をさらに向上できるよう、教科会等で1年間継続した研究及び授業実践をよろしくお願いします。



○「主体的・対話的で深い学び」の創造

※**発問の工夫**をして、根拠を示しながら説明できる力をつける。

教科書の分析、活用の徹底を行う。発問はできるだけ明確にする。

主体的な学びの視点から　：学習課題と児童生徒が出会う場を演出する。

対話的な学びの視点から　：自分ひとりでは解決が難しい発問を設定する。

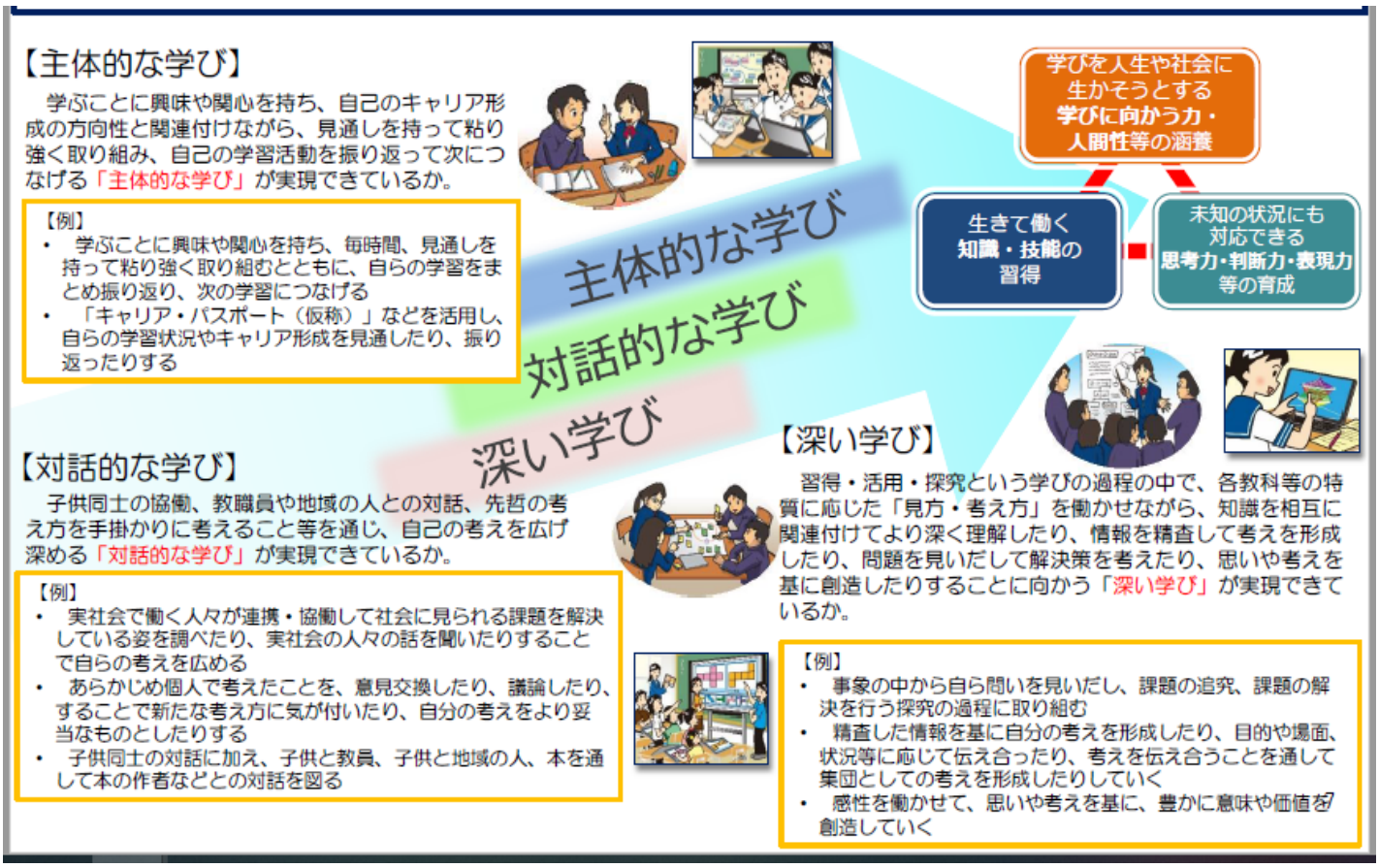
深い学びの視点から　　：発問を解決するまでの過程の大切さを確認する。

☆主要発問　　：(中心発問)その授業の中で最も中心となる発問。
☆揺さぶり発問：本当にそれでいいのか？迷わせる。
　　根拠は何かとじっくり考えさせる発問。
☆補助発問　　：中心発問及び揺さぶり発問を助ける発問。
　　例)こうすればどうなるのかな？

　　A の時はどうかな？等ヒントとなるような発問。

○まずは一人でじっくり考える時間をとる。

○グループやペアで意見を共有する(ホワイトボードやタブレットの利用)



（文部科学省より）

【方策1】授業の課題設定と振り返りの徹底

①生徒全員に**本時の目標**を明確にし、全員でその目標が共有できるように示す。

（各教室及び特別教室にマグネットを貼り付けています。）

※目標は、必ずしも授業のはじめに示さなければならないわけではない。

※めあての語尾は、「～できる。」や「～わかる。」にする。

※「まとめ」「振り返り」のマグネットは使用しなくてもよい。

②本時の**まとめ**や本時及び前時の**振り返り**を行い、児童・生徒が自分の言葉で説明できることをめざす。（言語活動の充実）

※「振り返り」の例

①自分で何が分かったか、分からないかを書く。（再確認）
②自分で何ができるようになったのか、できていないかを書く。（達成感）
③もっと知りたいこと、調べたいこと、疑問思ったことを書く。（見通し）
④家庭学習や次時への学習につなげる。（つながり）

※逆向き設計の授業計画を意識する。

≪授業におけるピクトグラムの活用について≫

生徒がどのような活動を行おうとしているのかを視覚化・意識化するために、各教室に以下のようなピクトグラムを配備しています。授業で活用をお願いします。

≪議論・話し合い≫　≪解釈・分析・整理≫　≪説明・表現・発信≫

※2つ以上のピクトグラムを授業の途中で交換する展開もあり得ます。

【方策2】ICT機器の効果的な活用

ICT の活用については、必要なときに活用することが原則！

《ICT 機器一覧》

〇職員室　管理
・外部系コンピュータ　・PC 用スピーカー
・モバイルバッテリー　・書画カメラ（放送室）
・Apple TV

※貸出しノートに記入し、使用してください。

〇教室管理

・プロジェクター

・モバイルスクリーン

【方策3】言語活動の充実

言語能力を高めていくためには、「多様な言語活用の機会」が大切になります。会話だけではなく、プレゼンテーションの能力、たくさんの資料から目的に合わせて情報を抜きとる力など、この能力を育成するためにはたくさんの活動を意図的に組み入れていくことが重要です。下に記載した活動の例を参考に、授業の組み立てをお願いします。

★言語活動の例★（文部科学省より）

・帰納・類推，演繹などの推論を用いて，説明し伝え合う活動を行う。

・日常生活の中で気付いた問題について，自分の意見をまとめ、説得力ある発表をする。

・社会生活の中から話題を決め，それぞれの視点や考えを明らかにし，資料などを活用して話し合う。

・グループで協同的に問題を解決するため，学習の見通しを立てたり，調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話し合いを行う。

・新聞，読み物，統計その他の資料を基に，根拠に基づいて考えをまとめ報告書を作成する。

・実験や観察の結果，調査結果などを整理し重点化し，相手に分かりやすく，ポスターやプレゼンテーション資料などに表現する。

・テーマを決めて複数の本や資料などを読み，内容を比較したり，批判的にとらえたりするなど，知識や考えを深める。

≪言語能力チェックリストの活用について≫

四中では、生徒本人にどのような言語能力を授業の場面で発揮できたのかを意識化させるため、チェックリストを活用しています。

つぎの項目を参考に、各教科で工夫して活用してください。なお、チェックリストは回収・点検等の必要はなく、実施方法・頻度等も教科で検討してください。

○言語能力チェックリストの項目

説明・表現・発信

・自分の考えを相手に根拠や理由を示して説明できた
・相手がわかりやすいように順序立てて説明できた
・テーマや問いを立てて説明できた
・目的や相手に合わせて簡潔に説明できた
・目的や相手に合わせて書き方や話し方を使い分ける事ができた
・図やグラフ、写真・動画など、資料や機器を使って相手にわかるように表現できた
・身につけた表現技法を使って表現できた

議論・話し合い

・話を聞きながら大事だと思うところをメモする事ができた
・相手の考えに質問できた
・相手の考えに、反論・賛同・補足できた
・自分と相手の考えの同じところ、違うところを見つける事ができた
・互いの考えの良い点を取り入れ、より良い案を考える事ができた

解釈・分析・整理

・共通点に注目して情報を分類する事ができた
・目的に応じて文章(情報)や発信者の意見を要約することができた
・テキストから、発信者が一番言いたいこと(主張・要旨)を捉える事ができた
・物事を様々な観点で比較する事ができた
・物事を多面的に捉える事ができた

【方策4】ユニバーサルデザインの授業づくり

★<u>すべての生徒</u>が、理解しやすく参加しやすい授業づくり★　　<u>授業に参加させる！！！</u>

① 教室・学習環境を整える

- 整理整頓、すっきりと。
- 目から・耳から入る刺激を減らす。　（下記参照）
- プリントは、わかりやすい字体を使用する。例）UD フォント、ゴシック
- レイアウトに気を配る。　例）行間の幅、板書との対応関係…
- 板書で使う色は２・３色まで。赤・緑・青などは見にくいのでさける。
  ＊「カラーユニバーサルデザイン」で検索！

② 見通しを持てるようにする　（授業構成の工夫）

- 1 時間の授業の流れがわかるように、黒板に示す。⇒
- なるべく毎回の授業の流れを統一する。
- ルールを、明確に示す。いつでも見て確認できるようにしておく。

今日の内容
・前回の復習　…5 分
・ペアワーク…10 分
・グループワーク…20 分
・発表…10 分
・まとめ…5 分

③ 指示・説明・発問を工夫する

- いつでも見て確認できるようにする。
- 抽象語を少なくし、具体的にわかりやすく伝える。
- 一度に指示することは一つだけにする。一つの文章を、短めにする。
- 肯定的な言い方をする

④ 複数の教材や、やり方を用意する

- 口頭で説明するだけでなく、同時に視覚的にも示す
- いろんな方法を提示し、選ばせる（例：板書の iPad での撮影）
- 授業内で、生徒に応じた目標・到達地点を認める

⑤ 認め合う学習集団づくりをする

教室前はすっきりとさせる。<u>ひらひら・きらきらしたものは貼らない</u>。

黒板横は、なるべくすっきりと！掲示する場

学年目標・学級目標は前に掲示

机・イスの脚にテニスボールをはめ消音効果を図る。

【方策5】図書を活用した教育の充実

探求的な学習を実施するために、生徒が自ら本を活用し、課題を設定し、情報を集め、整理・分析し、まとめる力をつける。

（学び方のプロセスを知り、学び方のスキルを身につける。

思考力、判断力、分析力、表現力を育成）

① 学校司書の授業支援（レファレンス）を利用するなかで、自らの力で必要な情報を判断し、調べる力を育成する。

② 生徒自身の力で、目的に応じた本や文章を読み、知識を深めるだけではなく、情報を集めるための方法を見つける。

③ 本だけではなく、タブレット利用を併用することで、信頼できるサイトとは何かを考え、調べる。（本、インターネットそれぞれの利点・課題を考える）

④ レファレンスを利用し、出典や著作権等正しい調べ方・載せ方を学ぶ。

※図書館の利用も、職員室分電盤扉にある予約簿に記入が必要です。

チャンプ本

★予定管理について★

①見通しをもった生活を送ろう！

「**充実した学校生活をおくってほしい。**卒業後の人生も。そのためには、まず**予定を把握することが大切！**いつまでに何をすべきなのかをしっかりと考えて、力を発揮していこう！いつでも書き込めるように、移動教室にも持っていこう。」等、自分の経験を交えながら、スケジューリングの大切さを考えさせていけたらと思います。

②使い方を考えさせる。

「どうやったら見通しをもった生活ができるだろう。」

と、年度当初の特活等の時間に考えさせる。

「**終礼時**に、次の日の予定を書き、今日の振り返りをしよう。授業中も、必要なときにはすぐに開き、書き込むくせをつけていこう。」

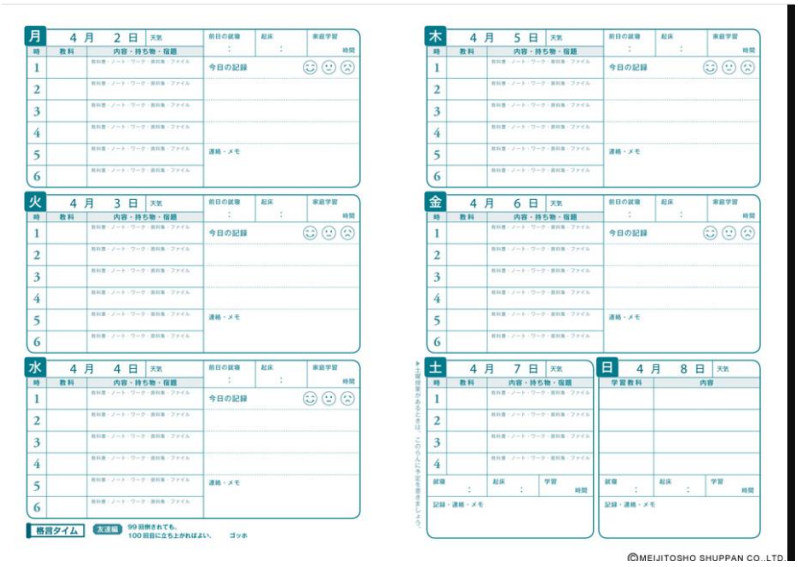
はじめが肝心です！きちんと全員が手帳等（スクログ）等を出すのを根気強く待ち、終礼時にはメモをとる習慣をつけさせてください。

教科担当の先生方へ

・担任の先生だけではなく、教科担当の先生方も、小テストや課題提出の日程など、手帳や iPad 等に書き込む事項がある場合に積極的に活用させてください。

「さあ、スクログ開いて！」と、しっかり声をかけてください。よろしくお願いします。

今年度から、スクログだけでなく、自身の手帳や iPad 等に記録も可能です。



（15）体力向上推進計画

『四中の傾向』

①学習面でのプレッシャーが強い家庭が多く、就寝時間が遅くなったり、不規則な食事時間になることが多い。
②運動能力の二極化が目立つ。

生活習慣においては、たとえば、朝食をしっかり摂ると体温上昇反応がよく、午前中から体の活性度が上がり、その結果学校生活にしっかり取り組めるようになる。また、運動で力を出し切ることによって、食欲がわき、心地よい疲れでぐっすり眠ることができる。そのため朝の目覚めが良く、また朝食もしっかりと食べられる。という具合に生活習慣が改善され始める。「食事」「運動」「休養」「勉強」「遊び」はそれぞれが独立しているようであるが、風車のようにつながっている。その中の「運動」について取り上げ下記のように取り組みたい。

目標： 来年度の体力テストで全国平均を１つでも多く上回る。

昨年度の課題（第2学年のデータより）

男子	女子
①新体力テストの平均値が良かった種目	**①新体力テストの平均値が良かった種目**
立ち幅跳び	50m走
ハンドボール投げ	**②新体力テストの平均値が低かった種目**
20mシャトルラン	立ち幅跳び
50m走	ハンドボール投げ
②新体力テストの平均値が低かった種目	20mシャトルラン
握力	上体起こし
上体起こし	長座体前屈
長座体前屈	反復横とび
反復横とび	握力
③分析	
・全国平均と比較しても、ほぼ同じで良いと思わ れる。 ・また、バランスもいい。	・全国平均と比較すると、少し低い値である。 運動やスポーツをすることが好きかの問いに対しての否定的な数値が高い。
④今後の取り組み	
・授業時の準備体操・補強運動等で、筋力、持久力、敏捷性、柔軟性とバランスよく鍛えられるように工夫する。	・授業時の準備体操・補強運動等で、筋力、持久力、敏捷性、柔軟性とバランスよく鍛えられるように工夫する。

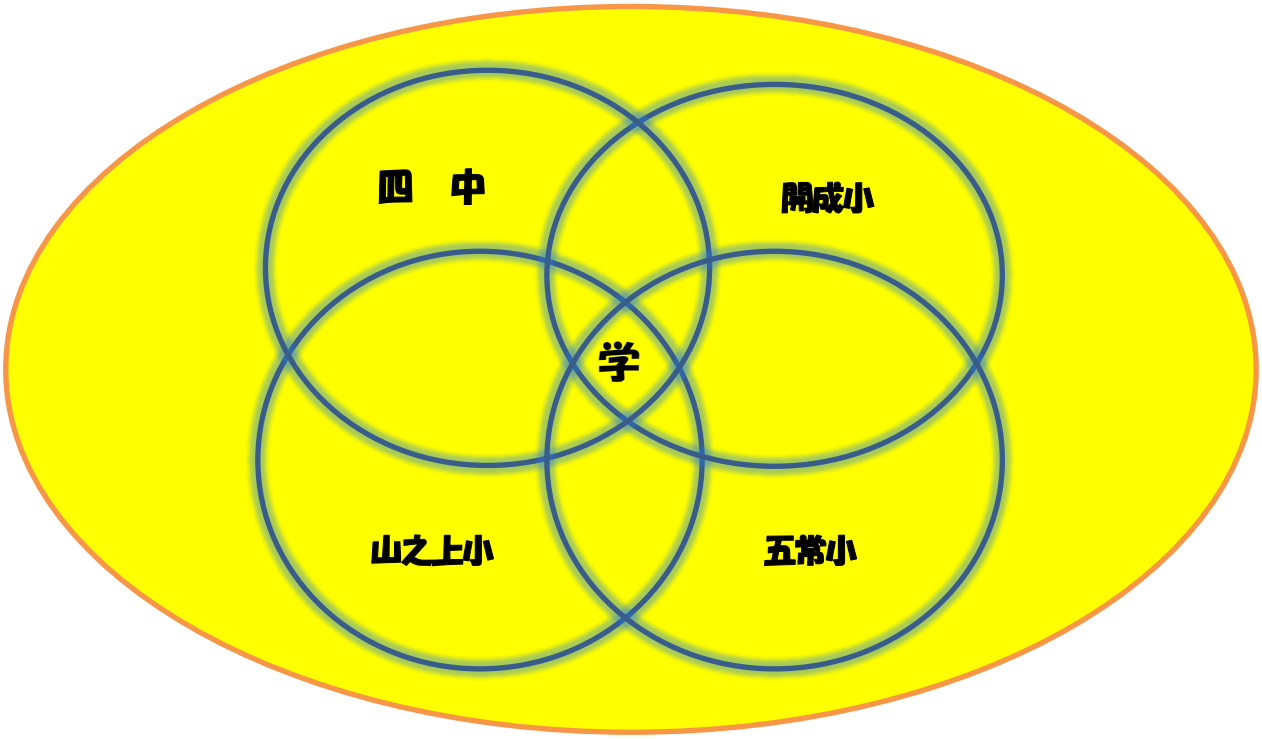
（16）枚方市小中一貫事業（四中学園モデル図）

令和5年度　枚方市小中一貫推進事業

四　中　学　園

めざす子ども像

自分らしく　まわりとつながり　何事にもチャレンジする



＜本年度の取り組み＞

◎確かな学びの育成

◎自立の力の育成

◎小中学校間の円滑な接続

◎共同体組織の構築

◎特色ある一貫教育の推進

◎事務連携の推進

枚方市小中一貫事業　四中学園年間計画

月 日	会議等	行事等
4月	・企画会議(四中)	
5月	・推進リーダー会議(四中) ・企画会議(四中)	
6月		・分科会
7月	・推進リーダー会議(四中) ・企画会議(四中)	・合同研修会
8月		
9月	・推進リーダー会議(四中) ・企画会議(四中)	
10月		・分科会
11月	・推進リーダー会議(四中) ・企画会議(四中)	
12月		
1月		・体験授業・クラブ見学
2月	・連携リーダー推進会議(四中) ・各推進委員会(各拠点校) ・年間まとめ	・分科会
3月	・各推進委員会(各拠点校)	・小6・中1交流会 ・事業報告書作成

（17）令和四年度チャレンジテストの結果と分析

【国語】

複数の資料を比較し分析する設問に課題が見られた。一方で記述問題などは無答率が低い設問もあり、最後まで解答をしようと努力する姿勢も見られた。基礎的な知識を問う問題では正答率が高く知識の定着はできている。今後の授業ではより思考力を高められるように工夫していきたい。

【社会】

無答率は低く、課題に粘り強く取り組めている。特に基礎的な知識は定着しており、予習や振り返りなどで重要語句をふり返った結果だと分析している。課題は、資料の読み取りや自分の意見を記述する問題である。間違えを恐れずに課題に挑戦できる姿勢を今後も育んでいきたい。

【数学】

基本的な知識については定着している。これは少人数学級等を活用したきめ細やかな指導の成果だと考えられる。今後はグループ学習等で生徒同士がつながり、教え合い学び合う環境を作っていきたい。一方、思考判断が必要となる問題や、自分の考えを記述する設問に課題が見られた。どのような課題であっても粘り強く解決できるような力を授業でつけていきたい。

【理科】

語句の確認などを授業の最初に行ったこともあり、基礎的な知識は身についている。実験の手順など、今後丁寧な指導を行う必要がある設問も多くみられた。計算問題は引き続き課題がみられているため、今後授業でもゆっくりと説明を行い、理解を促していきたい。

【英語】

全体的によくできていたが、長文問題では最後まで読むことができず、問題が解けない生徒も多くみられた。今後は最後まであきらめずに問題に取り組めるように、授業の中でも読解問題などにも取り組んでいきたい。

（18）令和四年度　学校教育自己診断の分析

1. 生徒アンケートの結果から

質問全般においては、ほとんどの項目で、肯定的な回答①、②が否定的な意見を上回りました。さらに、前年度との比較においても、半分以上の項目で肯定的な回答が増えただけではなく、特徴的なのは、「ややそう思う」という肯定的回答の率が高くなったということです。

今年度も新型コロナ禍のなか、多くの取組や行事が中止や延期になるという特殊な状況が続いたにも関わらず、このような結果が得られたことは、意外でもあり、非常に喜ばしいことでもありました。これは、ひとえに子どもたちの前向きな姿勢とがんばりの成果だと思います。子どもたちに感謝です。

一方で、「家庭学習でタブレットを使っている。」に対する肯定的回答の率が上がっているものの、家庭学習の時間については、中学生としては不十分な子どもが多いということがわかり、家庭学習に適した課題作りが今後の一つの課題であると考えます。

2. 保護者アンケートの結果から

生徒アンケートと同様、質問全般においてほとんどの項目で、肯定的な回答①、②（設問6，7は③、④）が否定的な意見を上回りました。まことにありがたいと思うと同時に、今後に向けてより大きな責任を感じ、身の引き締まる思いです。

また、今年度もコロナ禍の影響で、授業参観等を例年通り実施することが出来なかったため、学校の様子や授業に関わる設問には、回答しにくかったと思います。申し訳ありませんでした。

しかし、「学校は、学校通信・学年通信や HP・ブログ等で取組や子どもの様子を発信している」についての肯定的回答が昨年度に比べて飛躍的に上昇しました。おそらく、ブログに力を入れるようになったからだと思います。今後も、内容を充実させていきたいと考えています。また、「子どもは家庭で、学校のことを話したり、相談したりすることがある。」という項目でも、肯定的回答が高水準で、このことが、現在の落ち着いた四中の状態につながっていると考えられます。

課題としては、子どもたちからの回答と同様に、「家庭学習」についての心配が表れています。「子どもは家で、自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定的回答が、昨年度より下がり、46.8%に留まっています。

これは、中学生としては、不十分であると言わざるを得ません。このことは、子ども本人の自覚の問題であると同時に、学校としての課題でもあると言えます。「タブレットを活用した家庭学習用課題が出されている」に対しての肯定的回答が低水準であることが、そのことを示しています。先述したように、家庭学習に適した課題作りにこれまで以上に取り組んでいきたいと考えます。

最後になりましたが、お忙しいなかアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

＜生徒アンケート全結果＞（肯定評価①＋②）

	令和4年度学校教育自己診断（生徒）	R4				R3				肯定評価の前年比
	生徒	①	②	③	④	①	②	③	④	
1	学校へ行くのが楽しい。	59.5	30.9	6.9	2.6	63.4	26.8	6.1	3.8	0.3
2	みんなで何かをするのは楽しいと思う。	71.8	24.3	3.7	0.1	－	－	－	－	－
3	授業はまじめに取り組んでいる。	60.6	36.4	2.7	0.3	67.2	28.7	3	1.1	1.1
4	落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる。	35.7	43.4	17.6	3.3	47	38.9	11.1	3	▲ 6.8
5	クラス活動に積極的に取り組んでいる。	52.3	40.6	5.8	1.3	58.4	34.3	5.1	2.2	0.2
6	クラブ活動に積極的に取り組んでいる。（３年は、引退まで。無所属は無記入）	65.9	21.5	8.9	3.7	69.4	20.4	6.1	4.1	▲ 2.4
7	学校の行事（生徒会行事や宿泊行事など）に積極的に取り組んでいる。	64.5	31.9	2.4	1.1	63.4	30.8	4.6	1.2	2.2
8	学校の決まりを守っている。	69.0	29.7	1.0	0.3	73.3	24.6	1.3	0.8	0.8
9	清掃をまじめに取り組んでいる。	67.6	29.1	2.7	0.6	73.4	23.9	2.1	0.7	▲ 0.6
10	将来の目標や夢を持っている（考えている）。	44.8	29.6	17.1	8.5	50.2	23.3	17.4	9.1	0.9
11	将来は人の役に立つ人間になりたいと思う。	67.3	26.8	4.9	1.0	75.2	21.1	3	1.1	▲ 2.2
12	自分には、よいところがあると思う。	42.6	38.7	15.1	3.6	45.7	35.6	13.4	5.3	0.0
13	担任の先生は、自分の気持ちをわかってくれている。	48.5	42.9	6.3	2.3	49.8	39.1	8.2	2.9	2.4
14	先生は、困ったときにいつでも相談にのってくれる。	54.0	37.7	5.9	2.4	46.0	32.2	13.8	8	13.5
15	学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。	67.0	23.7	6.3	3.0	72.2	20.1	5.4	2.1	▲ 1.6
16	先生は、自分たちの意見や考えを大切にしてくれる。	60.2	35.2	3.6	1.0	62.1	33.2	3.2	1.6	0.1
17	授業はわかりやすい。	43.1	50.7	5.2	1.0	－	－	－	－	－
18	先生は、教え方をいろいろ工夫している。	51.8	44.3	3.2	0.7	62.5	33.7	2.6	1.2	▲ 0.1
19	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	63.5	34.7	1.4	0.4	68.6	29.1	1.7	0.5	0.4
20	授業では、ペアやグループで話し合う活動をよく行っている。	75.6	23.5	0.9	0.0	75.9	22.7	1.1	0.4	0.5
21	授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	60.9	36.5	2.4	0.1	66.9	29.9	1.8	1.3	0.6
22	授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されている。	77.7	21.9	0.4	0.0	83.4	15.9	0.4	0.3	0.3
23	授業のさいごに、学習内容をふり返る活動をよく行っている。	54.2	40.0	5.2	0.6	60.7	33.3	5.1	0.8	0.3
24	授業でよくタブレットを使っている。	71.4	26.0	2.3	0.3	72.2	25	2.1	0.7	0.2
25	タブレットやプロジャクタ等を使った授業は、わかりやすい。	65.7	31.0	2.3	1.0	70.0	25.6	3.0	1.5	1.1
26	命の大切さや平和の尊さ、人権や社会のルールについて学ぶ機会が多い。	57.5	36.9	5.3	0.3	60.2	35.3	3.4	1.1	▲ 1.1
27	非常災害時の対応（避難訓練等）について学ぶ機会がある。	61.3	35.0	3.4	0.3	60.2	32.4	6.3	1.1	3.7
28	授業や給食を通して、食の重要性を学ぶ機会がある。	41.7	39.7	15.8	2.9	－	－	－	－	－
29	通知表は、わかりやすい。	62.4	32.0	3.9	1.7	68.9	26	3.8	1.3	▲ 0.5
30	朝食を食べて登校する。	80.4	12.5	3.6	3.6	81.8	11.0	3.0	4.2	0.0
31	家族と話をする機会が多い。	68.4	25.8	5.3	0.4	70.4	24.0	4.6	1.1	▲ 0.1
32	自分で課題をみつけ、計画を立てて家庭学習をしている。	34.7	36.7	20.9	7.6	36.5	34.0	19.0	10.5	0.9
33	家で学校の授業の予習・復習をしている。	27.0	33.9	26.0	13.2	30.2	34.7	21.7	13.4	▲ 4.1
34	家庭学習でよくタブレットを使っている。	22.0	24.7	30.6	22.7	21.5	22.1	29.8	26.6	3.1
35	学校の授業時間以外に普段（月～金）どれくらいの時間勉強していますか	42.4	27.6	17.5	12.5	40.9	30.3	15.6	13.3	▲ 1.2
36	家や図書館で、普段の日に読書する	17.0	18.5	26.0	38.5	21.3	15.0	23.3	40.3	▲ 0.8

＜保護者アンケート全結果＞（肯定的評価：①＋②）

	令和4年度学校教育自己診断（保護者）	R4				R3				肯定評価の前年比
	保護者	①	②	③	④	①	②	③	④	
1	子どもは、楽しく学校に通っている。	47.3	41.5	9.4	1.8	48.5	42.0	6.5	3.0	▲ 1.7
2	子どもは、学校の授業に積極的に取り組んでいる。	35.7	50.3	11.3	2.7	41.6	47.5	7.7	3.2	▲ 3.1
3	子どもは、クラブ活動に積極的に取り組んでいる。（３年生は、引退まで。無所属は無記入）	53.5	30.4	8.9	7.3	55.4	28.8	9.2	6.6	▲ 0.4
4	子どもは、学校の行事（生徒会行事や宿泊行事など）に積極的に取り組んでいる。	48.4	43.5	7.3	0.9	49.1	40.6	7.9	2.4	2.1
5	子どもは、自分の将来に目標や夢を持っている（考えている）。	23.9	37.4	35.4	3.3	26.9	38.0	29.7	5.5	▲ 3.6
6	子どもは、自分には良いところがあると思っている。	35.3	49.8	14.1	0.7	36.2	52.9	9.9	1.0	▲ 4.0
7	子どもは、頭痛や腹痛など、体調不良を訴えることがよくある。	7.4	15.8	36.6	40.2	10.5	10.3	35.4	43.8	2.4
8	子どもは、イライラすることがよくある。	11.2	25.2	49.5	14.1	10.5	21.4	51.3	16.8	4.5
9	子どもに家庭のルールを守らせたり、社会のマナーについて教えてたりしている。	－	－	－	－	47.9	49.5	2.6	0.0	－
10	子どもは、家庭で、学校のことを話したり、相談したりすることがある。	27.0	44.8	23.6	4.5	31.3	45.1	20.4	3.2	▲ 4.5
11	子どもは、家庭学習（塾を含む）を毎日している。	26.1	29.3	31.3	13.2	33.7	30.3	28.1	7.9	▲ 8.6
12	子どもは、家で自分で計画を立てて勉強をしている。	16.5	30.3	34.5	18.7	23.8	35.4	28.7	12.1	▲ 12.4
13	子どもは、家で、学校の授業の復習をしている。	9.1	25.4	42.1	23.4	－	－	－	－	－
14	先生は、子どもの意見や考えを大切にしている。	20.7	64.6	13.0	1.7	25.1	63.2	9.1	2.6	▲ 3.0
15	先生は、分かりやすい授業づくりに努力している。	15.3	69.7	12.9	2.1	24.4	64.9	9.3	1.4	▲ 4.3
16	学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている。	12.1	66.8	15.4	5.8	23.4	66.7	7.7	2.2	▲ 11.3
17	学校は、生徒指導を適切に行っている。	18.9	66.8	11.5	2.8	27.1	66.3	4.9	1.8	▲ 7.7
18	学校は、命の大切さ、平和の尊さや人権について、適切な指導を行っている。	21.0	68.3	9.3	1.3	－	－	－	－	－
19	学校は、防災等、安全対策に配慮している。	18.7	69.4	10.8	1.1	26.3	63.8	9.1	0.8	▲ 2.0
20	学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている。	15.7	61.6	19.5	3.2	17.2	65.1	15.8	2.0	▲ 5.0
21	通知表は、分かりやすい。	22.1	65.1	10.9	1.8	27.9	61.4	10.1	0.6	▲ 2.1
22	学校は、学校通信・学年通信や、ホームページ・ブログ等を通じて、学校の取組や子どもの様子を発信している。	26.4	60.7	11.4	1.5	31.3	58.8	8.9	1.0	▲ 2.9
23	学校と家庭の連携は、適切である。	21.0	61.9	15.3	1.8	25.9	60.6	11.1	2.4	▲ 3.6
24	家庭では、子どもに手伝いをさせている。	25.7	42.3	28.1	4.0	25.5	41.0	30.5	3.0	1.4
25	学校は、タブレット等のICT機器を使ったわかりやすい授業を行っている。	20.5	64.7	13.6	1.1	21.8	63.6	12.9	1.6	▲ 0.1
26	こどもはタブレットを活用した授業はわかりやすいと思っている。	18.5	62.5	17.0	1.9	18.6	65.5	14.6	1.4	▲ 3.0
27	タブレットを活用した家庭学習が出されている。	12.2	47.2	33.3	7.3	10.3	47.1	36.4	6.3	2.0
28	家庭でスマートフォン使用のルールを決めている。	26.5	38.1	28.3	7.2	31.5	41.2	18.8	6.5	▲ 8.2
29	子どもは、スマートフォン等で一日どれくらいの時間ゲームやSNSなどをしますか。	57.2	27.7	9.1	6.0	45.3	27.9	14.5	11.5	11.7

(19)令和四年度 学校評価報告書

1. 学校教育目標

校　　訓:努力・素直・創造
教 育 目 標:人とふれあい、ともに学び、豊かな心を育む
教 育 方 針:学び合い、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく
〇「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、すべての生徒が社会の中で他者と支え合い自立できるよう、生きる力を育む。
〇自他の命と人権を大切にする心と豊かな感性を育む
〇他者とつながり、理解し合い、支え合うことの出来るコミュニケーション力を養う
めざす学校像:笑顔あふれる学校、学ぶ喜びのある学校、信頼される学校
めざす生徒像:豊かな感性を持ち、自分で考え、判断し、行動できる生徒
・正義を貫ける生徒(ルールを守り、いじめを許さない生徒)
・感謝の心をもつ生徒(ありがとうが言え、人や物を大切にする生徒)
・主体的に行動できる生徒(自らあいさつができ、自ら掃除ができる生徒)

2. 学校経営方針

適切な人間関係づくりを基盤に、自分の生き方を確立するうえで必要な、確かな学力・豊かな感性・健やかな身体を養い、これからの国際社会を主体的に生きる人間の育成を図るため、学校・家庭・地域の教育力の充実に努め、地域の中の学校として、保護者・市民の信託に応える教育を推進する。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本方策	項目	・本年度の重点目標	〇具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める)	□取組内容の自己評価
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	学習指導	・個別最適な学びと協働的な学びの実践 ・ICT機器を活用し、協同学習を中心とした授業改善、学力向上。 ・タテ持ち授業の推進による協働的な授業づくり ・生徒会活動(学習委員会)による主体的な学びの充実 ・家庭学習等における自学自習力の向上(シームレスな学び)・教科部会のさらなる充実 ・支援教育の充実 ・研究授業の充実	〇言語能力の育成に向けたタブレット端末を活用した授業づくりの研究 ◆①「コンピューター等を使った授業はわかりやすい」に対する肯定的回答の維持・向上をめざす。(参考:昨年度 95.6%) 〇生徒会活動(学習委員会)を中心とした全教科共通の「四中メソッド」に基づいた授業づくり ◆②「授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的回答の維持・向上をめざす。(参考:昨年度 98.6%) 〇協働的なタテ持ち授業による教科部会の充実、単元計画の作成と教室掲示 〇特別の教育課程に ICT 機器の有効活用 〇研究授業を含めた相互授業参観の実施	〇言語能力の育成を図るため、「言語活動カード」や「言語能力チェックリスト」を開発・実践し、学識研究者からも高い評価を受けた。 〇時間割内の教科部会や月例の TTP 委員会の開催、また、相互授業参観の取組により、授業づくりの質の向上が図られた。 ①目標達成。:96.7%(昨年度比:+1.1%) ②目標達成:99.1%(昨年度比:+0.5%)
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	人権教育	・生徒の自治能力を伸ばす適正な人間関係づくり ・人権教育の実施 ・生徒会活動(学校行事)の充実 ・小中一貫によるキャリア教育の推進	〇学級経営についての研修会の実施 ◆①学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定的数値について、維持・向上を目指す。(参考:昨年度 90.2%) 〇「人権教育」「特別支援教育」「性の多様性」についての講演会を実施する 〇生徒会を中心とした学校運営・学校行事を実施する	〇職員会議や企画会議を通じて、学校経営や校長のリーダーシップについて、講話。 〇人権教育にかかる講演会は、計画通り実施できた。 〇コロナ禍の制限がある中、工夫して各種行事を実施。保護者から高い評価を得た。 ①目標達成。:90.5%(昨年度比:+0.3%)
教職員の資質と指導力の向上	人材育成	・各分掌部会、各委員会の充実 ・学年会、教科会、生徒指導部会の充実 ・経験の浅い教員への指導、助言の充実 ・その他、校内研修の充実	〇学力向上委員会・ICT委員会・TPT委員会の継続、充実 〇文科省・府教委の指定事業研究報告会を実施する 〇初任者指導教諭を中心に、3年目までの教員への研修を随時実施する	〇各種委員会の主担者を中心に、組織的に運営できた。 〇文科省・府の研究報告では、学校としての取組に高い評価を得た 〇初任期担当が中心となり、学習会を開催。継続性が見いだされたるものとなった。

学びのセーフティネットの構築	生徒指導	・いじめを許さない学校づくりの実践 ・不登校対策の実践 ・成長を促す指導の実施(生徒会活動等による自治能力の育成) ・生徒指導部会を中心とした生徒指導体制の確立 ・枚方市(地域)と連携した「防災教育」 ・地域教育協議会との連携	○正確ないじめ認知と事後対応の継続を徹底する ○不登校生徒一人ひとりの様態の把握と対策の検討を図る ○生徒指導主事を基点とした情報統制及び、関係各位との密な連携のもと、情報共有の徹底を図る。 ◆①「学校のきまりを守っている」の肯定的回答を100%に近づける ○市役所と連携して、全学年、全学級での一斉防災教育を実施する ◆②「学校は安全対策に配慮している」についての保護者の肯定的回答90%以上をめざす ○地域教育協議会や PTA と連携し、校内環境整備を実施する	○様々な生徒指導事案に際しては「報連相」を徹底し、早期解決と事案の重篤化防止が図られた。 ●市役所と連携した防災教育の実施には至らなかった。 ○3 年ぶりに校内清掃を実施。PTA や地域教育協議会との連携強化にもつながった。 ①目標達成。:98.7%(昨年度比:+0.8%) ②目標未達成。:88.1%(昨年度:(-2.0%)

※必要に応じて欄を増やしてください。
※基本方策については、枚方市教育振興基本計画(令和2年9月計画見直し)を参照のこと。
※項目については、文部科学省学校評価ガイドライン(改訂)の内容を参照のこと。

4. 学校教育自己診断の実施状況

学校教育自己診断の結果と分析
①実施時期〔令和4年12月〕 ②対象〔生徒・保護者・教職員〕 ③結果から特記すべき事項と分析 生徒アンケート :学校生活・授業・生徒会活動等のほとんどの項目において、肯定的回答が 90%を超えていた。それに比して、「自己肯定感」にかかる項目では 81.3%、「将来の夢や目標」にかかる項目では、74.4%と、やや低い結果が出た。また、家庭学習については、「予復習をしている」についての肯定的回答が 60.8%、読書にかかる項目では、35.5%と、昨年度の課題をそのまま引きずった形となった。 保護者アンケート:おおむね、学校の取組を評価いただいている結果となった。しかし、昨年に比して特に肯定的数値が落ちたものは、自学自習にかかる項目「子どもは、家で自分で計画を立てて勉強をしている」(肯定値:46. 8、昨年比-12.4%)であり、と、重点課題として浮き彫りになった。

5. 学校評議員制度及び学校関係者評価委員会、学校運営協議会等の運用状況

学校評議員及び保護者、学校運営協議会委員からの意見内容等
<日時 令和5年2月25日> ☑ 協議会形式 □個別 ○氏名 大川 尚子 氏(京都女子大学教授) 小林 一郎 氏(元 PTA 会長・元地域教育協議会会長) 安東 政子 氏(地域住民) 中川 るみ 氏(大阪地方検察庁再犯防止対策室・社会福祉士・保護司) 鴨田 慎司(校長)・畑 克延(教頭) ○意見(協議)を求めた事項 ・令和4年度の取組(修学旅行、生徒会行事、部活動等)について ・学校教育自己診断の結果について ・令和5年度学校経営方針(案)について ○意見の概要 ・各委員より今年度の取組について賛意および評価を受けた。 ・令和5年度の経営方針案に対しても、それぞれの立場からいただいた多角的な意見が取組の裏付けになること、また、後押しとなる賛同を得ることができた。 ・引き続き、家庭、地域との連携を強化するよう助言をいただいた。

6. 次年度に向けて

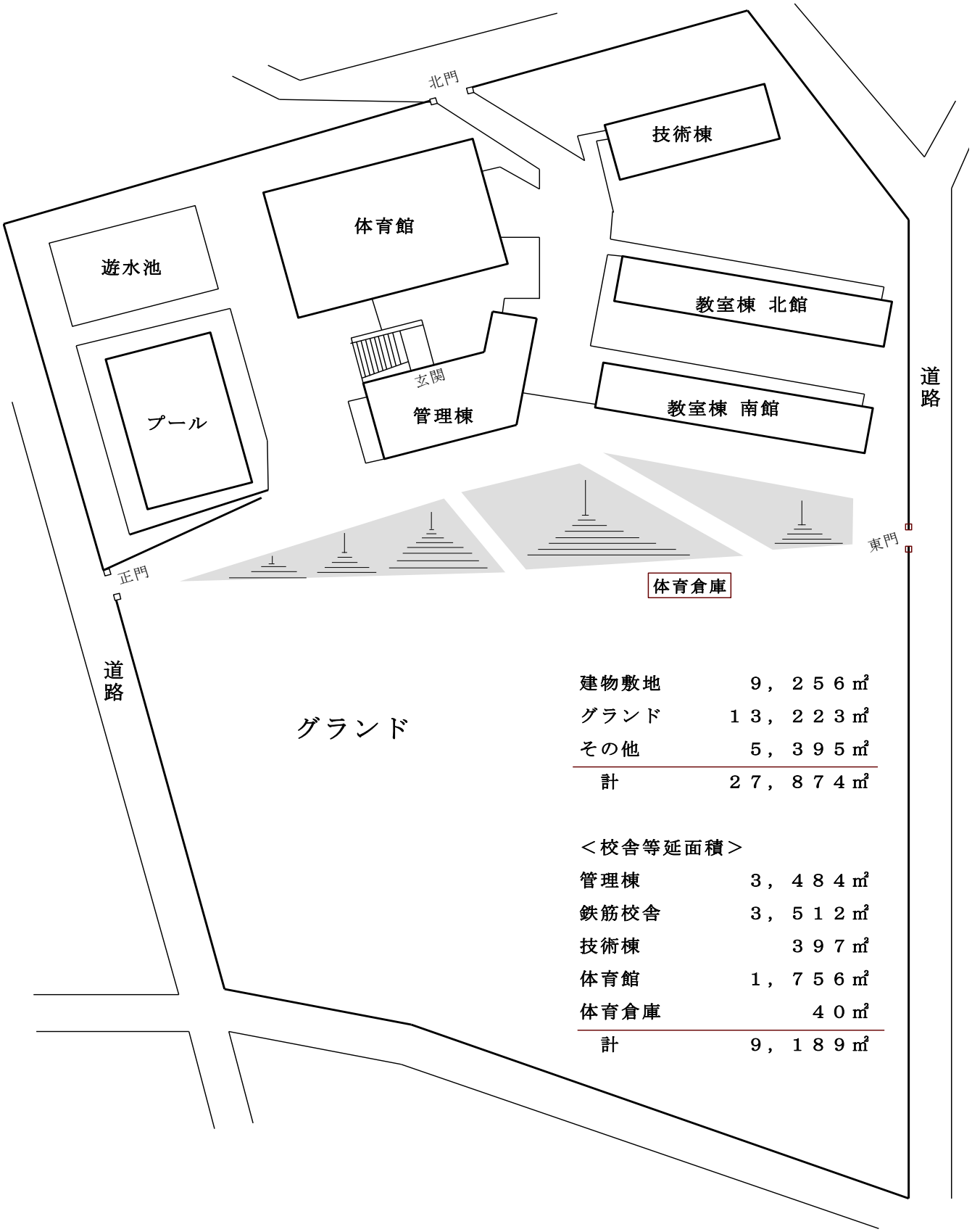
項目	・内容	○改善方策
学習面	○誰一人おいていかない学びの実現 ・授業の改革 ・総合的な学習の時間の充実 ○探究的な学びの創造 ・自学自習力の育成	○学力低位層、要支援、不登校、外国籍生徒への支援 ・共同学習、遠隔地学習、反転学習、教科間コラボ ・市役所・市教委や企業の専門家とのコラボなど）
生徒指導	○安心して過ごすことのできる居場所の確立 ・学級活動、学年活動、異学年活動の充実 ・生徒会活動の活性化 ○自走する組織の構築	・SSTの実施や小中交流の実施など ・生徒主体の運営や生徒発案の取組の実施など
学校体制	・組織的な生徒指導、学習指導のための分掌組織の見直し ・校内研修体制の見直し	・分掌組織の再編（追加・統合等） ・校内研修組織の再編

■添付資料■
①学校評価結果の公表資料（保護者や地域住民等に公表した学校だより等）
②職員会議、校内研修会等、職員を対象に作成した資料
③その他、必要と思われる資料

3. 施設配置・防災計画等

（1） 教室配置図及び避難経路

(2)校地・校舎配置図

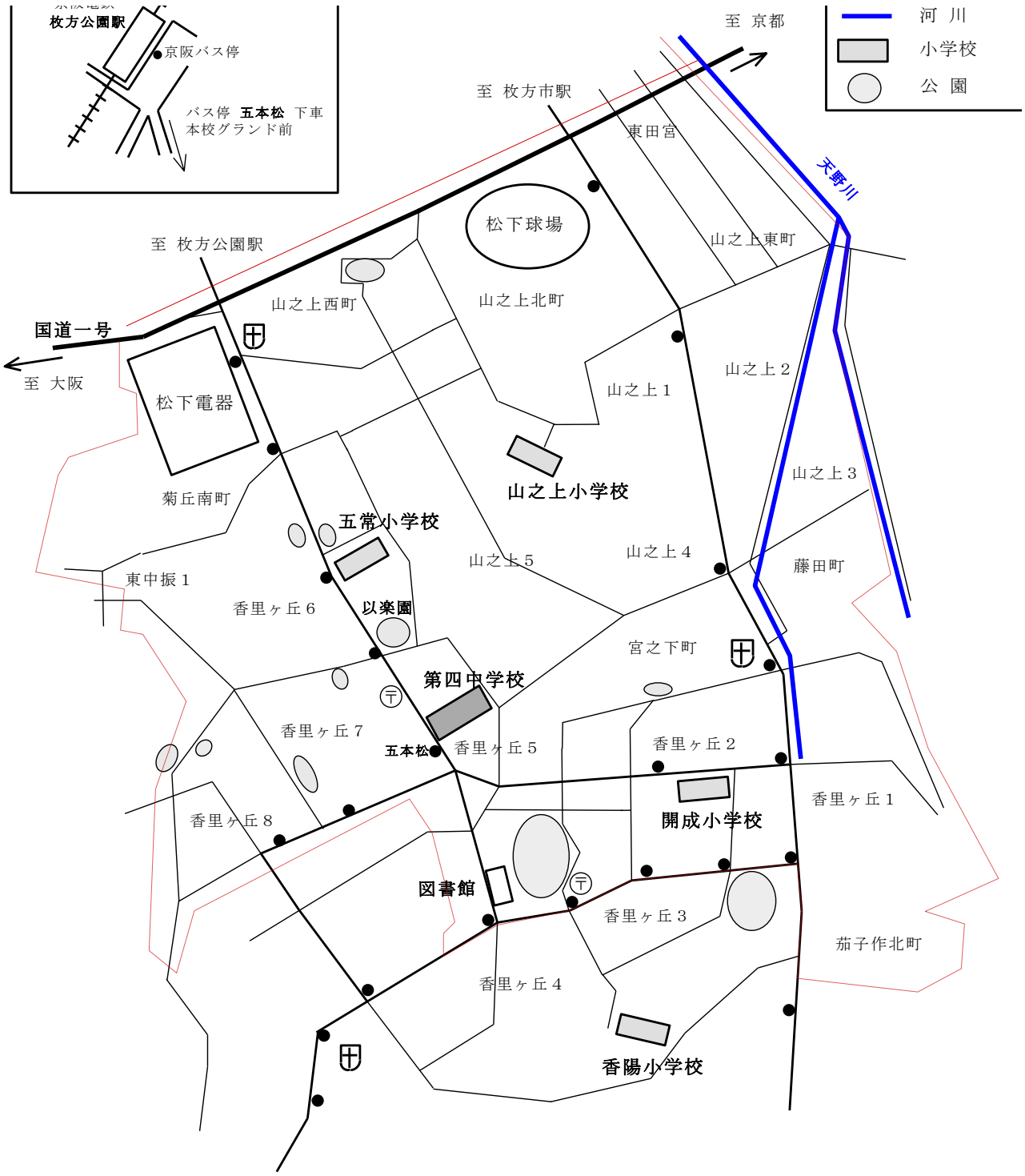


建物敷地	９，２５６㎡
グランド	１３，２２３㎡
その他	５，３９５㎡
計	２７，８７４㎡

＜校舎等延面積＞

管理棟	３，４８４㎡
鉄筋校舎	３，５１２㎡
技術棟	３９７㎡
体育館	１，７５６㎡
体育倉庫	４０㎡
計	９，１８９㎡

(3)校区地図


枚方公園駅
京阪バス停
バス停 五本松 下車
本校グランド前
至 京都
河 川
小学校
公 園
至 枚方市駅
東田宮
天野川
松下球場
至 枚方公園駅
山之上東町
山之上西町
山之上北町
国道一号
至 大阪
山之上２
山之上１
松下電器
山之上３
山之上小学校
菊丘南町
五常小学校
山之上５
山之上４
藤田町
東中振１
香里ヶ丘６
以楽園
宮之下町
第四中学校
香里ヶ丘７
五本松
香里ヶ丘５
香里ヶ丘２
香里ヶ丘１
開成小学校
香里ヶ丘８
図書館
香里ヶ丘３
茄子作北町
香里ヶ丘４
香陽小学校

(4)いじめ未然防止計画

○構成員

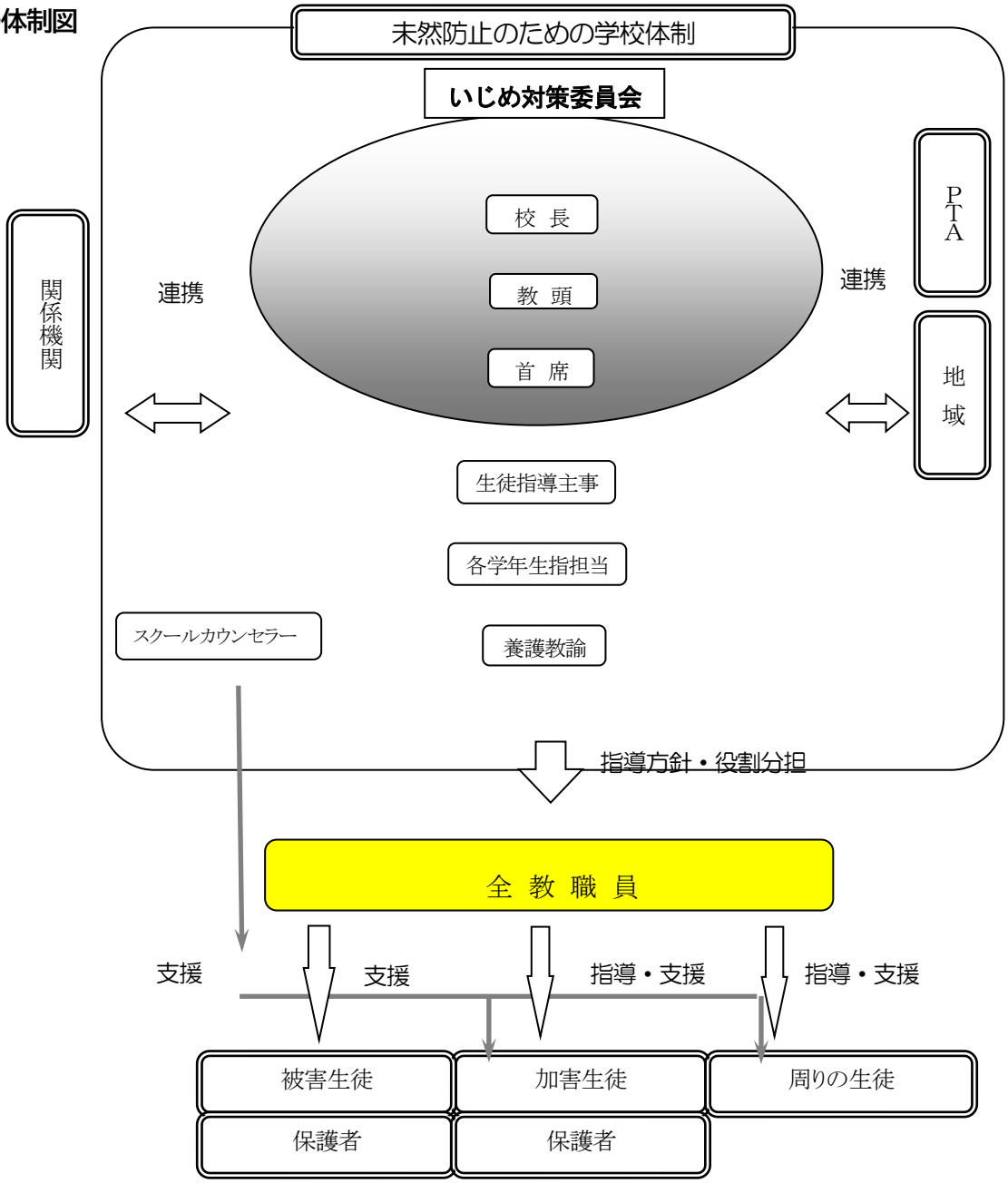
校長、教頭、首席、指導教諭、(こども支援コーディネーター)、生徒指導主事、各学年生徒指導担当者、養護教諭

○主な活動

① いじめの早期発見に関すること
(いじめアンケート、取組評価アンケート、教育相談等)
② いじめ防止に関すること
③ いじめ事案に対する対応に関すること
④ いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめ問題に関する生徒の理解を深めること

○開催 週1回を定例会とし、いじめ事案発生時は緊急開催とする。

○体制図



○緊急対応

いじめ事案発生時には、必要に応じて「いじめ対策委員会」の構成員に次のメンバーを加えて、その対応にあたる。
学年主任、関係教員、支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、その他関係諸機関等の専門家

○年間計画

	1 年	2 年	3 年	教職員・PTA等
4	保護者集会 家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問	状況報告
5	生活アンケート	保護者集会 生活アンケート	保護者集会 生活アンケート	状況報告 アンケート分析
6	教育相談	教育相談	教育相談	「いじめ防止基本方針」見直し
7	交通安全教室 期末懇談	薬物乱用防止教室 期末懇談	非行防止教室 期末懇談	状況報告 夏祭りパトロール

8				夏季研修会
9				状況報告
10	生活アンケート 教育相談	生活アンケート 教育相談	生活アンケート 教育相談	アンケート分析 状況報告
11	SNS講演会	SNS講演会	SNS講演会	状況報告
12	期末懇談	期末懇談	期末懇談	状況報告
1				状況報告
2	生活アンケート	生活アンケート	生活アンケート	アンケート分析 状況報告
3				年間総括

(5)防災計画

＜目　的＞

この計画は火災、風水害、その他突発的な災害発生時において、生徒の安全確保を第一の目的として、更に公共物や諸帳簿等をこれらの災害から保全することを目的とする。

＜方　針＞

防災計画にしたがって、日常における災害予防措置及び災害時の安全保護に重点を置く。

＜火災予防対策＞

A 環境の整備及び改善

①危険物の適正管理

・電源回路の保全　・ガス元栓の確認　・薬品の適正管理

・喫煙場所の安全確認

②消火器の適正配置と定期点検及び消火栓の定期点検

・消防設備の配置図を職員室に明示し、器具は緊急時に使用できる状況にする。

③非常持出し諸帳簿の整理と適正保管

・諸帳簿は校長室の非常持出しロッカーに保管する。

④廊下及びその他の通路の整備

・定期的な非常出口の確保、物品等の整理を行う。

B 防火管理者及び宿日直代行員による校内巡視

C 定期的な総合防災訓練の実施

＜防災管理組織＞

管理権限者　鴨田　　防火管理者　中村た

- 消火用設備等の点検　田中・丸住
- 危険物、可燃物、薬品等の点検　中村た・山崎・大内・井川
- 火気使用設備の点検　高橋・碧山・神田・平山
- 各室火元責任者

施設名	責任者	施設名	責任者
校長室	鴨田	視聴覚室	石田
職員室	中村た	教材室	田中
校務員室・宿直室・作業室	北落	保健室	佐藤
音楽室・同準備室	宇井	パソコン室	阪上
美術室・同準備室	三浦	図書室・閲覧室	綿世
理科室・同準備室	穴田	体育館・同倉庫	岩本

金工室･木工室･同準備室	松澤	プール機械室	川上
被服室･調理室･同準備室	小山	会議室	松野
男子更衣室	橋本	支援教室1	碧山
女子更衣室	山形	支援教室2･3	中村や
印刷室	丸住	支援教室3･4	飯野
心の教室	井手	支援教室5･6	神谷
クラブ室	各クラブ顧問	生徒会室	平山
放送室	井川	普通教室	各担任

＜自衛消防組織＞

自衛消防隊長　鴨田

副隊長　中村

通報・連絡係
- ・消防署通報
- ・校内の通報
- ・各係間の連絡

○田中
○北落
○丸住

避難誘導係
- ・出火時の生徒誘導（出火時の各教科担当）
- ・生徒の安全確認

○教務主任（小山）←

1年	○学年主任（今井）	栗田
2年	○学年主任（山本）	北川
3年	○学年主任（北畑）	諸沢

- ・避難経路の通行整理

○生徒指導主事（井手）
佐々木、飯野、山口、佐藤、大川原、阪上、神谷、
高橋、交河、鎗屋、石田、大内、綿世、奥田、穴田、川上

消火係　○平山、神田、神野、山崎、山形、北山、橋本
- ・初期消火（消火器・消火栓の使用）

防護係　○松澤　井川、宇井
- ・消防活動の障害除去、電気・ガス・危険物の安全措置

支援学級生徒避難係

○碧山、橋本、神谷、阪上、中村や、飯野（支援学級担任）
＜各担任＞

搬出係　○前川　河野、藤本、三浦
- ・重要書類等の搬出

救護係　○佐藤　碧山、飯野
- ・負傷者の応急救護

全教職員を各係に配置しているが、授業中等の災害発生時には
隊長・副隊長が状況を判断して適宜指示する。

＜広域避難場所＞

広域避難場所は、枚方市立五常小学校とする。

各係は○印の指示に従って行動する。

（6）水泳指導時の緊急対応等

＜プールの管理及び使用に関する規則＞

第1条（目的） この規則は、枚方市立第四中学校プール（以下「プール」という。）の管理及び使用に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第2条（使用期間等）

1 プールの使用期間は、水泳部・体育科で判断するが、おおむね毎年5月中に開設し、9月中旬に閉鎖するものとする。ただし、枚方市教育委員会（以下「委員会」という。）が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

2 プールの使用時間は、原則として午前8時30分から午後5時30分までとする。

第3条（維持管理） 校長は、プールを円滑に運営させるため、濾過器の定期的な点検をし、水質管理に努めるなど、適正な維持管理に努めなければならない。

第4条（換水） プールの換水は、事前に委員会に指示された日とする。臨時で給水をしなければならないときは、委員会の承認を得るものとする。排水（水の無い期間）については、枚方消防署に届けるものとする。

第5条（常備品） プールには、管理日誌を置き、必要事項を毎日記入しなければならない。

第6条（使用者） プールを使用できる者は、次のものとする。

（1） 枚方市立第四中学校生徒と中体連等の大会、記録会に参加する生徒並びに指導監督者

（2） 委員会主催による研修会等の参加者及び指導者

（3） 枚方市教育委員会所管に係る財産および公の施設使用規則に基づく、市内の社会教育関係団体で、校長の承諾を得て、委員会が許可したもの

第7条（使用責任者） プールの使用責任者は、前条各号に規定する者のうち、指導又は監督的立場にあるものとする。

第8条（プールの使用）

1 プールの使用に際しては、校長の指示に従わなければならない。

2 使用責任者は、プールの使用が終わったときは、管理日誌に必要事項を記載し、その使用状況を校長に報告しなければならない。

プール使用に関する規則について（使用管理マニュアル）

1. 生徒の安全管理について

生徒の健康状態を常に把握すること・・水泳は、水という環境の中で全身を使い、水温、気温の影響を受けながら展開される運動であるので、生徒の健康状態によっては事故につながりやすいことに留意すること。

指導監督者・・・ ①生徒の健康状態等を水泳の授業を実施するにあたり、養護教諭、担任から情報の収集に努める。
②使用中に体調の不良を訴えた生徒がいた場合は、養護教諭に伝えるとともに担任にも伝え、様子を見る。

養護教諭、担任 ・①プールの使用にあたり配慮を要する生徒の状況等を指導監督者に連絡しておく。
②導監督者から体調不良を訴えた生徒の連絡を受けた場合は、経過観察をするとともに、保護者に連絡を取り適切に対処する。

2. 施設・設備について

排水溝・・・・① プールの使用前には、排水溝の蓋がねじ等でしっかり固定されていることを目視だけでなく触診して確認する.

② 排水溝の吸い込み防止金具がしっかり設置されていることを確認する。

③ ①と②に異常がある場合は、プールの使用を中止し補修に努める。

プールサイド・① 使用開始前には、周辺の整理整頓をする。

② 補修の必要な箇所を発見した場合は、早急の修理に努める。生徒や他の教員に注意喚起する。

浄化装置・・・① プールの使用前には、適切に動いていることを確認する。

② プールに関わるすべての教員に適切な操作が出来るよう努める。

水質管理・・・① 常に水質(水温・塩素濃度・濁度・浮遊物)に注意をし、管理日誌に記入をする。

3. 水泳指導について

① 水温と気温・・プールの使用にあたり、水温・気温・日照ご注意を払い、生徒の健康状態を把握しながら行うこと。

② 準備体操・・・プールの使用する生徒には、十分な準備体操、シャワー等での体の清潔を保たせる。

③ 人員点呼・・・人員点呼は生徒の安全を確認する上での基本と考え、プールの使用前と終了後は必ず行うこと。

④ 入水時間と休憩・生徒の健康状態と水温・気温とを考慮し、入水時間と休憩時間を適切に取ること。

⑤ 監視・・・・プールの使用中は、常に監視をし、異常があれば直ちに全員を水から上げ、適切に対処するとともに、応援を求める。

4. 救助方法と応急手当

①プール使用に関わる教員だけでなく教員は救命講習の受講に努める。

②プールの使用に関わる教員は、AEDの設置場所と使用方法を知り、緊急時に使えるように努める。

この規則は、平成18年4月1日から施行する

プール日常点検リスト

○ 異常なし 点検修理 △ 修理依頼 ×

年 月 日( )

1	出入り口は施錠され、プール内に異常はないか。	
2	管理室は施錠され、薬品類が適切に保管されているか。	
3	シャワー、洗眼用蛇口は破損していないか。	
4	プールサイドは整理整頓されているか。	
5	プール水槽に異物、危険物が混入していないか。	
6	排水溝のふたは固定され、吸い込み金具が取り付けられているか。	
7	浄化装置は正常に動いているか。	
8	水質水量は適切に管理されているか。	
9	生徒の健康状態は把握できているか。	
10	人員点呼を行ったか。	
11	管理日誌に必要事項を書き入れたか	

（7）生徒の安全確保及び安全管理

＜日常の危機管理＞

（1）教職員の共通理解と校内体制

① 毎日不審者情報を確認し、発生事象を職員打合せで周知徹底するとともに、各学級担任が 生徒への注意喚起を行う。

② 毎週1回の生徒指導部会で校区内外の情報交換を行い、各学年の教職員に周知するとともに、迅速に行動できる履き物の着用等、安全管理の意識向上を図る。また緊急時の役割分担を周知徹底し、生徒の安全確保と関係機関や近隣学校園等への連絡体制に万全を期す。

③「子ども安全確保推進月間」等に、不審者対応時の訓練を実施する。

（2）来訪者の確認

① 東門は登校時以外は施錠する。また通常の出入りは正門のみとするが登下校後は閉門する。

② 生徒指導部を中心に日常的な校内巡視を行い、来訪者には挨拶や声かけを励行して来訪の用件を確認する。

③ PTA関係者には名札（入校証ホルダー）を配布して識別可能とする。また参観日等で多数の保護者が来訪する場合は、案内プリントに名札の着用を依頼し、また正門付近に受付を設けて確認する。

＜緊急時の安全確保＞

（1）学校周辺で不審者情報がある場合の対応

① 情報の出所や関連情報を正確に把握して警察に通報するとともに、市教育委員会にも報告する。

② 教職員を招集して情報を周知し、各学級で生徒に注意喚起と、万一の場合の対処方法を指導する。

③ 放課後は複数下校の体制をとり、必要な場合は教職員が付き添って下校させる。

④ 保護者宛に安全確保に関する注意喚起の文書を配布する。

⑤ 緊急の対策が必要な場合は市教育委員会の指導・助言を受けて、学校待機や教職員の引率による集団登下校を行う。

⑥ PTAに学校の対応策を連絡し、登下校の安全確保に協力を要請する。

⑦ 近隣学校園及び地域教育協議会とも情報を提供しあうとともに、生徒の安全確保のための協力体制を協議する。

⑧ 状況により必要な場合は、始業前や放課後に教職員または教職員とPTAの協力で学校 周辺の巡回を行う。

（2）学校に不審者が侵入するなど緊急時の体制

① 不審者を発見者した教職員は直ちに職員室に通報する。不審者が凶器等を持参している場合は、「緊急時の役割分担」によって行動する。ただし、発見者が不審者との対応で即座に通報できない場合は防犯ブザーや非常ベル、 大声等で近くの教職員に緊急事態発生を知らせる。

② **「警察通報係」**は、正門で待機し、警察を現場に誘導する。

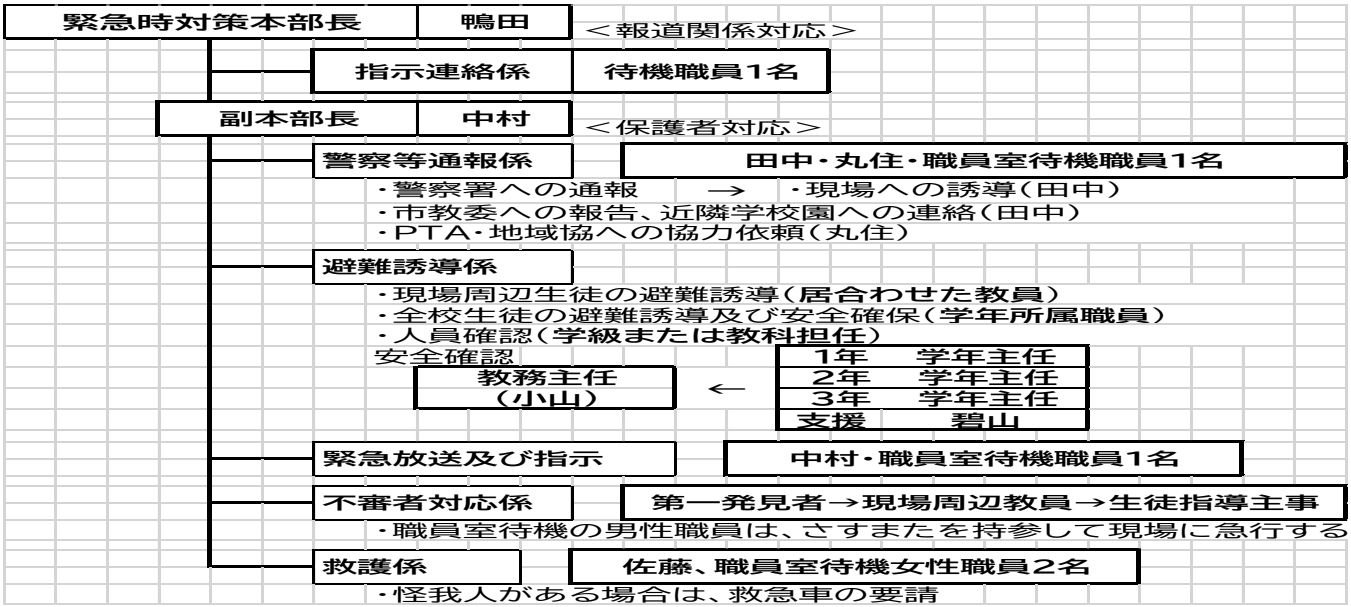
③ **「避難誘導係」**は、先ず現場付近の生徒を安全な場所に避難させる。

（ア）**「不審者対応係」**は、さすまたや周辺の器物等を利用して危険を防御するとともに、不審者による生徒への危害が及ばないように努める。

④ **「緊急放送・指示係」**は、全校生徒の安全確保の指示を行う。

⑤ 「救護係」は、怪我人がある場合の救護にあたり必要に応じて救急車を要請する。

＜緊急時の役割分担＞



※ 状況により校長の指示で役割分担など臨機応変に対応する

＜施設・設備・教具等の安全点検＞

①毎月、定期的に安全点検を実施し、教科・分掌等で破損・腐食等の有無を確認する。

②安全性に問題があると判断した場合は、速やかに使用を停止し、生徒への注意喚起と 改善の措置を行う。

(8)沿革の概要

昭和36年4月 1日　大阪府枚方市立第四中学校創立。
校舎未完成のため枚方市茄子作、川越小学校跡を仮校舎として発足。
昭和36年4月 2日　第1回入学式挙行 新入生539名。
枚方小学校区、枚方第二小学校区、開成小学校区、香里小学校区の香里団地地区を第四中学校区とする。
同日、第一中学校に通学する第2学年の内、枚方小学校区、枚方第二小学校区、開成小学校区の内、茄子作、村野、山之上地区の生徒320名を収容。
昭和36年 6月10日　枚方市香里ヶ丘5丁目233番地の1に新校舎完成、同日移転、
1期工事普通教室鉄筋3階建18教室、仮管理棟木造平屋建90坪。
昭和36年 6月11日　新校舎で授業開始。
昭和37年 4月 1日　第2期工事の内、体育館完成。
昭和37年 4月 2日　第2回入学式挙行 新入生484名。
昭和37年 4月 8日　第2期工事の内、南館12教室完成。
昭和37年 6月26日　第3期工事、管理棟、特別教室完成。
昭和37年 7月14日　市教育委員会主催、枚方市立第四中学校落成式。
昭和38年 3月10日　本校校区に五常小学校開校。
昭和38年 4月 4日　仮管理棟を技術科教室に改装。
昭和38年 6月10日　第1期工事完成日を創立記念日として本年より実施。
昭和39年 4月 1日　本校校区に桜丘小学校開校。
昭和39年 4月 8日　南館に隣接して4教室完成。
昭和39年 7月12日　管理棟西側にプール完成、プール開き開催。
昭和40年 9月27日　東館3階に2教室完成。
昭和41年 4月 1日　本校校区に春日小学校開校。
昭和41年10月 1日　創立5周年記念式典。
昭和44年 4月 1日　本校校区に山之上小学校開校。
昭和45年 2月28日　グランド排水工事完了。
昭和45年 4月 1日　枚方中学校開校により枚方小学校区、枚方第二小学校区を本校より分離。
昭和46年11月 1日　中宮中学校開校により桜丘小学校の内、池之宮地区を本校より分離。
昭和46年 4月 1日　本校校区に香陽小学校開校。
昭和46年11月16日　創立10周年記念式典(枚方市民会館大ホール)
昭和49年 4月 1日　村野中学校開校により桜丘小学校区、開成小学校区の内、香里ヶ丘1丁目、
山之上小学校区の内、東田宮2丁目、山之上東町、山之上2丁目、
山之上3丁目、藤田町、東藤田町、春日小学校区の内、釈尊寺町本校より分離。
昭和53年 4月 1日　東香里中学校開校により春日小学校区、香陽小学校区の内、香里ヶ丘11丁目、
香里ヶ丘12丁目、東香里3丁目、東香里新町を本校より分離。
昭和54年 4月 1日　蹉跎東小学校区の内公団中振団地を本校に加える。
昭和56年11月 1日　創立20周年記念式典。
昭和59年 4月 1日　蹉跎東小学校区の公団中振団地の新入生より蹉跎中学校へ。

平成2年　7月30日　管理棟改築のため仮設教室設置。
平成4年　3月28日　新管理棟竣工。
平成4年　3月14日　創立30周年記念、新管理棟竣工記念式典。
平成6年　2月21日　新体育館竣工。
平成9年 10月24日　文部省研究指定(コンピュータ)、研究発表
平成13年 4月 1日　村野中学校との統合により開成小学校区の香里ヶ丘1丁目、山之上小学校区の
藤田町、山之上2・3丁目、山之上東町、東田宮2丁目を通学区域に変更。

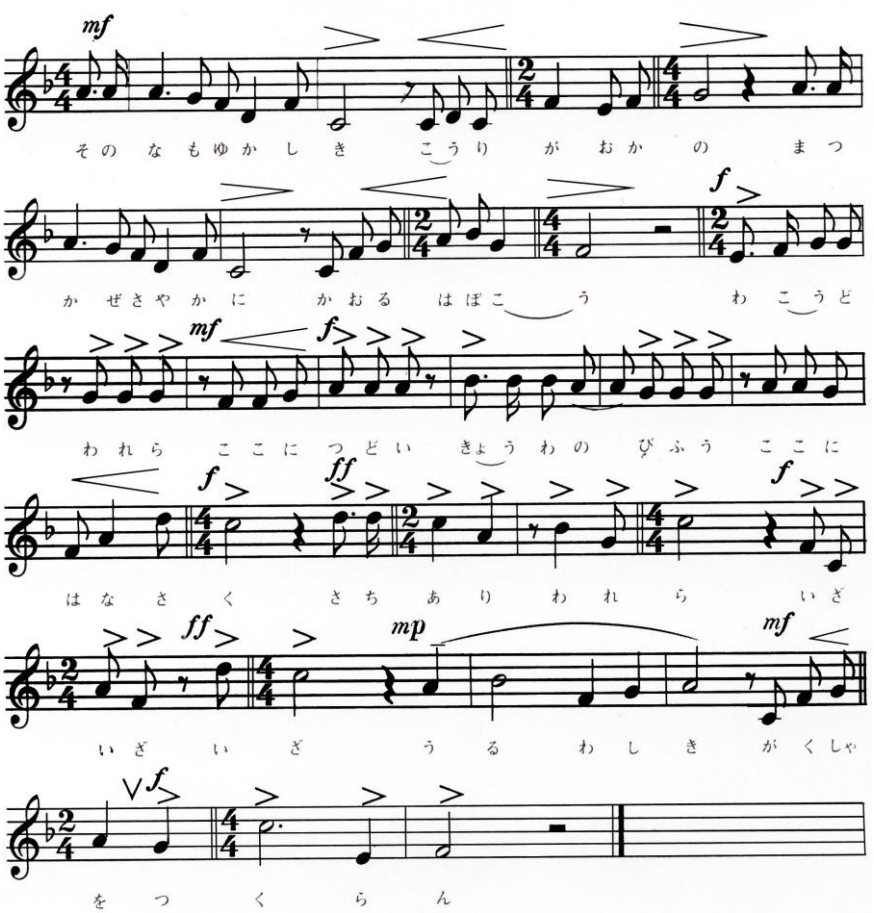
平成13年8月1～3日　枚方市立第四中学校上海交流団（27名）派遣
平成13年10月31日　文部科学省研究指定（人権教育）、研究発表
平成14年10月30日　フランス　パッサカイユ弦楽団（26名）歓迎交流会
平成15年12月　3日　中国上海市長寧区第8次教育考察団（5名）歓迎
平成16年　4月　1日　通学区域の弾力化により第1学年が1学級増加
平成16年　9月24日　中国上海市長寧区及びオーストラリア　ローガン市青年音楽団　歓迎
平成16年10月13日　デンマーク　バイエン市より教育視察団が来校
平成17年8月1～8日　枚方市立第四中学校教育交流団がオーストラリアローガン市を視察訪問
平成21年　2月　普通教室空調設備完成
平成21年　3月　プールの改修工事完了
平成21年　4月　1日　香里小学校区の香里ヶ丘4丁目17・18番地、香里ヶ丘9丁目を第二中学校の通学区域に変更。五常小学校区の東中振2丁目20番を本校の通学区域に変更。
平成22年　4月　1日　香陽小学校区の香里ヶ丘3丁目（2～9番地）、香里ヶ丘4丁目（1，2，17・18 番地は除く）を東香里中学校の通学区域に変更。
平成23年11月　5日　創立50周年記念式典
平成28年　4月　小中一貫事業開始
平成29年12月　1日　四中フォーラム開催
令和　2年12月　4日　タブレット研究指定報告会

歴代校長

初代	金治	勇	昭和36年4月1日より昭和40年3月31日まで
二代	北牧	一雄	昭和40年4月1日より昭和48年3月31日まで
三代	加地	嘉三	昭和48年4月1日より昭和50年3月31日まで
四代	阪本	治郎	昭和50年4月1日より昭和54年3月31日まで
五代	入江	幸男	昭和54年4月1日より昭和56年3月5日死去により退任
六代	藤田	篤	昭和56年4月1日より昭和58年3月31日まで
七代	伊田	巧	昭和58年4月1日より昭和63年3月31日まで
八代	中野	一雄	昭和63年4月1日より平成元年3月31日まで
九代	木南	勲	平成元年4月1日より平成5年3月31日まで
十代	小原	徹也	平成5年4月1日より平成9年3月31日まで
十一代	村田	悟郎	平成9年4月1日より平成12年3月31日まで
十二代	池田	利貞	平成12年4月1日より平成18年3月31日まで
十三代	坂井	泉	平成18年4月1日より平成20年3月31日まで
十四代	髙橋	弘	平成20年4月1日より平成26年3月31日まで
十五代	岩谷	誠	平成26年4月1日より平成30年3月31日まで
十六代	大西	勝徳	平成30年4月1日より令和2年3月31日まで
十七代	鶴島	茂樹	令和2年4月1日着任

校　歌

作詞 金治　勇
作曲 石桁 真礼生



一、その名もゆかしき　香里が丘の
松風さやかに　かおるは母校
若人われら　ここに集い
協和の美風　ここにはなさく
幸あり　われら
いざ　うるわしき学舎をつくらん

二、洋々つきせぬ　大淀川の
清き流れに　映ゆるは母校
若人われら　ここに集い
久遠の理想　ここに輝やく
幸あり　われら
いざ　新しき日本を興さん

三、青空遙かに　生駒の峰を
朝夕仰ぎて　たてるは母校
若人われら　ここに集い
不抜の精神　ここに培う
幸あり　われら
いざ　大いなる世界を拓かん